

岩手県文化財調査報告書第111集  
平泉遺跡群発掘調査報告書

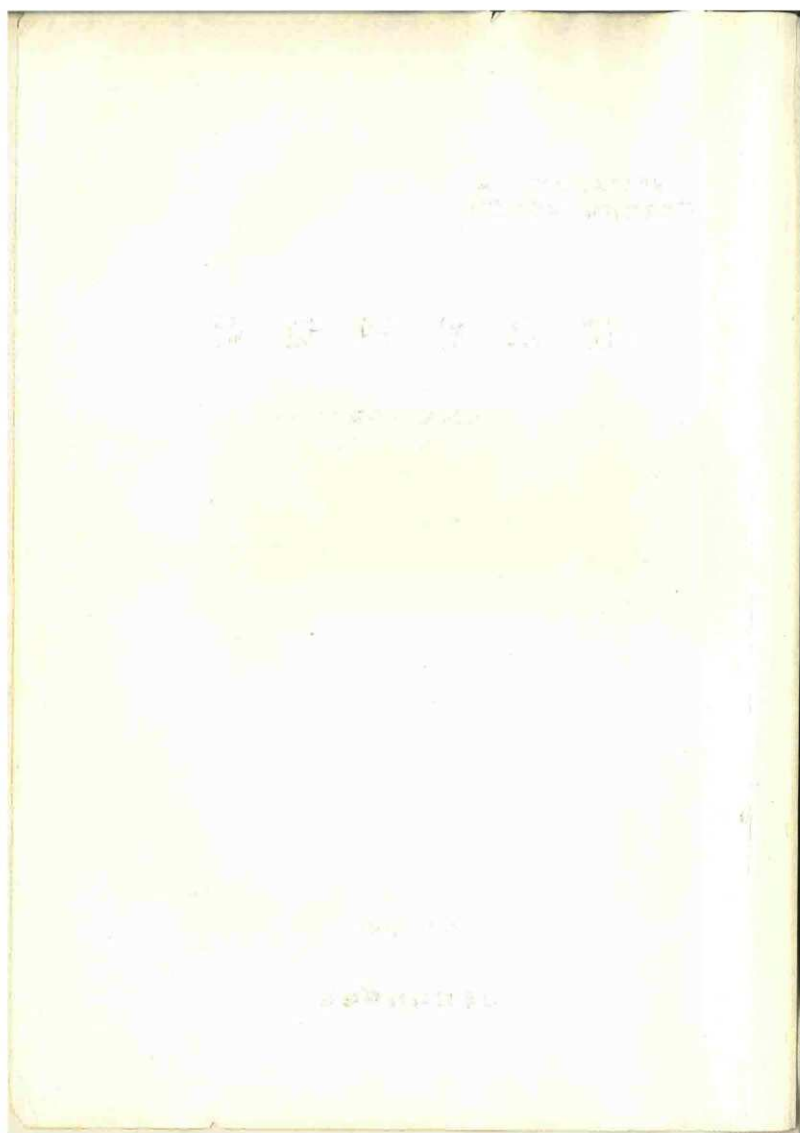
# 柳之御所遺跡

—— 第52次発掘調査概報 ——



平成13年3月

岩手県教育委員会



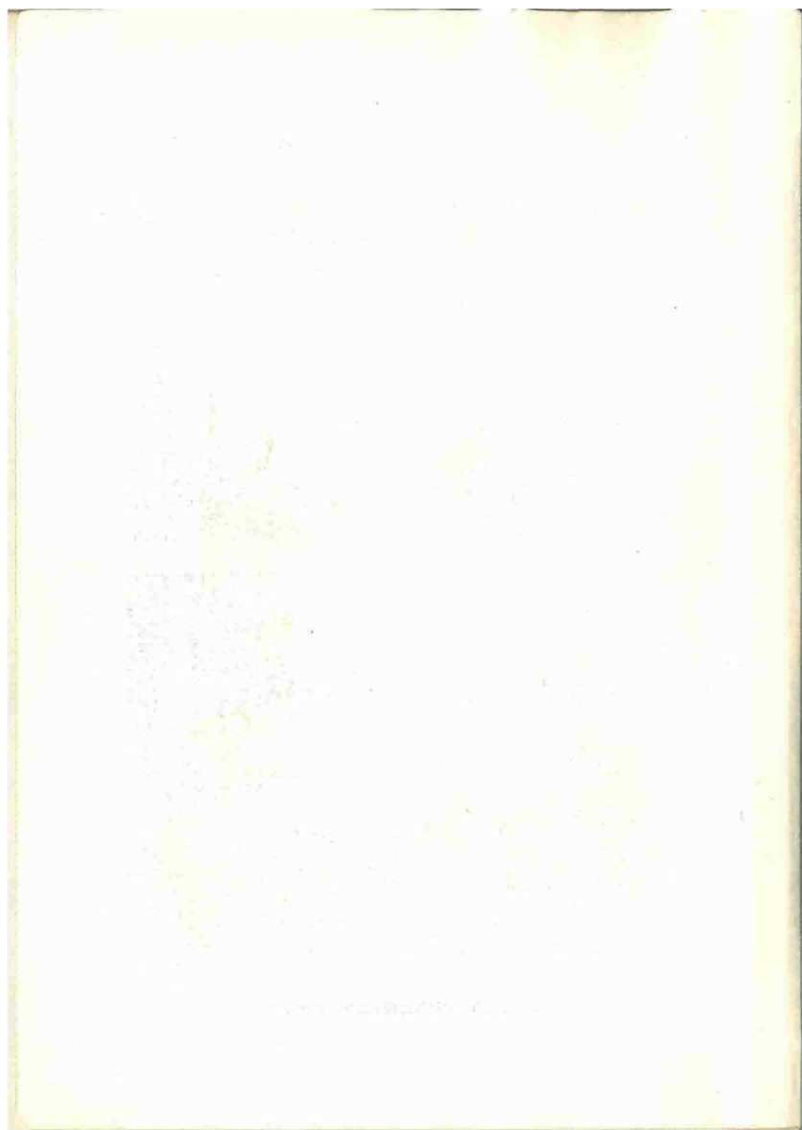
岩手県文化財調査報告書第111集  
平泉遺跡群発掘調査報告書

# 柳之御所遺跡

—— 第52次発掘調査概報 ——

平成13年3月

岩手県教育委員会





52S E10 井戸状遺構出土木一括土器



櫛



簪

52SE8 井戸状遺構出土木製品

## 序 言

平泉町に所在する柳之御所遺跡は、12世紀北方の王者として繁栄を誇った奥州藤原氏の残した遺跡であり、古から先人先学がこの地を訪れ往時の栄華に思いをはせた地であります。

本遺跡は、一級河川北上川上流改修一閑遊水地事業及び国道4号改修平泉バイパス建設にともない、昭和63年より(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会により事業予定地内の緊急発掘調査が実施されました。調査の進行にともない、大規模な掘立柱建物跡・園池跡・井戸跡・堀跡が発見され、またおびただしい量のかわけ・墨画資料・各種木製品など質量ともに内容豊かな遺物が出土しました。これらの遺構・遺物は、12世紀後半、特に奥州藤原氏三代秀衡との関連が強く、本遺跡が「吾妻鏡」にみられる「平泉館」であるとの考えが多くの歴史家から指摘されているところであります。

このような経過のなかで、遺跡に対する建設省のひとかたならぬ御理解により、平成5年には保存が決定し、平成9年3月には「柳之御所遺跡」として国の史跡に指定されました。

県では、本遺跡が国民共有の貴重な財産であるとの認識から、この遺跡を後世に伝えるとともに広く活用されることを願い、将来的には史跡公園として整備し、平泉文化を全国に発信してまいりたいと考え、平成10年度より本格的な発掘調査を実施し、本年度は第1次3ヵ年計画の最終年度となります。

本年度の調査では、園池の北側に新たに大規模な建物の存在が明らかとなり、柳之御所遺跡の中核施設の移動が想定されるようになってきました。また、初代清衡の時代である12世紀初め頃のかわけがまとまって発見され、柳之御所遺跡の年代がこの時期まで遡ることが確認されました。これは、柳之御所遺跡の開始年代と遺跡の性格、ひいては平泉奥州藤原氏の設立期の問題を考える上で非常に大きな問題を示唆しております。同時に平成12年11月には、「平泉の文化遺産」が世界遺産の暫定リストに追加登録され、今後の発掘調査、整備等に向け大きな弾みとなりました。

本報告書は、平成12年度第52次発掘調査成果をまとめたものであり、本書がいかばかりなりとも文化財保護と平泉研究発展の一助となれば幸いと存じます。

調査の実施と報告書作成に当たり、御指導御助言賜りました、柳之御所遺跡調査研究指導委員会の諸先生方、文化庁記念物課、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、平泉町教育委員会、国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所をはじめ関係各位の皆様へ深く感謝申し上げます。

平成13年3月

岩手県教育委員会

教育長 合 田 武

## 例 言

1. 本書は、岩手県教育委員会が平成12年度に実施した柳之御所遺跡整備調査事業に係る、史跡柳之御所遺跡の発掘調査の概要報告である。本事業は、文化庁の国庫補助金の交付を受けて実施したものである。
2. 本事業は、岩手県教育委員会事務局文化課が主体となり、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターとの協力を得て実施した。

<岩手県教育委員会事務局文化課>

文化課長 伊藤 学司  
課長補佐 小田野 哲憲  
主任文化財主査 中村 英俊  
柳之御所調査主査 斎藤 邦雄 (担当)  
文化財専門員 佐々木 務 (担当)

<(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター>

所長 伊藤 民也  
調査第一課長 佐々木 勝  
文化財専門員 羽柴 直人 (担当)

3. 遺構の呼称は、平成63年度に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した調査時の方法に準拠し、下記の略称を使用した。遺構名の記載については遺構略号の前に調査次数を付してある。なお、複数年次にわたる調査で明らかに同一と認定される遺構については当初の調査時の遺構名を継続して使用した。

SA: 竈・柱列 SB: 掘立柱建物 SC: 道路状遺構 SD: 溝・堀 SE: 井戸・井戸状遺構  
SG: 遺地 SK: 土坑・柱穴の一部 SX: その他 SI: 堅穴住居 P: 柱穴

例: 52SB1 第52次調査の第1号掘立柱建物跡

4. 図版、写真図版、遺物観察表中の遺物番号は共通である。遺物の実測図については一部を除いて1/3を基本にしておりスケールを図中に示した。遺構遺物写真については縮尺は不定である。
5. 調査成果の一部については、柳之御所遺跡調査研究指導委員会等で公表してきたが、本書の内容が優先するものである。
6. 第V章の「柳之御所遺跡出土銅印の素材について」については国立歴史民俗博物館の永嶋正春氏、木製品の樹種同定については、バリノ・サーヴェイ株式会社と釜石文化財保存処理センターの御協力により実施したものである。また、一部出土木製品の年輪年代測定については、光谷拓夫氏(奈良国立文化財研究所)の御協力により実施したものである。なお、今回理化学的分析を行った銅印は、平成11年度第50次調査で出土したものであり、詳細については柳之御所遺跡第50次発掘調査概報(2000年:岩手県教育委員会編)で既に報告済みである。
7. 遺構の埋土観察、遺物の色調観察は、「新版標準土色帖」を参考にした。
8. 鉄製品の保存処理については、岩手県立博物館の協力を得た。
9. 後述する「柳之御所遺跡調査研究指導委員会」の委員の方々をはじめとして、下記の方々・機関の御協力を得た。(順不同:敬称略)  
国立歴史民俗博物館 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 岩手県立博物館 平泉町教育委員会 平泉町文化財センター 柳之御所資料館 福島大学 (財)水沢市埋蔵文化財センター 鎌倉考古学研究所 奈良国立文化財研究所
10. 本事業に係る調査で得られた諸記録及び出土遺物は、岩手県教育委員会が保管している。



# 目次

## 表紙写真

52SB25

## 巻頭カラー

52SE10井戸状遺構出土一括土器

52SE8井戸状遺構出土木製品(構・扇)

## 序言

## 例言

## 本文目次

|            |    |                      |     |
|------------|----|----------------------|-----|
| 第I章 はじめに   | 1  | 4 瓦                  | 86  |
| 第II章 検出遺構  | 5  | 5 近世陶磁器              | 95  |
| 1 建物       | 5  | 6 木製品                | 98  |
| 2 井戸状遺構    | 24 | 7 その他の遺物             | 120 |
| 3 土坑       | 30 | 第IV章 まとめ             | 147 |
| 4 竅穴遺構     | 39 | 1 遺構                 | 147 |
| 5 溝        | 41 | 2 遺物                 | 148 |
| 6 塀        | 44 | 3 まとめ                | 150 |
| 第III章 出土遺物 | 48 | 第V章 付属               | 151 |
| 1 かむらけ     | 48 | 1 柳之御所遺跡出土銅印の素材について  | 151 |
| 2 国産陶器     | 70 | 2 柳之御所遺跡から出土した木製品の樹種 | 153 |
| 3 中国産陶磁器   | 81 |                      |     |

## 図版目次

|                                     |       |                              |    |
|-------------------------------------|-------|------------------------------|----|
| 第1図 掘立柱建物(1)(52SB1・2)               | 9     | 第18図 土坑(1)(52SK1~4)          | 33 |
| 第2図 掘立柱建物(2)(52SB3・4)               | 10    | 第19図 土坑(2)(52SK5~10)         | 34 |
| 第3図 掘立柱建物(3)(52SB5・6)               | 11    | 第20図 土坑(3)(52SK11~17)        | 35 |
| 第4図 掘立柱建物(4)(52SB7~10)              | 12    | 第21図 土坑(4)(52SK18~25)        | 36 |
| 第5図 掘立柱建物(5)(52SB11~13)             | 13    | 第22図 土坑(5)(52SK26~31)        | 37 |
| 第6図 掘立柱建物(6)(52SB14・15)             | 14    | 第23図 土坑(6)(52SK32~39)        | 38 |
| 第7図 掘立柱建物(7)(52SB16・17)             | 15    | 第24図 竅穴遺構(52SI1・2)           | 40 |
| 第8図 掘立柱建物(8)(52SB18・19)             | 16    | 第25図 溝断面(1)(52SD1~16)        | 45 |
| 第9図 掘立柱建物(9)(52SB20・21)             | 17    | 第26図 溝断面(2)(52SD17~25・27~32) | 46 |
| 第10図 掘立柱建物(10)(52SB22~24)           | 18    | 第27図 溝断面(52SA1・2)            | 47 |
| 第11図 掘立柱建物(11)(52SB25)              | 19・20 | 第28図 52SE1出土かむらけ             | 49 |
| 第12図 掘立柱建物(12)(52SB25柱穴)            | 21    | 第29図 52SE7・2層出土かむらけ(1)       | 50 |
| 第13図 掘立柱建物(13)<br>(52SB25柱穴・52SB26) | 22    | 第30図 52SE7・2層出土かむらけ(2)       | 51 |
| 第14図 柱列(52柱列1~6)                    | 23    | 第31図 52SE7・2層出土かむらけ(3)       | 52 |
| 第15図 井戸状遺構(1)(52SE1~4)              | 27    | 第32図 52SE7・2層出土かむらけ(4)       | 53 |
| 第16図 井戸状遺構(2)(52SE5~7)              | 28    | 第33図 52SE7・2層出土かむらけ(5)       | 54 |
| 第17図 井戸状遺構(3)(52SE8~10)             | 29    | 第34図 52SE8出土かむらけ(1)          | 55 |

|      |                      |    |      |                   |     |
|------|----------------------|----|------|-------------------|-----|
| 第35図 | 52SE8出土かわらけ(2)       | 56 | 第66図 | 瓦(4)              | 90  |
| 第36図 | 52SE8出土かわらけ(3)       | 57 | 第67図 | 瓦(5)              | 91  |
| 第37図 | 52SE8出土かわらけ(4)       | 58 | 第68図 | 瓦(6)              | 92  |
| 第38図 | 52SE8出土かわらけ(5)       | 59 | 第69図 | 瓦(7)              | 93  |
| 第39図 | 52SE8出土かわらけ(6)       | 60 | 第70図 | 瓦(8)              | 94  |
| 第40図 | 52SE9出土かわらけ(1)       | 61 | 第71図 | 瓦(9)              | 95  |
| 第41図 | 52SE9出土かわらけ(2)       | 62 | 第72図 | 近世陶器(1)           | 96  |
| 第42図 | 52SE10出土かわらけ(1)      | 63 | 第73図 | 近世陶器(2)           | 97  |
| 第43図 | 52SE10出土かわらけ(2)      | 64 | 第74図 | 52SE8出土木製品(1)     | 99  |
| 第44図 | 52SE10出土かわらけ(3)      | 65 | 第75図 | 52SE8出土木製品(2)     | 101 |
| 第45図 | 52SE10出土かわらけ(4)      | 66 | 第76図 | 52SE8出土木製品(3)     | 102 |
| 第46図 | 土坑出土かわらけ(1)          | 67 | 第77図 | 52SE8出土木製品(4)     | 103 |
| 第47図 | 土坑出土かわらけ(2)          | 68 | 第78図 | 52SE8出土木製品(5)     | 104 |
| 第48図 | 土坑出土かわらけ(3)          |    | 第79図 | 52SE8出土木製品(6)     | 105 |
|      | 溝出土かわらけ(1)           | 69 | 第80図 | 52SE8出土木製品(7)     | 106 |
| 第49図 | 溝出土かわらけ(2)・遺構外出土かわらけ | 70 | 第81図 | 52SE8出土木製品(8)     | 107 |
| 第50図 | 常滑産陶器(1)             | 72 | 第82図 | 52SE8出土木製品(9)     | 108 |
| 第51図 | 常滑産陶器(2)             | 73 | 第83図 | 52SE8出土木製品(10)    | 109 |
| 第52図 | 常滑産陶器(3)             | 74 | 第84図 | 52SE8出土木製品(11)    | 110 |
| 第53図 | 渥美産陶器(1)             | 75 | 第85図 | 52SE8出土木製品(12)    | 111 |
| 第54図 | 渥美産陶器(2)             | 76 | 第86図 | 52SE8出土木製品(13)    | 112 |
| 第55図 | 渥美産陶器(3)             | 77 | 第87図 | 52SE8出土木製品(14)    | 113 |
| 第56図 | 須恵器系陶器(1)            | 78 | 第88図 | 52SE8出土木製品(15)    | 114 |
| 第57図 | 須恵器系陶器(2)            | 79 | 第89図 | 52SE8出土木製品(16)    | 115 |
| 第58図 | 須恵器系陶器(3)・水沼産陶器      | 80 | 第90図 | 52SE8出土木製品(17)    | 116 |
| 第59図 | 中国産磁器(1)             | 82 | 第91図 | 52SE1・2・9・10出土木製品 | 117 |
| 第60図 | 中国産磁器(2)             | 83 | 第92図 | 52SK10・11出土木製品    | 118 |
| 第61図 | 中国産磁器(3)             | 84 | 第93図 | 52SK24・他遺構出土木製品   | 119 |
| 第62図 | 中国産磁器(4)             | 85 | 第94図 | 52SE8出土「穴あき石」     | 121 |
| 第63図 | 瓦(1)                 | 87 | 第95図 | 石製品・金属製品他         | 122 |
| 第64図 | 瓦(2)                 | 88 | 第96図 | 札                 | 123 |
| 第65図 | 瓦(3)                 | 89 | 第97図 | 墨書資料              | 123 |

## 写真図版目次

|       |                |     |        |              |     |
|-------|----------------|-----|--------|--------------|-----|
| 写真図版1 | 柳之御所遺跡第52次調査全景 | 163 | 写真図版10 | 52SB(3)      | 172 |
| 写真図版2 | 航空写真           | 164 | 写真図版11 | 52SB(4)      | 173 |
| 写真図版3 | 52SB25・道路遺構    | 165 | 写真図版12 | 52SB(5)      | 174 |
| 写真図版4 | 航空写真           | 166 | 写真図版13 | 52SB(6)      | 175 |
| 写真図版5 | 52SB1~8        | 167 | 写真図版14 | 52SB(7)      | 176 |
| 写真図版6 | 52SB9~16       | 168 | 写真図版15 | 52SB(8)      | 177 |
| 写真図版7 | 52SB17~23      | 169 | 写真図版16 | 52SB(9)      | 178 |
| 写真図版8 | 52SB25(1)      | 170 | 写真図版17 | 52SB26・柱列2~5 | 179 |
| 写真図版9 | 52SB25(2)      | 171 | 写真図版18 | 52SE1        | 180 |

|        |                   |              |        |            |                |                |     |
|--------|-------------------|--------------|--------|------------|----------------|----------------|-----|
| 写真図版19 | 52S E 2~6         | 181          | 写真図版63 | 国産陶器 (3)   | 1041~1056      | 225            |     |
| 写真図版20 | 52S E 7           | 182          | 写真図版64 | 国産陶器 (4)   | 1057~1069      | 226            |     |
| 写真図版21 | 52S E 8 (1)       | 183          | 写真図版65 | 国産陶器 (5)   | 1070~1083      | 227            |     |
| 写真図版22 | 52S E 8 (2)       | 184          | 写真図版66 | 国産陶器 (6)   | 1084~1099      | 228            |     |
| 写真図版23 | 52S E 9           | 185          | 写真図版67 | 国産陶器 (7)   | 1100~1114      | 229            |     |
| 写真図版24 | 52S E 10          | 186          | 写真図版68 | 国産陶器 (8)   | 1113~1115~1123 | 230            |     |
| 写真図版25 | 52S K 1~5         | 187          | 写真図版69 | 国産陶器 (9)   | 1124~1142      | 231            |     |
| 写真図版26 | 52S K 6~9         | 188          | 写真図版70 | 中国産陶磁器 (1) | 2001~2031      | 232            |     |
| 写真図版27 | 52S K 10~11       | 189          | 写真図版71 | 中国産陶磁器 (2) | 2032~2063      | 233            |     |
| 写真図版28 | 52S K 12~14       | 190          | 写真図版72 | 中国産陶磁器 (3) | 2064~2090      | 234            |     |
| 写真図版29 | 52S K 14~17       | 191          | 写真図版73 | 中国産陶磁器 (4) | 2091~2105      | 235            |     |
| 写真図版30 | 52S K 18~21       | 192          | 写真図版74 | 瓦 (1)      | 3001~3013      | 236            |     |
| 写真図版31 | 52S K 22·23·25·26 | 193          | 写真図版75 | 瓦 (2)      | 3014~3026      | 237            |     |
| 写真図版32 | 52S K 24          | 194          | 写真図版76 | 瓦 (3)      | 3027~3035      | 238            |     |
| 写真図版33 | 52S K 27~30       | 195          | 写真図版77 | 瓦 (4)      | 3036~3044      | 239            |     |
| 写真図版34 | 52S K 31~33       | 196          | 写真図版78 | 瓦 (5)      | 3045~3054      | 240            |     |
| 写真図版35 | 52S K 34~37       | 197          | 写真図版79 | 瓦 (6)      | 3055~3065      | 241            |     |
| 写真図版36 | 52S K 38·39       | 52S I 1·2    | 198    | 写真図版80     | 近世陶磁器 (1)      | 4001~4023      | 242 |
| 写真図版37 | 52S D 1~5         | 199          | 写真図版81 | 近世陶磁器 (2)  | 4024~4050      | 243            |     |
| 写真図版38 | 52S D 4~6         | 200          | 写真図版82 | 木製品 (1)    | 5001~5009      | 244            |     |
| 写真図版39 | 52S D 7~9         | 201          | 写真図版83 | 木製品 (2)    | 5010~5012      | 245            |     |
| 写真図版40 | 52S D 10~12       | 202          | 写真図版84 | 木製品 (3)    | 5013~5016      | 246            |     |
| 写真図版41 | 52S D 13~16       | 203          | 写真図版85 | 木製品 (4)    | 5017~5022      | 247            |     |
| 写真図版42 | 52S D 16~20       | 204          | 写真図版86 | 木製品 (5)    | 5020~5023~5025 | 248            |     |
| 写真図版43 | 52S D 20~25       | 205          | 写真図版87 | 木製品 (6)    | 5026~5033      | 249            |     |
| 写真図版44 | 52S D 26          | 206          | 写真図版88 | 木製品 (7)    | 5034~5044      | 250            |     |
| 写真図版45 | 52S D 26~28       | 207          | 写真図版89 | 木製品 (8)    | 5045~5050      | 251            |     |
| 写真図版46 | 52S D 29~30       | 208          | 写真図版90 | 木製品 (9)    | 5051~5069      | 252            |     |
| 写真図版47 | 52S D 29~32       | 209          | 写真図版91 | 木製品 (10)   | 5070~5089      | 253            |     |
| 写真図版48 | 52S A 1~3         | 210          | 写真図版92 | 木製品 (11)   | 5088~5090~5094 | 254            |     |
| 写真図版49 | かわらけ (1)          | 1~53         | 211    | 写真図版93     | 木製品 (12)       | 5095~5101      | 255 |
| 写真図版50 | かわらけ (2)          | 54~93        | 212    | 写真図版94     | 木製品 (13)       | 5102·5103      | 256 |
| 写真図版51 | かわらけ (3)          | 94~164       | 213    | 写真図版95     | 木製品 (14)       | 5104~5106      | 257 |
| 写真図版52 | かわらけ (4)          | 165~229      | 214    | 写真図版96     | 木製品 (15)       | 5107~5125      | 258 |
| 写真図版53 | かわらけ (5)          | 230~277      | 215    | 写真図版97     | 木製品 (16)       | 5126~5142      | 259 |
| 写真図版54 | かわらけ (6)          | 278~322      | 216    | 写真図版98     | 木製品 (17)       | 5143~5159      | 260 |
| 写真図版55 | かわらけ (7)          | 323~370      | 217    | 写真図版99     | 木製品 (18)       | 5160·5162      | 261 |
| 写真図版56 | かわらけ (8)          | 371~419      | 218    | 写真図版100    | 木製品 (19)       | 5161~5163~5164 | 262 |
| 写真図版57 | かわらけ (9)          | 420~512      | 219    | 写真図版101    | 木製品 (20)       | 5165~5171      | 263 |
| 写真図版58 | かわらけ (10)         | 513~528      | 220    | 写真図版102    | 木製品 (21)       | 5172~5177      | 264 |
| 写真図版59 | かわらけ (11)         | 529~583      | 221    | 写真図版103    | 木製品 (22)       | 5178~5182      | 265 |
| 写真図版60 | かわらけ (12)         | 584~616·墨書資料 | 222    | 写真図版104    | 木製品 (23)       | 5183~5188      | 266 |
|        |                   |              | 222    | 写真図版105    | 木製品 (24)       | 5189~5195      | 267 |
| 写真図版61 | 国産陶器 (1)          | 1001~1020    | 223    | 写真図版106    | 木製品 (25)       | 5196~5207      | 268 |
| 写真図版62 | 国産陶器 (2)          | 1021~1040    | 224    | 写真図版107    | 木製品 (26)       | 5208~5240      | 269 |

|         |           |            |          |
|---------|-----------|------------|----------|
| 写真図版108 | 木製品 (27)  | 5241~5258  | .....270 |
| 写真図版109 | 52S E 8   | 7~8層出土材(1) | ...271   |
| 写真図版110 | 52S E 8   | 7~8層出土材(2) | ...272   |
| 写真図版111 | 穴あき石・石製品他 | 6001~6007  | ...273   |
| 写真図版112 | 石製品・金属製品他 | 6008~6025  | ...274   |
| 写真図版113 | 札         | 6026~6028  | .....275 |

## 表目次

|     |              |          |     |               |          |
|-----|--------------|----------|-----|---------------|----------|
| 表1  | 柱穴計測表 (1)    | .....124 | 表16 | 国産陶器観察表 (1)   | .....138 |
| 表2  | 柱穴計測表 (2)    | .....125 | 表17 | 国産陶器観察表 (2)   | .....139 |
| 表3  | 柱穴計測表 (3)    | .....126 | 表18 | 国産陶器観察表 (3)   | .....140 |
| 表4  | 柱穴計測表 (4)    | .....127 | 表19 | 中国産陶磁器観察表 (1) | .....140 |
| 表5  | 柱穴計測表 (5)    | .....128 | 表20 | 中国産陶磁器観察表 (2) | .....141 |
| 表6  | かわらけ観察表 (1)  | .....129 | 表21 | 中国産陶磁器観察表 (3) | .....142 |
| 表7  | かわらけ観察表 (2)  | .....130 | 表22 | 瓦観察表 (1)      | .....142 |
| 表8  | かわらけ観察表 (3)  | .....131 | 表23 | 瓦観察表 (2)      | .....143 |
| 表9  | かわらけ観察表 (4)  | .....132 | 表24 | 近世陶磁器観察表 (1)  | .....143 |
| 表10 | かわらけ観察表 (5)  | .....133 | 表25 | 近世陶磁器観察表 (2)  | .....144 |
| 表11 | かわらけ観察表 (6)  | .....134 | 表26 | 木製品観察表 (1)    | .....144 |
| 表12 | かわらけ観察表 (7)  | .....135 | 表27 | 木製品観察表 (2)    | .....145 |
| 表13 | かわらけ観察表 (8)  | .....136 | 表28 | 木製品観察表 (3)    | .....146 |
| 表14 | かわらけ観察表 (9)  | .....137 | 表29 | 石製品・札等観察表     | .....146 |
| 表15 | かわらけ観察表 (10) | .....138 |     |               |          |

# 第1章 はじめに

## 1 調査経過

当教育委員会では、柳之御所遺跡が平成9年に国の史跡に指定されたことから、当遺跡を史跡公園として整備し保存活用を図るため、文化庁・柳之御所遺跡調査研究指導委員会の指導助言を得て、平成10年度から主に未調査区域を対象として内容確認の発掘調査を計画的・継続的に実施している。三カ年を1サイクルとし、第1期整備対象区域である堀内部地区を中心として調査を実施している。

平成11年度実施した第50次調査では、既往の調査で確認された苑池や大型の建物など、堀で囲まれた中枢域の周辺地域での12世紀代の遺構の広がりや密度を確認することを主要な目的として、遺跡の東側にあたる北上川右岸縁に調査区を設定し発掘調査を行った。その結果、12世紀代の遺構が現況の河岸縁まで分布し柳之御所遺跡の一部が北上川の侵食で失われていることが確認された。12世紀代の遺構についても、堀や井戸状遺構の検出、複雑に重複する掘立柱建物などが多数検出され、複数時期にわたって遺跡が営まれたことが明らかにされた。また、「磐前村印」と刻印された銅印と器表面全体を漆のしみ込んだ麻布で被覆されたほぼ完全な形に近い白磁四耳壺が同一の井戸状遺構から出土した。地名を刻印したと推定される銅印の発見は、奥州藤原氏の統治システムを考察するうえで貴重な資料となるばかりでなく、本邦の印章史の空白期を埋める資料として注目された。

平成12年度は第1次三カ年計画の最終年度であり、柳之御所遺跡の調査としては通時で第52次の調査に当たる。昨年度に引き続き苑池が立地する遺跡中心部の北側の地域を対象として調査を実施することにした。また、平成11年度からの継続の県単事業として、遊歩道・説明板・ベンチ等、来訪者の利便に供するための簡易的な施設の設置を図った。

なお、柳之御所遺跡第53次調査として平泉町教育委員会が堀外部地区で倉庫建設に伴う事前調査として周知の遺跡部分の柳之御所遺跡の発掘調査を実施している。

## 2 本年度の調査について

### (1) 柳之御所遺跡調査研究指導委員会

当教育委員会では、柳之御所遺跡調査研究指導委員会を設置し、柳之御所遺跡の発掘調査と研究、史跡整備等について指導助言を得ており本年度は以下の内容で委員会を開催した。

#### ① 平成12年度第1回柳之御所遺跡調査研究指導委員会

平成12年5月11日(木) 平泉町役場

- ・柳之御所遺跡第52次発掘調査計画について(県教育委員会)
- ・平泉遺跡群関連発掘調査計画について(平泉町教育委員会・(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター・岩手県立博物館)
- ・平泉文化研究機関整備推進事業について(県教育委員会)

② 平成12年度第2回柳之御所遺跡調査研究指導委員会

平成12年10月19日(木) 平泉町役場・柳之御所遺跡発掘調査現場ほか

- ・柳之御所遺跡第52次発掘調査成果について
- ・平泉遺跡群関連発掘調査成果について
- ・現場視察～柳之御所遺跡(文化課) 志羅山遺跡(平泉町教育委員会)  
泉屋遺跡((財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター)

柳之御所遺跡調査研究指導委員会

| 氏名    | 役職                    | 専門分野     | 備考       |
|-------|-----------------------|----------|----------|
| 入間田宣夫 | 東北大学東北アジア研究センター教授     | 古代・中世史   |          |
| 牛川 善幸 | 長岡造形大学教授              | 造園学      |          |
| 岡田 茂弘 | 東北歴史博物館               | 考古学(古代)  |          |
| 小野 正敏 | 国立歴史民俗博物館助教授          | 考古学(陶磁器) |          |
| 河原 純之 | 千葉大学教授                | 考古学(中世)  | 委員長      |
| 工藤 雅樹 | 福島大学教授                | 考古学・古代史  | 副委員長     |
| 斉藤 利男 | 弘前大学教授                | 中世史学     |          |
| 佐藤 信  | 東京大学                  | 古代史学     |          |
| 田辺 征夫 | 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部長  | 考古学(歴史)  |          |
| 村田 健一 | 奈良国立文化財研究所建造物研究室主任研究官 | 古代建築     | 平成11年度就任 |

(2) 調査の目的と調査の方法

平成12年度は柳之御所遺跡発掘調査第1次3ヵ年計画の3年次にあたり、堀内部地区の中心建物群の東側～北東側の地区を主要な発掘調査対象区として実施することにした。具体的には(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが平成元年に行った第23次調査区と隣接した場所であり、また当教育委員会文化課が平成4年、平成5年に行った第37次・第42次の範囲内容確認調査の調査区と重複する部分である。今次調査は以下を主要な課題として行った。

- ① 池跡及び中心建物群を囲む23SA1堀跡の追跡。
- ② 4間9間の南北棟の東側の状況及び建物部の伸長。
- ③ 42SD01大溝とされていた遺構の時期及び伸張状況の追跡。
- ④ 37次・42次の内容確認調査の時期に確認されていた溝・堀類の時期及び伸張状況の把握。

発掘調査にあたって昭和63年度に(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが行った緊急調査時に設定したグリッドに従った。グリッドの呼称についても同様である。調査が今後も継続されることから再度基準点の設置を行った。

(基準点1 X座標：-111,970.000 Y座標：25,030.000 グリッド杭70-70)。

基本的には遺構の内容把握を主目的としており、遺構の所属時期の確定・遺構の性格等を把握することであり、検出したすべについて最終的な段階まで精査を行っておらず必要最低限の段階で調査を終了しているものもある。なお、半截あるいは完掘した遺構については砂で埋め戻し、さらに砂と上で遺構面を覆い可能なかぎり旧状に復旧し保存を計っている。

### 柳之御所遺跡発掘調査年次計画

| 年次    |        | 調査回数 | 調査面積                | 調査期間             | 予算(千円) | 備考   |
|-------|--------|------|---------------------|------------------|--------|------|
| 第一次計画 | 平成10年度 | 第49次 | 500m <sup>2</sup>   | 5月15日～<br>10月31日 | 18,211 | 国庫補助 |
|       | 平成11年度 | 第50次 | 1,800m <sup>2</sup> | 5月13日～<br>10月31日 | 18,211 | 国庫補助 |
|       | 平成12年度 | 第52次 | 500m <sup>2</sup>   | 5月15日～<br>11月17日 | 18,211 | 国庫補助 |
| 第二次計画 | 平成13年度 | 第55次 | 3,100m <sup>2</sup> |                  |        |      |
|       | 平成14年度 |      | 3,100m <sup>2</sup> |                  |        |      |
|       | 平成15年度 |      | 3,100m <sup>2</sup> |                  |        |      |

※ 平成12年度までは実績、13年度以降は予定

### 柳之御所遺跡発掘調査年次別調査計画

| 年次       | 調査回数 | 調査内容等  |
|----------|------|--|
| 第一次3カ年計画 | 第49次 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・堀内部地内の中心建物群、特に最大建物である南北棟4間9間42SB1(28SB4と一部重複)の東側地区の解明。</li> <li>・23次調査次の23SB2建物跡の延長確認。</li> <li>・23SA3柱列跡、23SA1塀跡の延長確認。</li> <li>・48SB1建物跡の延長確認と所属時期の検討。</li> <li>・北上川に向かい形成されている小規模谷地形の解明。</li> </ul> |

|          |        |      |   |
|----------|--------|------|---|
|          | 平成11年度 | 第50次 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・池跡及び中心建物群を囲む23SA1堀跡の追跡。</li> <li>・4間9間の南北棟の東側の状況及び建物群の伸長。</li> <li>・42SD01大溝とされていた遺構の時期及び伸展状況の追跡。</li> <li>・37次、42次の内容確認調査の時期に確認されていた溝・堀類の時期及び伸展状況の把握。</li> </ul> |
|          | 平成12年度 | 第52次 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・堀内部地区、中心建物群の西側及び北西側地域の解明。</li> <li>・祭祀遺構周辺域の解明。</li> <li>・無量光院との対峙地域の解明。</li> <li>・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。</li> </ul>   |
| 第二次3ヵ年計画 | 平成13年度 | 第55次 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・未調査区域であり、中心建物群の北側地区の解明。</li> <li>・中心建物群を囲むと推定される堀跡の検出。</li> <li>・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。</li> </ul>   |
|          | 平成14年度 | 第56次 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・未調査区域であり、中心建物群の北側地区の解明。</li> <li>・中心建物群を囲むと推定される堀跡の検出。</li> <li>・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。</li> <li>・現存する段高地状の高まりの性格把握。</li> <li>・北上川縁地域の状況把握。</li> </ul>         |
|          | 平成15年度 |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・未調査区域であり、中心建物群の北側地区の解明。</li> <li>・堀外部地区から延長すると推定される道路遺構の解明。</li> <li>・北上川縁地域の状況把握。</li> <li>・堀外部地区との連絡施設（道路・橋等）の確認。</li> </ul>                                    |

※ 第51次調査 平泉町教育委員会  
 第53次調査 平泉町教育委員会



## 第II章 検出遺構

### 1 建物

柳之御所遺跡第52次調査では掘立柱建物跡が26棟検出された。また柱列は6条が検出された。これらの建物、柱列はその所属時期を明らかにし得ないものも多いが、予測を含めて所属時期について述べる。建物の所属時期は出土遺物から12世紀のものと近世のものに2大別される。

- 1 12世紀に属する建物・・・52SB14、52SB18、52SB19、52SB21、52SB25、52SB26
- 2 近世（一部16世紀も含む）に属する建物・・・52SB1、52SB2、52SB3、52SB4、52SB5、52SB6、52SB7、52SB8、52SB9、52SB10、52SB11、52SB12、52SB13、52SB15、52SB16、52SB17、52SB20、52SB22、52SB23、52SB24

#### (1) 12世紀の建物

今次の調査で検出された12世紀の建物は6棟ある。建物ごとに説明する。これらの建物の12世紀の中で時間的な位置付け、用途については、全体的な視点から、他の遺構との兼ね合いを含めて考察せねばならず、ここでは詳しく述べない場合もある。

52SB14 確固たる根拠はないが、柱穴の埋土の質感から12世紀の所属と考えられる。12世紀のトイレ状土坑52SK13よりもおそらく古い。また近世～近代の土坑52SK18よりは古い。P903とP132の間には柱穴が検出されていないが、他には柱穴があり、総柱の建物であった可能性がある。

52SB18 西側の底の柱穴が残存していないが「三間四面」の建物と考えられる。西側は東側よりも検出面の標高が低く、それがために柱穴が残存していない。検出された柱穴も概して遺存状態が悪く、浅いものが多い。本建物は12世紀のトイレ状土坑52SK14よりもおそらく古い。

52SB19 柱穴の埋土の質感から12世紀の所属と考えられる。道路状遺構の路面内に位置しており道路状遺構より古い可能性が考えられる。

52SB21 柱穴の埋土の質感から12世紀の所属と考えられる。北東隅から北側に柱穴が延びるが、一体のものである可能性が考えられる。建物の軸方向が大型建物の52SB25に近く同時存在の可能性も考えられる。

52SB25 大型の建物である。「三間四面」の本体部分と2間の幅で東側に延びる部分からなる。柱間寸法が9～10尺台と長く、平泉遺跡群内でも傑出した大きさの建物である。これまで検出された堀内部地区の「中心建物」と比べても遜色ない大きさである。この大きさから考えて52SB25はある時期の柳之御所遺跡堀内部地区の中心建物（またはその一部分）である可能性が高い。52SB25は2間の幅で東側に突出する部分がある。これが「廊」のような施設であれば、それに連結する大規模な建物が東側に存在する可能性がある。この有無は今後の調査により明らかになる。

柱穴は30個検出されている。柱穴はいずれも柱の抜き取りを観察できる。柱痕が観察できたものは底面近くに痕跡が残っていたものである。身舎の柱穴の掘方は底の柱穴の掘方より径が大きい。そして身舎の柱穴には礫が多量に詰まっていた。この礫は抜き取り痕の部分だけではなく、本来の柱穴の埋土にも入っており、柱を立てる際に土とともに入れられた礫と理解できる。この礫は底の柱穴には全く含まれておらず、柱を立てる際に身舎と底の柱を峻別していたことがわかる。また幾つかの柱穴で、底面に礎板が置かれている

ことが確認できた。これは、身舎、庇のいずれの柱穴にもみられる。抜き取り痕の土には焼土や炭化物は含まれずこの建物が焼失した痕跡は全く見出せない。

52SB26 ほとんどの柱穴が31次調査で検出されたもので、今次の柱穴番号を付していない。31次調査の31SA3としたものが本建物の核になっている。P974の検出により、再検討した結果、柱列ではなく「三間四面」の建物とすべきである判断した。

## (2) 近世の建物

近世の建物は幾つかの重複するまとまりに分けられる。以下まとまりごとに説明する。

### ① 調査区西側 (58-57付近) のまとまり (52SB3~52SB10)

52SB3、52SB5、52SB7、52SB9の4棟がほぼ同じ位置で重複する。柱穴の直接の切り合いから52SB3が52SB5より新しい。そして52SB5は52SB7より新しい。52SB9は柱穴が重複する部分がなく、前後関係を知り得ないが、柱間寸法などから最も古い建物と仮定する。そうすると古い順から52SB9、52SB7、52SB5、52SB3の変遷が仮定される。これらは建物の規模から考えて主屋と考えられ、主屋の建替えが行われたものと理解できる。52SB3は北側に、52SB5は南北両面に下屋柱を持つ、同じ性格の建物が連続して建てられたという観点からすれば、規模も同程度であろうから、52SB3の南面、そして52SB7、52SB9の南北両面にも下屋柱が存在していたと想定される。上屋柱の掘り込みに比べると下屋柱の掘り込みが著しく浅いため、下屋柱が残存していない可能性が高い。

主屋と考えられる4棟の建物の東側に、付属屋と考えられる小規模な4棟の建物の重複がある。この部分は幅の広い52SD26が位置しており、柱穴はその埋土に掘り込まれており、柱穴の検出は非常に困難をきわめた。これらの建物は柱穴の切り合いと、主屋との位置関係から古い順に52SB10、52SB8、52SB6、52SB4の変遷と考えられる。主屋との関係は52SB9と52SB10、52SB7と52SB8、52SB5と52SB6、52SB3と52SB4がそれぞれ組み合わせる。この組み合わせでは、必ずしも主屋と付属屋軸方向は共通していない。52SB3のプラン内に土坑52SK27が存在する。周辺部が焼けているわけではないが、位置的な点から52SB3内に設置された炉の痕跡の可能性が考えられる。

この建物のまとまりの年代ははっきりしない点もあるが、最も新しい主屋52SB3の幾つかの柱穴から遺物が出土している。柱穴P732の柱痕からはキセルの吸口(6023)、P991からは瀬戸・美濃産の陶器碗(4007)、P990からは瀬戸・美濃産の輪花の皿(4011)である。キセルの年代については18世紀代の可能性があるが、これは柱痕からの出土でもあり、柱痕が腐り空洞になってからの混入も考えられる。2点の瀬戸・美濃産陶器については17世紀前半の所属が考えられ、また平泉近辺の掘立柱建物民家の形状変遷(羽柴直人 1997 「岩手県平泉町における近世掘立柱民家について」 紀要XVII(財)岩手埋文)を考え合わせると、52SB3の年代は17世紀前半~中頃のものとするのが妥当であろう。52SB3に先行する建物の年代は1軒の存続期間を40年と仮定すると、概ね52SB5が16世紀末~17世紀初頭、52SB7が16世紀後半、52SB9が16世紀前半とすることができる。付属屋52SB4、6、8、10はそれぞれ伴う主屋の年代が与えられる。柳之御所遺跡41次調査ではこれらの建物のまとまりから約20m南で井戸(41SE6)が検出され、17世紀前半の美濃産の皿(第72図参考に掲載)が出土している。位置的に考えて41SE6は52SB3等のまとまりに伴う可能性が高く、上記の年代観を補強する。また一片であるが、建物のまとまりのすぐ北側にある52SK26から16世紀代の中国産の染付皿(4027)が出土している。(52SK26自体は20世紀の遺構である。) これも建物群の年代が16世紀~17世紀中頃の属する可能性を高めている。建物の性格は規模と遺物量から考えて農民の住居とするのが妥当であろう。

## ② 調査区中央部 (66-60付近) のまとまり (52SB11、52SB12、52柱列1、52SB20)

規模の類似する52SB11と52SB12が重複する。また建物に組みなかったが、52柱列1も重複する。52柱列1は52SB12の下屋柱になる可能性も考えたが、軸がやはずれるため、その案を採らなかった。しかし検討の余地は残されている。また、柱穴の切り合い関係から52SB11が52SB12、52柱列1より新しいことがわかる。52SB12と52柱列1は切り合いがなく前後関係は不明である。52SB11のP537から肥前産の磁器の碗(4029)が出土している。17世紀前半のもので、52SB11の年代も17世紀前半と考えたい。それに先行する52SB12は16世紀末～17世紀前半の所屬と考えたい。52SB11、52SB12と重複しそれより新しい52SD6、52SE3からは18世紀代の陶磁器片が出土しており、52SB11が近世後半に下らない証の一つを示している。

52SB11、52SB12は同時期と推測される52SB3や52SB2に比べるとその規模が小さい。よって主屋ではなく付属的な建物と推測される。位置的な点から調査区東側の建物のまとまり(52SB1、52SB2など)に付属する可能性が高い。52柱列1は上述のように52SB12の下屋柱の可能性も考えられるがはっきりしない。独立した柱列とした場合はその用途、時期を明確にすることができない。

また52SB11、12と重複する52SB20が存在する。52SB11の柱穴と切り合う部分があるが前後関係を把握できなかった。52SB11、12の規模に近いことから、同じ用途の建物と推測される。

## ③ 調査区東側 (71-61付近) のまとまり (52SB1、52SB2、52SB13、52SB15～17)

規模の大きい52SB1、52SB2、52SB15、52SB16の重複を中心とするまとまりである。52SB1、52SB16には下屋柱が検出されていないが、本来は52SB2、52SB15と同様に下屋柱が存在したものと想定する。よってこの4棟は同規模の建物で、それが連続的に建て替えられたものと理解される。柱穴の切り合いから新しい順に52SB1→52SB2→52SB15ということがわかる。52SB16は他の建物と柱穴の切り合いが無く前後関係を明らかにし得ないが、柱穴P336から16世紀末～17世紀初めの肥前産陶器碗(4006)が出土しており、後に述べる建物の年代観と照らし合わせ、52SB3より古く、52SB2、SB15より新しいと想定する。よって想定する建物の変遷は古い順から52SB15→52SB2→52SB16→52SB1となる。これらの4棟はその規模から農民の屋敷の主屋と考えられる。建物の年代は52SB1の柱穴P258で瀬戸美濃産の陶器皿(4002)、P278、P347で肥前産の陶器碗(4003、4004 同一個体)、P278で肥前産の磁器碗(4028)、P260で肥前産磁器皿(4037)が出土している。これらの陶磁器はいずれも17世紀前半代に納まるもので52SB1の年代も17世紀前半に求められる。そしてこれに先行するのが、16世紀末～17世紀初頭の肥前産陶器碗を出土した52SB15ということになる。時期は陶器の年代から16世紀末～17世紀初頭と考えられる。52SB2、52SB15からは遺物の出土がないが、52SB16との連続性から、52SB2が16世紀後半、52SB15が16世紀中葉の年代が与えられる。

52SB13は規模とその位置から、主屋に伴う付属屋と考えられる。位置的には52SB1、52SB2、52SB15のいずれかに伴うと考えられるが、得られた事象からは明らかにできない。また上で調査区中央のまとまりの52SB11、SB12、SB20は、本まとまりの主屋に付随する付属屋の可能性あることを述べた。52SB11の柱穴P537から出土した肥前産磁器の底部は、52SB1の柱穴P278から出土した磁器碗の口縁部と同一個体と考えられる。このことから、52SB1のまとまりと、52SB11のまとまりは、同じ屋敷内の遺構である可能性が高い。

また、本ままとまりの中に52SB17が存在する。この建物は柱穴の切り合いから、52SB2より新しい建物である。そして他の主屋52SB1、15、16とも共存し得ない。この52SB17の時期は明確にし得ないが、プランも平行四辺形でしっかりしたものではなく、52SB1などの主屋の変遷とは関係ない近世中葉以降の臨時的な建物と推測される。52SB17の南東3m付近に19世紀代の遺物を含む52SK2が存在する。この土坑と52SB17の関係が推測される。

なお、位置的な関係から、52SB1とその北辺にある52SD1が、また52SB16とその北辺にある52SD2がそれぞれ伴う可能性がある。

#### ④ 調査区南東(71-65)のままとまり(52SB22~24)

52SB23は柱穴の掘方の規模が径80cm程度と非常に大きいのが特徴的である。それがために、52SB23を構成する柱穴の内2個を土坑(52SK15、52SK23)として調査してしまったほどである。所属時期は明確にし得ないが、プランや柱間寸法などから12世紀の可能性は非常に低く、今次の調査で検出された多くの近世建物と同時期、16世紀~17世紀前半に属する可能性が高い。しかしその場合、他の主屋級の建物との関係が問題になる。柱間寸法が長い部分もあり、下屋柱を想定した方が都合が良いが、下屋柱は一個も検出されておらず、その有無は不明とせざるを得ない。

52SB24は52SB23の東側に軸方向を同じくして位置している。このことから、52SB24は52SB23の付属建物と考えられる。52SB24の東辺の柱穴は柳之御所遺跡31次調査で検出されており、31SA2の名称が付けされていたが、今次の調査で西辺の柱穴が検出され、建物になることがわかった。

52SB22は半間ごとに柱穴が配されている。52SB23とプランが重複するわけではないが、非常に近接しており、同時存在とは考えられない。52SB22は位置的に考えて、③の調査区東側のままとまりの主屋52SB1、52SB16、52SB2、52SB15のいずれかに伴うと考えられる。柱が半間ごとに配されることから密閉性の高い蔵のような用途が想定される。

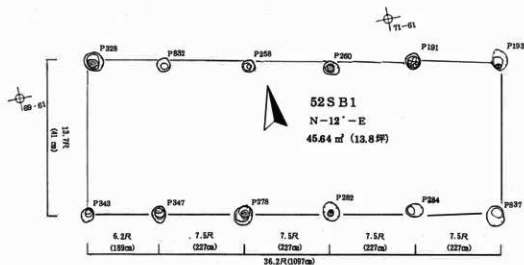
### (3) 柱列

柱列と認識したものは6条ある。年代がはっきりしないものが多いが、下に可能性を示す。

近世~近代・・・52柱列1、52柱列2、52柱列3、52柱列4

12世紀・・・52柱列5、52柱列6

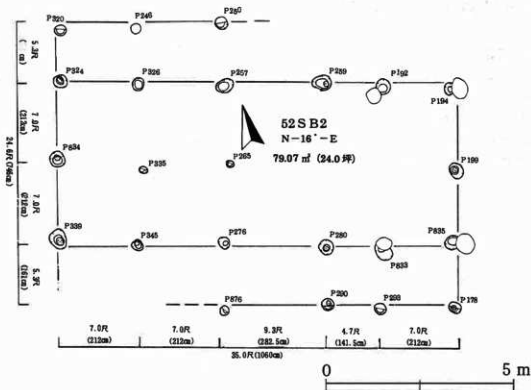
この中で52柱列5の南側は近年に造作された水田のために削平されており、本来は柱列に対応する柱穴が有り建物を構成していた可能性が高い。他の柱列については用途を明確にし得ないものが多い。



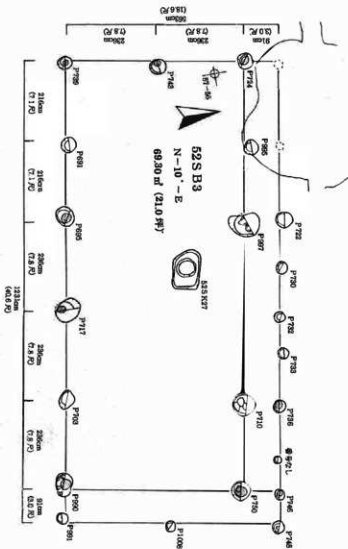
| 柱穴番号 | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|------|---------|-----------|
| P328 | 40.8    | 27.26     |
| P832 | 70.0    | 26.96     |
| P258 | 65.2    | 27.06     |
| P260 | 51.8    | 27.15     |
| P191 | 43.6    | 27.28     |
| P193 | 61.2    | 27.10     |
| P343 | 57.4    | 26.93     |
| P347 | 53.2    | 27.02     |
| P278 | 65.0    | 26.98     |
| P282 | 50.7    | 27.15     |
| P284 | 58.0    | 27.06     |
| P837 | 47.6    | 27.11     |

| 柱穴番号 | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|------|---------|-----------|
| P320 | 12.2    | 27.46     |
| P246 | 不明      | 不明        |
| P250 | 33.9    | 27.35     |
| P324 | 55.0    | 27.03     |
| P326 | 20.3    | 27.43     |
| P257 | 44.2    | 27.24     |
| P259 | 33.4    | 27.32     |
| P192 | 38.8    | 27.29     |
| P194 | 23.5    | 27.47     |
| P834 | 53.5    | 27.06     |
| P335 | 26.0    | 27.38     |
| P265 | 11.0    | 27.52     |

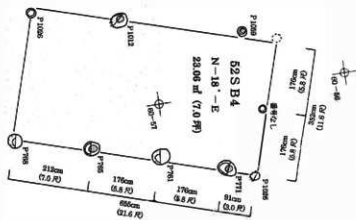
| 柱穴番号 | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|------|---------|-----------|
| P199 | 33.5    | 27.37     |
| P339 | 51.2    | 27.01     |
| P245 | 44.6    | 27.19     |
| P276 | 58.5    | 27.06     |
| P280 | 44.2    | 27.22     |
| P833 | 50.0    | 27.16     |
| P835 | 44.7    | 27.18     |
| P876 | 9.3     | 27.48     |
| P290 | 11.8    | 27.47     |
| P293 | 39.2    | 27.20     |
| P178 | 31.4    | 27.26     |



第1図 掘立柱建物(1) (52SB1・2)



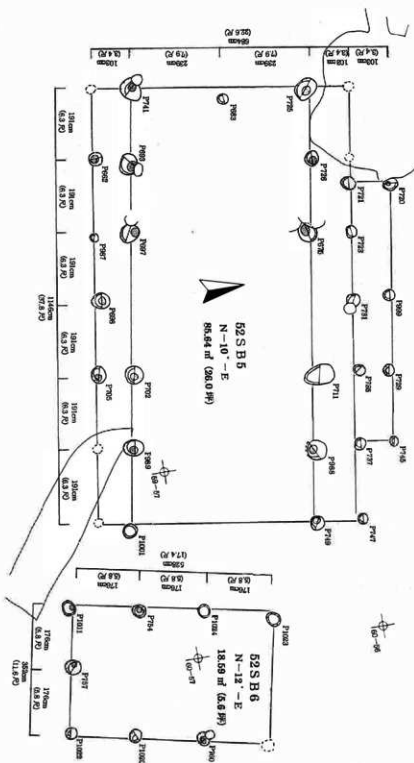
| 柱穴番号  | 深さ (cm) | 表面の標高 (m) |
|-------|---------|-----------|
| P 722 | 7.8     | 27.03     |
| P 730 | 12.4    | 27.02     |
| P 732 | 28.9    | 26.84     |
| P 733 | 10.4    | 27.04     |
| P 736 | 15.3    | 26.88     |
| P 746 | 8.4     | 26.93     |
| P 748 | 9.8     | 26.89     |
| P 724 | 16.1    | 26.88     |
| P 995 | 36.5    | 26.71     |
| P 997 | 47.3    | 26.63     |
| P 710 | 39.2    | 26.60     |
| P 750 | 32.0    | 26.67     |
| P 743 | 18.2    | 26.85     |
| P1008 | 16.3    | 26.65     |
| P 739 | 13.3    | 26.73     |
| P 691 | 30.3    | 26.64     |
| P 695 | 20.9    | 26.68     |
| P 703 | 20.1    | 26.66     |
| P 990 | 27.7    | 26.62     |
| P 991 | 18.0    | 26.71     |



| 柱穴番号  | 深さ (cm) | 表面の標高 (m) |
|-------|---------|-----------|
| P1025 | 23.4    | 26.76     |
| P1059 | 11.7    | 26.48     |
| P 771 | 51.5    | 26.44     |
| P 761 | 50.5    | 26.33     |
| P1012 | 30.4    | 26.54     |
| P 765 | 37.0    | 26.39     |
| P1026 | 27.5    | 26.38     |
| P 768 | 35.0    | 26.39     |



第2図 掘立柱建物 (2) (52SB3・4)

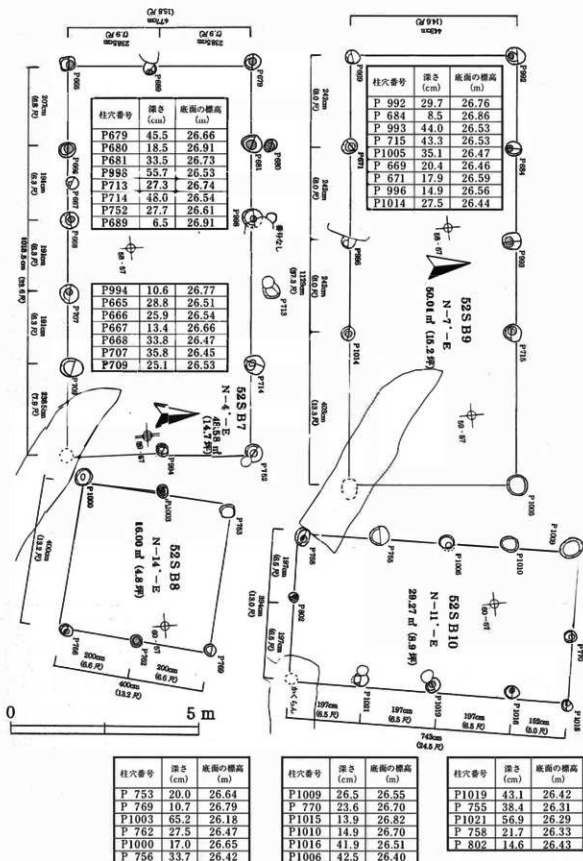


| 柱穴番号  | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|-------|---------|-----------|
| P 720 | 11.0    | 26.94     |
| P 999 | 24.4    | 26.90     |
| P 729 | 29.6    | 26.91     |
| P 745 | 26.1    | 26.77     |
| P 721 | 14.4    | 26.93     |
| P 723 | 20.0    | 26.92     |
| P 731 | 50.3    | 26.63     |
| P 735 | 37.5    | 26.76     |
| P 737 | 47.7    | 26.53     |
| P 747 | 34.1    | 26.67     |
| P 725 | 55.5    | 26.49     |
| P 726 | 66.8    | 26.42     |
| P 675 | 78.6    | 26.35     |
| P 711 | 51.9    | 26.47     |
| P 988 | 41.9    | 26.57     |
| P 749 | 11.0    | 26.83     |
| P 683 | 13.3    | 26.98     |
| P 741 | 35.3    | 26.64     |
| P 693 | 50.0    | 26.40     |
| P 697 | 45.1    | 26.43     |
| P 702 | 38.3    | 26.48     |
| P 989 | 56.3    | 26.29     |
| P1001 | 8.2     | 26.77     |
| P 662 | 14.7    | 26.84     |
| P 987 | 1.8     | 26.83     |
| P 698 | 22.8    | 26.64     |
| P 705 | 9.5     | 26.72     |

| 柱穴番号  | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|-------|---------|-----------|
| P1023 | 21.1    | 26.69     |
| P1024 | 13.9    | 26.71     |
| P 760 | 37.4    | 26.52     |
| P 754 | 32.4    | 26.47     |
| P1020 | 30.3    | 26.55     |
| P1011 | 30.4    | 26.39     |
| P 757 | 25.6    | 26.46     |
| P1022 | 35.3    | 26.49     |

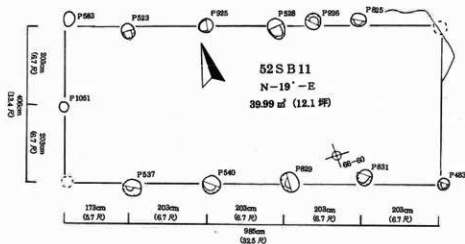


第3図 掘立柱建物 (3) (52SB5・6)

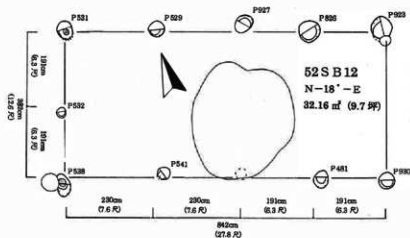


第4図 掘立柱建物 (4) (52SB7~10)

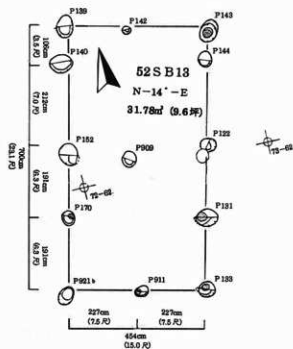




| 柱穴番号  | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|-------|---------|-----------|
| P 583 | 不明      | 不明        |
| P 523 | 47.4    | 26.63     |
| P 925 | 35.0    | 26.79     |
| P 528 | 51.2    | 26.62     |
| P 926 | 71.9    | 26.52     |
| P 825 | 53.5    | 26.70     |
| P1051 | 不明      | 不明        |
| P 537 | 53.3    | 26.99     |
| P 540 | 37.7    | 26.52     |
| P 829 | 47.8    | 26.31     |
| P 831 | 56.5    | 26.30     |
| P 483 | 50.3    | 26.64     |



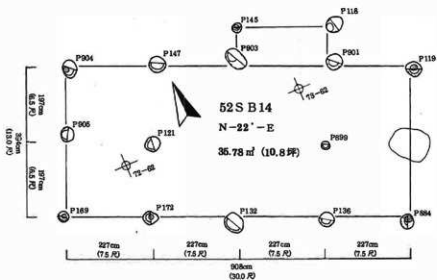
| 柱穴番号 | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|------|---------|-----------|
| P531 | 44.5    | 26.59     |
| P529 | 72.9    | 26.44     |
| P927 | 59.2    | 26.65     |
| P826 | 89.8    | 26.32     |
| P923 | 61.3    | 26.62     |
| P532 | 21.0    | 26.85     |
| P538 | 48.8    | 26.51     |
| P541 | 34.6    | 26.54     |
| P481 | 7.5     | 26.99     |
| P930 | 38.7    | 26.77     |



| 柱穴番号  | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|-------|---------|-----------|
| P139  | 20.5    | 27.32     |
| P142  | 19.4    | 27.32     |
| P143  | 23.0    | 27.33     |
| P140  | 33.1    | 27.25     |
| P144  | 32.5    | 27.25     |
| P152  | 37.2    | 不明        |
| P909  | 16.9    | 27.46     |
| P122  | 45.0    | 27.15     |
| P170  | 35.9    | 27.29     |
| P131  | 56.8    | 27.04     |
| P921b | 69.0    | 26.86     |
| P911  | 12.5    | 27.38     |
| P133  | 58.0    | 26.96     |



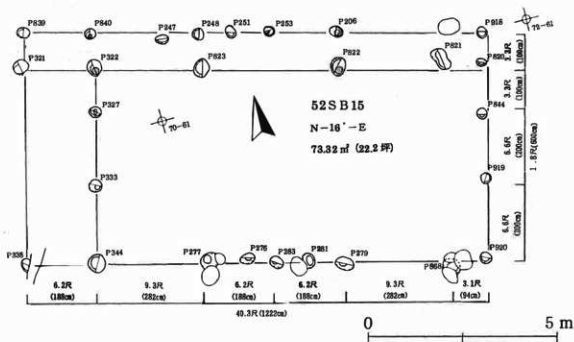
第5図 掘立柱建物 (5) (52SB11~13)



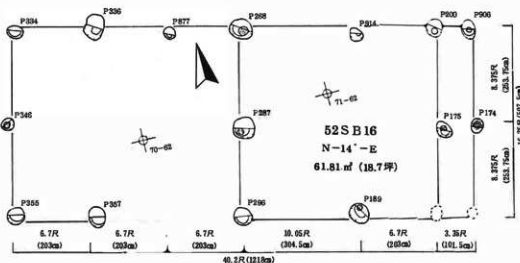
| 柱穴番号 | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|------|---------|-----------|
| P145 | 20.5    | 27.43     |
| P118 | 35.8    | 27.31     |
| P904 | 53.2    | 27.07     |
| P147 | 5.2     | 27.48     |
| P903 | 30.4    | 27.32     |
| P901 | 不明      | 不明        |
| P119 | 39.0    | 27.33     |
| P905 | 15.8    | 27.41     |
| P121 | 17.0    | 27.47     |
| P899 | 10.2    | 27.47     |
| P169 | 83.0    | 27.52     |
| P172 | 17.5    | 27.50     |
| P132 | 46.1    | 27.13     |
| P136 | 27.2    | 27.29     |
| P884 | 20.8    | 27.31     |

| 柱穴番号 | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|------|---------|-----------|
| P839 | 25.8    | 27.30     |
| P840 | 18.1    | 27.39     |
| P247 | 15.2    | 27.41     |
| P248 | 23.1    | 27.44     |
| P251 | 16.9    | 27.52     |
| P253 | 26.0    | 27.46     |
| P206 | 37.6    | 27.32     |
| P918 | 27.5    | 27.39     |
| P321 | 37.2    | 27.26     |
| P322 | 37.2    | 27.23     |
| P823 | 38.3    | 27.22     |
| P822 | 7.3     | 27.20     |
| P821 | 38.6    | 27.23     |
| P820 | 不明      | 不明        |

| 柱穴番号 | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|------|---------|-----------|
| P327 | 33.5    | 27.28     |
| P844 | 18.4    | 27.46     |
| P333 | 29.5    | 27.33     |
| P919 | 11.9    | 27.56     |
| P338 | 31.0    | 27.18     |
| P344 | 33.7    | 27.20     |
| P277 | 36.8    | 27.25     |
| P275 | 13.2    | 27.38     |
| P283 | 29.1    | 27.14     |
| P281 | 33.8    | 27.41     |
| P279 | 55.9    | 27.10     |
| P868 | 35.8    | 27.22     |
| P920 | 39.0    | 27.21     |

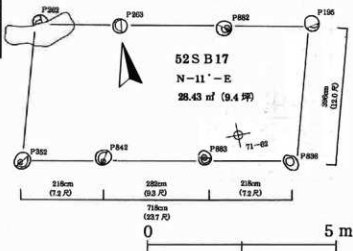


第6図 掘立柱建物 (6) (52SB14・15)

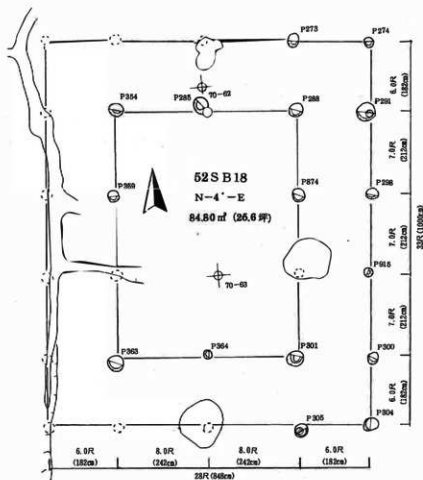


| 柱穴番号 | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) | 柱穴番号 | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|------|---------|-----------|------|---------|-----------|
| P334 | 53.1    | 27.05     | P287 | 34.7    | 27.27     |
| P336 | 55.3    | 26.99     | P175 | 19.3    | 27.39     |
| P877 | 49.8    | 27.14     | P174 | 22.0    | 27.40     |
| P268 | 45.1    | 27.19     | P355 | 38.1    | 27.03     |
| P914 | 17.9    | 27.47     | P357 | 51.7    | 27.00     |
| P200 | 88.8    | 26.75     | P296 | 49.4    | 27.06     |
| P906 | 39.1    | 27.15     | P189 | 73.1    | 26.80     |
| P346 | 33.0    | 27.12     |      |         |           |

| 柱穴番号 | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|------|---------|-----------|
| P262 | 57.0    | 27.14     |
| P263 | 40.2    | 27.22     |
| P882 | 57.8    | 27.14     |
| P195 | 36.5    | 27.33     |
| P352 | 34.2    | 27.23     |
| P842 | 30.2    | 27.09     |
| P883 | 60.1    | 27.06     |
| P836 | 34.8    | 27.20     |

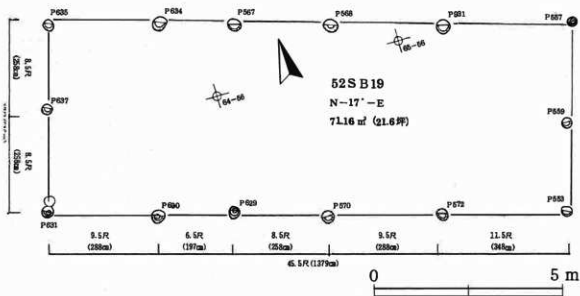


第7図 掘立柱建物 (7) (52SB16・17)

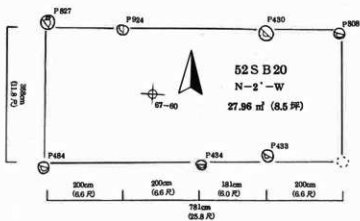


| 柱穴番号 | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|------|---------|-----------|
| P273 | 11.2    | 27.53     |
| P274 | 18.4    | 27.51     |
| P354 | 8.7     | 27.41     |
| P285 | 17.8    | 27.45     |
| P288 | 19.3    | 27.40     |
| P291 | 15.9    | 27.48     |
| P359 | 12.1    | 27.31     |
| P874 | 20.3    | 27.32     |
| P298 | 21.4    | 27.37     |
| P915 | 5.8     | 27.44     |
| P363 | 17.6    | 27.18     |
| P364 | 6.8     | 27.20     |
| P301 | 24.4    | 27.22     |
| P300 | 16.8    | 27.33     |
| P305 | 21.3    | 27.20     |
| P304 | 25.9    | 27.15     |

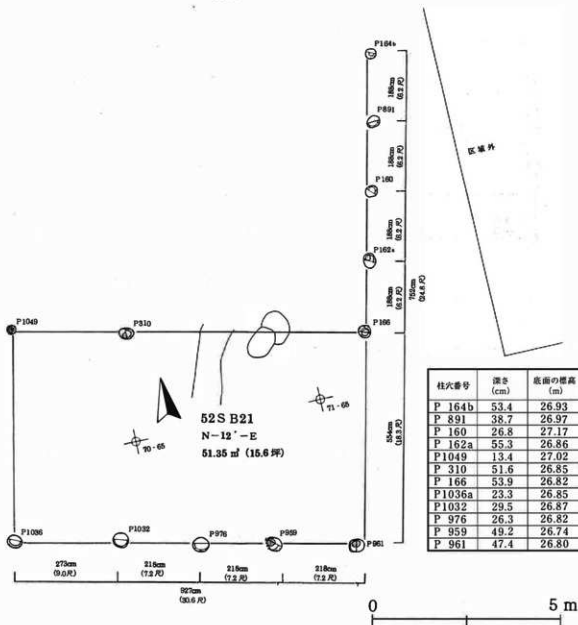
| 柱穴番号 | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|------|---------|-----------|
| P635 | 27.2    | 27.65     |
| P634 | 39.4    | 27.36     |
| P567 | 34.1    | 27.43     |
| P568 | 34.7    | 27.77     |
| P931 | 40.1    | 27.39     |
| P557 | 19.4    | 27.57     |
| P637 | 10.8    | 27.80     |
| P559 | 11.1    | 27.56     |
| P631 | 35.4    | 27.48     |
| P630 | 28.5    | 27.47     |
| P629 | 30.1    | 27.47     |
| P570 | 48.9    | 27.26     |
| P572 | 35.1    | 27.40     |
| P553 | 不明      | 不明        |



第8図 掘立柱建物 (8) (52SB18・19)

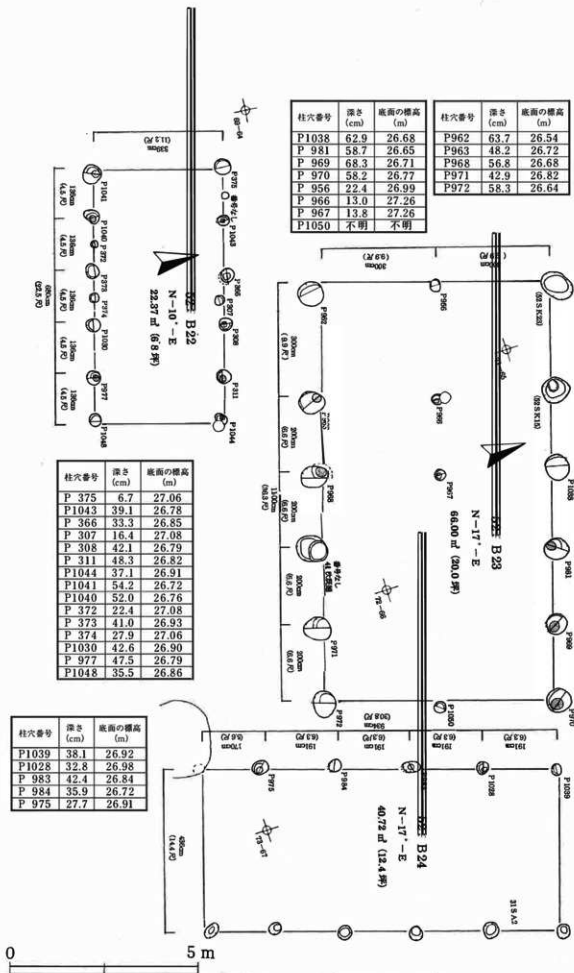


| 柱穴番号 | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|------|---------|-----------|
| P827 | 30.3    | 26.77     |
| P924 | 17.5    | 27.09     |
| P430 | 33.8    | 27.29     |
| P808 | 15.8    | 27.33     |
| P484 | 42.2    | 26.69     |
| P434 | 9.8     | 27.39     |
| P433 | 4.3     | 27.34     |

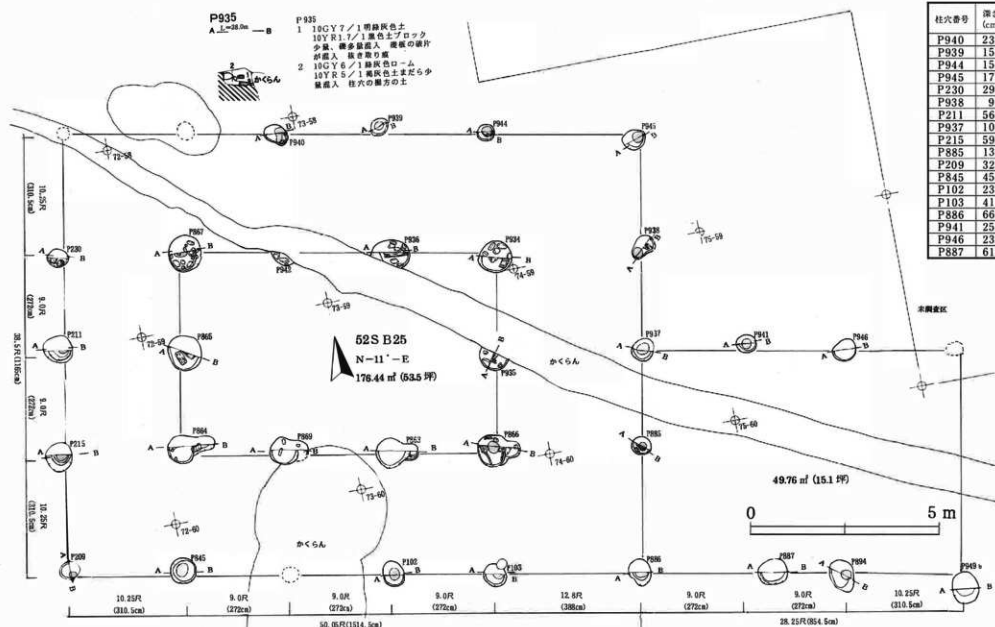


| 柱穴番号   | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|--------|---------|-----------|
| P 164b | 53.4    | 26.93     |
| P 891  | 38.7    | 26.97     |
| P 160  | 26.8    | 27.17     |
| P 162a | 55.3    | 26.86     |
| P1049  | 13.4    | 27.02     |
| P 310  | 51.6    | 26.85     |
| P 166  | 53.9    | 26.82     |
| P1036a | 23.3    | 26.85     |
| P1032  | 29.5    | 26.87     |
| P 976  | 26.3    | 26.82     |
| P 959  | 49.2    | 26.74     |
| P 961  | 47.4    | 26.80     |

第9図 掘立柱建物 (9) (52SB20・21)

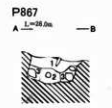


第10図 掘立柱建物 (10) (52SB22~24)

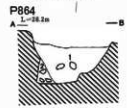


| 柱次番号 | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|------|---------|-----------|
| P840 | 23.9    | 27.25     |
| P899 | 15.0    | 27.30     |
| P944 | 15.9    | 27.34     |
| P945 | 17.2    | 27.23     |
| P230 | 29.2    | 27.45     |
| P838 | 9.6     | 27.33     |
| P211 | 56.2    | 27.43     |
| P937 | 10.0    | 27.24     |
| P215 | 59.9    | 27.46     |
| P865 | 13.4    | 27.29     |
| P209 | 32.0    | 27.46     |
| P845 | 45.4    | 27.40     |
| P102 | 23.0    | 27.46     |
| P108 | 41.2    | 27.45     |
| P866 | 66.8    | 27.15     |
| P941 | 25.0    | 27.29     |
| P946 | 23.9    | 27.30     |
| P887 | 61.0    | 27.17     |

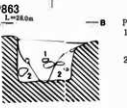
| 柱次番号  | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|-------|---------|-----------|
| P894  | 67.2    | 27.12     |
| P940b | 63.5    | 27.10     |
| P867  | 33.2    | 27.18     |
| P942  | 未測      |           |
| P936  | 27.5    | 27.10     |
| P934  | 33.0    | 27.08     |
| P865  | 72.1    | 27.13     |
| P935  | 24.1    | 27.13     |
| P864  | 64.5    | 27.27     |
| P869  | 53.2    | 27.16     |
| P863  | 63.0    | 27.09     |
| P866  | 28.6    | 27.13     |



- P867**
- 1 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土まだら多量混入  
腐食部付着
  - 2 5 Y 7 / 3 黄褐色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土まだら多量混入  
付着
  - 3 5 Y 7 / 3 黄褐色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土まだら少量混入  
腐方の土



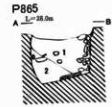
- P864**
- 1 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 4 / 1 黄褐色土まだら少量  
混入。10Y R 1.7 / 1 黒色土  
まだら少量混入。付着部有り腐  
蝕。腐食部付着
  - 2 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
腐。腐食部付着少量混入  
柱穴の腐方の土



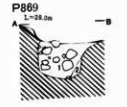
- P863**
- 1 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土まだら多量混入  
腐食部付着
  - 2 5 Y 8 / 4 黄褐色ローム  
腐多量混入。10Y R 1.7 / 1 黒色土少  
量混入。腐食部付着



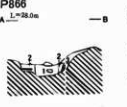
- P934**
- 1 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
腐多量。10Y R 1.7 / 1 黒色土  
ロッタ少量混入。腐食部付着
  - 2 7.43 Y 8 / 3 黄褐色ローム  
10Y R 5 / 1 黄褐色土。まだら少  
量混入。柱穴の腐方の土



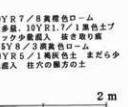
- P865**
- 1 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土少量混入  
腐食部付着。腐食部有り腐  
蝕
  - 2 2.5 Y 7 / 4 黄褐色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土まだら少量混入  
腐方の土



- P869**
- 1 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土。腐多量混入  
腐食部付着
  - 2 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 5 / 1 黄褐色土多量混入  
腐方の土



- P866**
- 1 10Y R 1.7 / 1 黒色土  
10Y R 7 / 8 黄褐色ロームまだ  
ら多量混入。付着
  - 2 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土まだら少  
量混入。柱穴の腐方  
腐蝕。付着部付着
  - 3 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 5 / 1 黒色土。まだら多  
量混入。腐食部付着



- P934**
- 1 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
腐多量。10Y R 1.7 / 1 黒色土  
ロッタ少量混入。腐食部付着
  - 2 7.43 Y 8 / 3 黄褐色ローム  
10Y R 5 / 1 黄褐色土。まだら少  
量混入。柱穴の腐方の土

第11図 掘立柱建物(11) (52S B25)

P230



P230

- 1 10Y R 5 / 1 褐色土  
腐化成分多量混入 平わけ層片装  
置混入 抜き取り裏
- 2 10Y R 1.7 / 1 黒色土  
10Y R 7 / 8 黄褐色ローム までら多  
量混入 柱穴の四方の土 底面に腐  
敗の成層あり

P215



P215

- 1 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 4 / 1 褐色土 までら少量混  
入 抜き取り裏
- 2 10Y R 1.7 / 1 黒色土  
5 Y 7 / 3 浅黄色ローム までら多量  
混入 柱底
- 3 5 Y 7 / 3 浅黄色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土 少量混入 柱底
- 4 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土 少量混入  
掘方の土

P211



P211

- 1 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 4 / 1 褐色土 までら少量混  
入 腐化物質少量混入 抜き取り裏
- 2 10Y R 1.7 / 1 黒色土  
5 Y 7 / 3 浅黄色ローム までら多量  
混入 柱底
- 3 5 Y 7 / 3 浅黄色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土 少量混入  
掘方の土

P209



P209

- 1 10Y R 1.7 / 1 黒色土  
10Y R 7 / 8 黄褐色ローム までらに  
多量混入
- 2 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土 までらに少量混入

P845



P845

- 1 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 5 / 1 褐色土 までら  
多量混入 掘少量混入
- 2 10Y R 5 / 1 褐色土  
10Y R 7 / 8 黄褐色ローム プ  
ロック多量混入
- 3 7.5Y 8 / 3 浅黄色ローム  
10Y R 5 / 1 褐色土 までら  
少量混入

P102



P102

- 1 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 4 / 1 褐色土 までら多量混入  
柱底
- 2 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 4 / 1 褐色土 までら少量混入  
掘方の土

P103



P103

- 1 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土 までら少  
量混入 柱抜き取り裏
- 2 10Y R 2 / 1 黒色土  
10Y R 7 / 8 黄褐色ローム と  
腐化物質 までらに多量混入  
柱底
- 3 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
腐化物質 10Y R 2 / 1 黒色  
土 少量混入

P886



P886

- 1 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土 少量混入  
抜き取り裏
- 2 10Y R 1.7 / 1 黒色腐化物質  
3 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土 までら少量混入  
抜き取り裏
- 4 5 Y 7 / 3 浅黄色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土 までら多量混入  
柱底
- 5 5 Y 7 / 3 浅黄色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土 までら少量混入  
掘方の土

P885



P885

- 1 10Y R 4 / 1 褐色土  
10Y R 7 / 8 黄褐色ローム プ  
ロック少量混入 柱底
- 2 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 4 / 1 褐色土 少量混入

P937



P937

- 1 10Y R 1.7 / 1 黒色土  
5 Y 8 / 3 浅黄色ローム まで  
ら多量混入 柱底
- 2 5 Y 8 / 3 浅黄色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土 少量混入  
柱穴の四方

P938



P938

- 1 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土 多量混入 柱底
- 2 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土 少量混入 掘方の土

P945



P945

- 1 10Y R 3 / 1 浅黄色土  
10Y R 7 / 8 黄褐色ローム までら少  
量混入 柱底
- 2 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 1 / 1 褐色土 までら少量混  
入 掘方の土

P944



P944

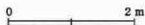
- 1 10Y R 1.7 / 1 黒色土  
5 Y 8 / 6 黄褐色ローム までら多量混  
入 柱底
- 2 5 Y 8 / 6 黄褐色ローム  
10Y R 1.7 / 1 黒色土 プロック少量混入  
掘方の土

P939



P939

- 1 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
腐化物質 10Y R 5 / 1 褐色土 までら  
多量混入 柱底
- 2 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 5 / 1 褐色土 までら少量混入  
掘方の土



第12図 掘立柱建物 (12) (52S B25柱穴)



P940

A L=28.0m — B



P940

- 1 5Y8/3 灰黄色ローム  
10YR1.7/1 黒色土少量混入まだら少量混入 柱方の土
- 2 10YR1.7/1 黒色土  
5Y8/3 灰黄色ロームブロック多量混入 柱穴の四方
- 3 5Y8/3 灰黄色土  
土 硬板の硬砂か

P941

A L=28.0m — B



P941

- 1 10YR4/1 黒灰色土  
10YR7/8 黄褐色ロームまだら少量混入 柱底か
- 2 10YR7/8 黄褐色ローム  
10YR1.7/1 黒色土少量混入 四方か
- 3 10YR3/1 黒褐色土  
10YR8/3 成黄褐色ロームまだら少量混入
- 4 10YR1.7/1 黒色土  
10YR8/3 成黄褐色ロームブロック少量混入

P946

A L=28.0m — B



P946

- 1 10YR5/3 に近い黄褐色砂
- 2 5YR8/3 灰黄色ローム  
10YR1.7/1 黒色土まだら多量混入 四方の土か

P887

A L=28.0m — B



P887

- 1 2.5Y8/4 灰黄色ローム  
少量の黒色土 抜き取り厚さ
- 2 10YR1.7/1 黒色土 硬多量混入  
しまりなし 抜き取り厚さ

P894

A L=28.0m — B



P949

- 1 10YR7/8 黄褐色ローム  
10YR3/1 黒褐色土まだら多量混入 柱底か
- 2 10YR7/8 黄褐色ローム  
10YR3/1 黒褐色土少量混入 四方か
- 3 10YR7/8 黄褐色ローム  
10YR1.7/1 黒色土ブロック多量混入

P949

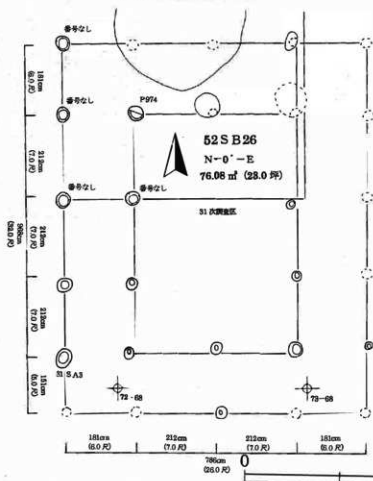
A L=28.0m — B



P949

- 1 10YR5/2 灰黄褐色土  
しまりなし 硬多量混入
- 2 10YR7/8 黄褐色ローム  
10YR4/1 黒灰色土まだら多量混入 人為的に増めた土?
- 3 10YR3/1 黒褐色土  
10YR7/8 黄褐色ロームブロック少量混入  
1~3層全体が抜き取り厚さ

0 2 m



P936

A L=28.0m — B



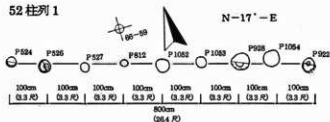
P936

- 1 10YR7/8 黄褐色ローム  
10YR1.7/1 黒色土まだらに少量混入  
硬多量混入 抜き取り厚さ
- 2 10Y8/1 明緑灰色土  
10YR1.7/1 黒色土まだらに少量混入  
四方の土

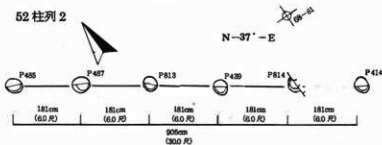
| 柱穴番号 | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|------|---------|-----------|
| P974 | 28.2    | 26.89     |

第13図 掘立柱建物 (13) (52S B25柱穴・52S B26)

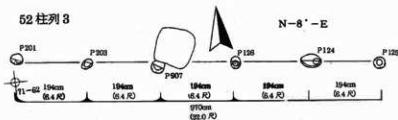
52 柱列 1



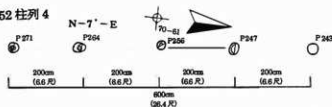
52 柱列 2



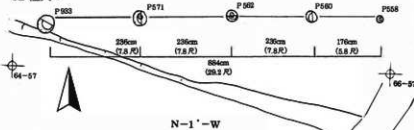
52 柱列 3



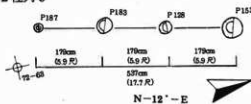
52 柱列 4



52 柱列 5



52 柱列 6



| 柱穴番号  | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|-------|---------|-----------|
| P 524 | 21.9    | 26.97     |
| P 526 | 34.5    | 26.81     |
| P 527 | 不明      | 不明        |
| P 812 | 不明      | 不明        |
| P1052 | 不明      | 不明        |
| P1053 | 不明      | 不明        |
| P 928 | 54.2    | 26.70     |
| P1054 | 不明      | 不明        |
| P 922 | 37.8    | 26.88     |

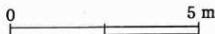
| 柱穴番号 | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|------|---------|-----------|
| P485 | 31.0    | 26.82     |
| P487 | 11.4    | 27.14     |
| P813 | 5.5     | 27.26     |
| P439 | 6.8     | 27.29     |
| P814 | 不明      | 不明        |
| P414 | 7.2     | 27.46     |

| 柱穴番号 | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|------|---------|-----------|
| P201 | 28.6    | 27.38     |
| P203 | 9.6     | 27.54     |
| P907 | 11.5    | 27.48     |
| P126 | 43.3    | 27.24     |
| P124 | 37.7    | 27.23     |
| P125 | 18.8    | 27.44     |

| 柱穴番号 | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|------|---------|-----------|
| P271 | 13.4    | 27.48     |
| P264 | 20.4    | 27.48     |
| P256 | 19.0    | 27.5      |
| P247 | 15.2    | 27.41     |
| P243 | 不明      | 不明        |

| 柱穴番号 | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|------|---------|-----------|
| P933 | 37.2    | 27.34     |
| P571 | 22.1    | 27.54     |
| P562 | 40.8    | 27.37     |
| P560 | 14.6    | 27.53     |
| P558 | 22.7    | 27.45     |

| 柱穴番号 | 深さ (cm) | 底面の標高 (m) |
|------|---------|-----------|
| P187 | 17.2    | 27.35     |
| P183 | 32.9    | 27.26     |
| P128 | 6.5     | 27.62     |
| P153 | 23.0    | 27.41     |



第14図 柱列 (52柱列1~6)

## 2 井戸状遺構

柳之御所遺跡52次調査では井戸状遺構を10基調査した。12世紀の井戸は52SE1、52SE7、52SE8、52SE9、52SE10。近世～近代の井戸は52SE2、52SE3、52SE4、52SE5、52SE6である。

### (1) 12世紀の井戸

52SE1 開口部は径2mほどであるが、深さ2m付近ですぼみ、径80cmほどに小さくなる。埋土は7層までが一気に堆積し、その後やや時間を経て1～6、8層が形成されたと推測される。遺物は2層から多量に遺物が出土している。遺物は瓦(3011、3012、3015、3021、3027～3035、3045～3048)、かわらけ(1～8、10～12、14、17～21、23、24、26)、瀬美産陶器片(1099)、白磁四耳壺底部片(2035)、穿孔のある石(6012)がある。瓦は平瓦、丸瓦の両者があるが、いずれも砂粒が多く軟質な焼成であり、共通した胎土をもっている。かわらけは2層の他に1層、3層からも少量出土している(9、15、16、22)。遺物はこのように上層部に集中するが、埋土中位の9層から白磁壺体部片(2054)、木製品(5195、5197)、他に11層から木製品(5196、5198)、最下層の12層から底部から口縁部まで残存する瀬美産陶器の片口鉢(1058)、中国陶器片(2100)、ロクロかわらけ(25)が出土している。図化できないかわらけ片は各層合わせて8,430g出土している。図化したかわらけの重量は3,690gであるので、52SE1全体で総計12,120gが出土している。また図示していない瀬美産陶器が4片(225g)出土している。図示したものも合計すると6片(1,110g)になる。また図示していない須恵器系陶器が2片(60g)ある。

52SE1は52SD1と重複するが、52SE1が古い。また52SE1の北西側に近接する溝52SD10からは52SE1の2層から出土した瓦と共通する瓦の大形片が出土している。よって両者は同時に開口していた可能性が高い。52SE1の時期は12世紀後半と推測される。

52SE7 深さが150cm程度で井戸と称するのは不適切だが、調査時に付した名称をそのまま使用する。2層からかわらけ(33～116)が多量に出土している。他に2層からは瀬美産壺片(1078、1079 2片合計128g)、古代の須恵器?片(1139 20g)が出土している。出土したかわらけは図示しなかった破片を含めて全てロクロかわらけである。また最下層の9層から竹製の編物と、ロクロかわらけ片(図示なし)が出土した。図化しなかったかわらけの総量は4,570g、図示したかわらけの総量は9,000g、総計で13,570gのかわらけが出土した。9層からの1片を除くと他は全て2層からの出土である。年代は2層から出土したロクロかわらけの形態から考えて12世紀前半代の遺構とするのが妥当である。

52SE7は大型建物52SB25の柱穴P845と切り合うが52SE7が古い。また52SE7は道路遺構の路面内に位置するので道路遺構とは同時存在ではない。

52SE8 下部でややふくらむ断面形を呈する。埋土は各層共に人為的な遺物を多く含み、人為を介しながら徐々に堆積したと考えられる。5層にはカモメ貝の巣穴のある粘板岩や大形の礫が何個か投げ込まれていた。特徴的なのは6層で焼けた壁土片で構成される層である。火災の後の焼けた壁土を人為的に集めて廃棄した層である。合計21,860gの焼けた壁土が出土した。5、6層からはかわらけが数点出土しているが二次焼熱している個体が多い。7、8層からは大きめの板材、部材が集中して出土した。これらは炭化している部分は無く、火災を受けた痕跡はない。9層、10層はかわらけや木製品などの遺物が多量に出土した。かわらけは重ねられている状態のものも多く、ほぼ一時に廃棄した遺物と考えられる。

出土したかわらけの形態から12世紀第4四半期の遺構である可能性が高い。9層から出土した折敷(5010)について年輪年代測定を奈良国立文化財研究所の光谷拓美氏に依頼した。結果は「1186年伐採」との結果をいただいた。

出土遺物は以下に列挙する。

かわらけ 9、10層出土・・・278点(117～178、180～395) 5、6層出土・・・8点(179、396～402) 図示していないかわらけの総重量は63,900g、図示したかわらけの総重量は20,425g 合計84,325gのかわらけが出土している。

国産陶器 上層、表層(1～3層)から常滑産片口鉢片(1003)、常滑産甕片(1031、1033、1047、1048)、渥美産山茶碗片(1057)、古代?の須恵器片(1134) 6層と7層から常滑産片口鉢(1008)、5層から常滑産甕片(1049)、9層から常滑産甕片(1037)が出土 他に図示しなかった陶器片は常滑産陶器20片(1,015g)、渥美産陶器11片(1,270g) 須恵器系陶器1片(35g)である。図示した陶器は常滑産陶器8片(963g)、渥美産陶器1片(35g)、須恵器1片(80g)である。

中国産陶磁器 6層からⅡ系の白磁壺片(2020)、緑釉陶器片(2077)、7層からⅡ系の白磁壺片(2027)、陶器壺片(2090)、9層からⅡ系の白磁壺片(2026)、Ⅲ系の白磁の壺片(2036、2046、2056、2065、2067)、陶器壺片(2082) 10層からⅡ系の白磁壺片(2024)が出土した。

瓦 表層から丸瓦片(3013、3018)、6層から軒丸瓦片(3002)、9層から平瓦片(3060)が出土

木製品 6層から3点(5053、5081、5132)、7層から21点(5001、5008、5085、5126、5149、5152、5153、5155、5158、5160、5162、5170～5172、5175～5177、5180、5186、5188、5192)、9～10層から170点(5002～5007、5009～5052、5054～5080、5082～5084、5086～5125、5127～5131、5133～5148、5150、5151、5154、5156～5157、5159、5161、5163～5169、5173、5174、5178、5179、5181～5185、5187、5189～5191、5193、5194)を図示した。

その他の遺物 5層から穴あき石(カモメ貝の巣穴がある粘板岩)(6001)、6層から瓦器片(6018)、7層から浮き彫りのある不明石製品(6011)、9層からカタカナの墨書がある手づくねかわらけ(6030)が出土した。

52SE9 開口部のプランは円形であるが、下部では方形のプランになる形状である。埋土上部の1～4層は礫や陶器片を多く含む層である。井戸が埋没した後、再び上部が陥没し、窪みになり、その部分に堆積した層と考えられる。6層からは完形のかわらけがまとまって出土した。埋土出土としているかわらけもおそらく6層からの出土である。7～8層は遺物の包含がほぼ無い。9～10層からは完形に近いかわらけや木製品が出土している。

出土したかわらけの形態から12世紀中葉の遺構の可能性が高い。出土遺物は以下に列挙する。

かわらけ 6層から12点(403～414)、出土層をはっきり認識できない埋土中位から4点(415～419)、10層から8点(419～426)を図示した。図示できなかったかわらけ片の総重量は10,700g、図示したかわらけの総重量は5,100gで合計15,800gのかわらけが出土した。

国産陶器 埋土上部から出土の常滑産陶器(1028)、渥美産甕片(1084、1089、1091)、須恵器系陶器甕(1115)を図示した。他に図示していない陶器は常滑産陶器17片(1,590g)、渥美産陶器75片(6,390g)、須恵器系陶器3片(620g)がある。図示していない陶器のほとんどは埋土上部の1～4層から出土した。図示したものは常滑産陶器1片(40g)、渥美産陶器3片(355g)、須恵器系陶器1片(95g)である。

中国産陶磁器 埋土からII系の白磁壺片 (2039)、10層からII系の白磁壺片 (2049) が出土した。

瓦 平瓦片 (3059) が出土した。

木製品 9~10層から折敷 (5201)、板材 (5202)、部材 (5203)、曲物 (5204) が出土した。

52SE10 深さ230cmほどで割合に浅い。下部の8層は一気に埋めた土と考えられる。9層は炭化物が多く混じる層で箸が1本出土した。5層からはかわらけが多量に出土した。上層出土としたかわらけも5層に帰属として良いと思われる。かわらけは99点図示した。小型かわらけが74点、大型かわらけが15点、柱状高台かわらけ5点、大型の柱状高台の高坏が5点ある。小型かわらけが大型かわらけのより圧倒的に多いのが特徴的である。5層以外からは遺物の出土がほとんどなかった。出土したかわらけの形態から12世紀初頭の遺構と推測される。

出土遺物は5層 (上層として取り上げたものを含め) 出土のかわらけを99点 (427~525) 図示した。他に図示していないかわらけが2,200gある。これも5層からの出土である。図示したかわらけの総重量は8,715gで合計10,915gが出土した。他に5層から古代の土師器長胴甕片 (526)、古代の須恵器大甕片 (527)、埴塀片 (528) が出土している。また9層から箸 (5205) が出土した。

## (2) 近世~近代の井戸

52SE2、52SE3、52SE4、52SE5、52SE6は近世~近代の井戸である。これらはいずれも底面まで掘り下げていない。いずれの井戸からも12世紀の遺物が出土しているがこれらは混入であるので個々については述べない。

52SE2 4m20cmまで掘り下げたが底面に達しなかった。近世前半の井戸の可能性が高い。

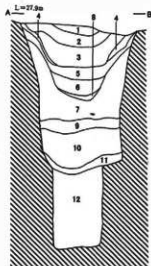
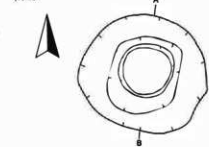
52SE3 52SE4と重複するが52SE3が新しい。また52SD6より新しい。18世紀代の肥前産の磁器皿 (4047) が出土しており、18世紀以降の井戸と考えられる。

52SE4 52SE3より古い。12世紀の可能性も捨てきれないが、近世の所属の可能性が高い。

52SE5 52SD6と重複するが前後関係を判断できなかった。同時存在の可能性もある。52SD6からは18世紀代の陶磁器片が出土しており、52SE5もその頃の遺構の可能性が高い。

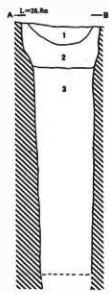
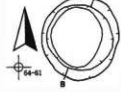
52SE6 木製の枠がある井戸である。52SD8と重複するが、52SE6が古い。18世紀代の肥前産陶器鉢片 (4017) が出土しており、近世後半の遺構と考えられる。

52S E 1



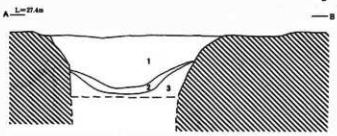
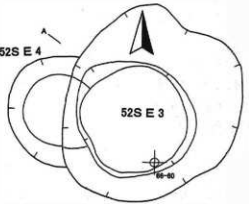
- 52S E 1
- 1 10Y R 6 / 1 灰黄褐色土
  - 10Y R 8 / 6 黄褐色ロームがブロック状に  
混入 炭化物粒少量混入
  - 2 10Y R 4 / 2 灰黄褐色土
  - 10Y R 8 / 6 黄褐色ロームブロックが少量  
混入 炭化物粒、かわらけ片混入
  - 3 10Y R 4 / 1 黄褐色土 レンズ状にラミナ  
が入る 遺物ほほとんど含まない 自然堆  
積層
  - 4 10Y R 8 / 6 黄褐色ローム 微量の炭化物  
粒混入 しりみがある
  - 5 10Y R 4 / 1 黄褐色土と10Y R 8 / 6 黄褐  
色ロームの2層黄褐色ロームが卓越する
  - 6 10Y R 8 / 1 灰白色ローム
  - 10Y R 4 / 1 黄褐色土まだらに少量混入
  - 7 10Y R 8 / 8 黄褐色ローム
  - 10Y R 4 / 1 黄褐色土まだらに少量混入
  - 8 10Y R 3 / 1 黄褐色土
  - 10Y R 8 / 6 黄褐色ロームまだらに少量混入
  - 9 10G Y 8 / 1 明緑褐色ローム  
N 5 / 灰白色まだら少量混入
  - 10 10G Y 8 / 1 明緑褐色砂
  - N 5 / 灰白色まだら少量混入
  - 11 10Y R 1.7 / 1 褐色炭化物層
  - 12 10G Y 8 / 1 明緑褐色土  
N 5 / 灰白色まだら少量混入

52S E 2



- 52S E 2
- 1 10Y R 6 / 1 灰黄褐色土  
炭化物粒、陶土少量混入
  - 2 10Y R 5 / 2 灰黄褐色土
  - 10Y R 7 / 3 黄褐色ロームまだらに多量混入
  - 3 10G 4 / 1 明緑褐色土  
5 G 7 / 1 明緑褐色ロームブロックが多量混  
入 盛っている

52S E 4



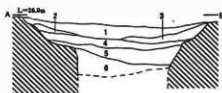
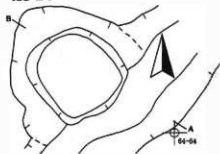
- 52S E 3
- 1 10Y R 6 / 1 灰黄褐色土 漆、陶器片多量混入
  - 2 10Y 4 / 1 灰白色土 10G 6 / 1 緑褐色ロームまだらに多量混  
入
  - 3 10G 6 / 1 緑褐色ローム 砂少量混入

52S E 4  
注記なし



第15図 井戸状遺構 (1) (52S E 1~4)

52S E 5

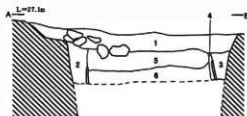
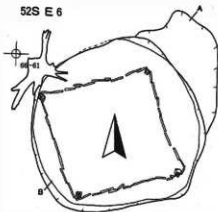


52S E 5

- 1 10Y R 6 / 1 褐色土 酸化鉄分多量に混入
- 2 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム
- 3 10Y R 5 / 1 褐色土 雑草混入する
- 4 10Y R 5 / 1 褐色土 水溜りより生成
- 5 10Y R 7 / 4 ぶい黄褐色砂
- 6 10Y R 7 / 1 灰白色砂 10Y R / 4 にぶい黄褐色砂少量混入

52S E 5 と 52S D 6 が重なるのが前後関係を判断できない。  
同時存在の可能性がある。

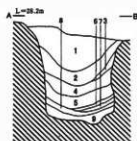
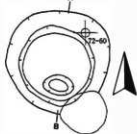
52S E 6



52S E 6

- 1 5Y 5 / 1 灰色土 酸化鉄分多量混入 炭化物粒多量混入
- 2 10GY 7 / 1 明緑灰色砂 N5 / 灰色土まだらに混入
- 3 10GY 7 / 1 明緑灰色土 10GY 3 / 1 明緑灰色土まだら多量混入
- 4 5GY 5 / 1 オリーブ灰色土 腐材が炭化した土
- 5 10GY 3 / 1 明緑灰色土 10GY 7 / 1 明緑灰色砂まだらに混入
- 6 10GY 3 / 1 明緑灰色土 10GY 7 / 1 明緑灰色砂多量に混入

52S E 7



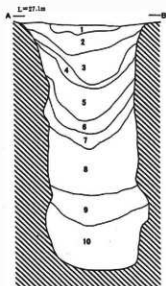
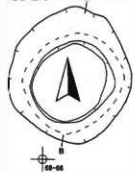
52S E 7

- 1 10Y R 6 / 1 褐色土 10Y R 7 / 8 黄褐色ロームブロック多量混入 炭化物粒多量混入 かわらけ片少量混入
- 2 10Y R 4 / 1 褐色土 炭化物粒多量混入 泥濘のクワロかわらけ多量に混入
- 3 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム 10Y R 4 / 1 褐色土まだらに少量混入
- 4 10Y R 5 / 2 灰黄褐色土 炭化物粒少量混入
- 5 10Y R 5 / 1 褐色土 10Y R 7 / 8 黄褐色ロームブロック多量混入 炭化物粒多量混入
- 6 10Y R 1.7 / 1 黒色土 10Y R 5 / 1 褐色土まだらに多量混入
- 7 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム 炭化物粒多量混入
- 8 10GY 7 / 1 明緑灰色土 酸化鉄分多量に混入
- 9 10Y R 5 / 1 褐色土 炭化物粒多量混入

0 2 m

第16図 井戸状遺構 (2) (52SE5~7)

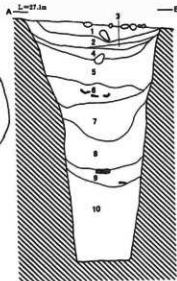
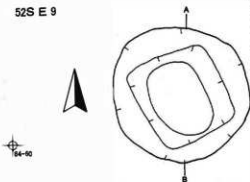
52S E 8



52S E 8

- 1 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム 10B C 明緑灰色土ま  
だらに少量混入 炭化物粒多量に混入
- 2 10Y R 5 / 2 灰黄褐色土 炭化物粒多量混入  
腐葉多量に混入
- 3 10Y R 7 / 4 黄褐色ローム 10Y R 5 / 2 灰黄褐  
色土まだらに多量混入 腐葉非常に多量混入
- 4 10Y R 3 / 1 黒褐色土 10Y R 7 / 8 黄褐色ロ  
ームまだらに多量混入
- 5 10Y R 2 / 1 黒褐色土 炭化物粒、かわらけ片  
多量混入 腐けた登土片少量混入
- 6 2.5Y R 6 / 8 褐色の腐けた登土片で構成される腐  
炭化物粒多量に混入
- 7 10Y R 1 / 1 黒色炭化物層 かわらけ片多量混入  
腐けた登土片少量混入
- 8 10GY 7 / 1 明緑灰色土 炭化物粒多量に混入  
腐材を含む
- 9 10GY 4 / 1 暗緑灰色ローム 完形かわらけ  
木製品、自然木屑を非常に多量に含む
- 10 10GY 6 / 1 緑灰色砂 部分的に褐色のロームを含  
む 完形かわらけ、木製品を非常に多量含むが9層  
よりはやや少ない

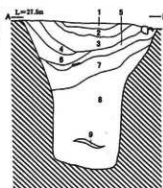
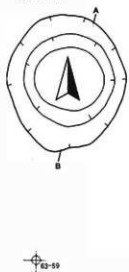
52S E 9



52S E 9

- 1 10Y R 5 / 4 にぶい黄褐色土  
腐葉多量混入
- 2 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム  
10Y R 6 / 1 黒灰色土まだらに  
多量混入 腐炭粒少量混入
- 3 10Y R 6 / 1 黒灰色土  
5Y 8 / 3 黄褐色ロームまだら  
少量混入
- 4 10Y R 6 / 1 黒灰色土  
腐炭粒少量混入
- 5 2.5GY 4 / 1 暗オリーブ灰色土  
炭化物粒、腐葉多量混入木片混入
- 6 10Y R 4 / 1 黒灰色土  
10GY 7 / 1 明緑灰色ロームを  
まだらに多量混入 完形かわら  
けを含む
- 7 2.5GY 4 / 1 暗オリーブ灰色土  
10GY 7 / 1 明緑灰色ロームを  
腐炭に多量混入
- 8 10GY 7 / 1 明緑灰色砂  
10GY 3 / 1 暗緑灰色土まだらに多  
量混入
- 9 10GY 3 / 1 暗緑灰色土 木屑、  
木片、腐物片を含む
- 10 10GY 5 / 1 緑灰色土  
10Y R 6 / 1 黒灰色土をブロック  
状に少量混入

52S E 10



52S E 10

- 1 10Y R 5 / 2 灰黄褐色土 炭化物粒、腐土粒少量混入
- 2 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム 炭化物粒、10Y R 5 / 2 灰黄褐  
色土まだらに少量混入
- 3 5Y 5 / 1 灰色土 腐土ブロック、炭化物粒多量混入 10Y  
R 7 / 8 黄褐色ロームブロック少量混入
- 4 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム 5Y 5 / 1 灰色土ブロック多量  
混入
- 5 7.5Y 5 / 1 灰色土 10Y R 7 / 8 黄褐色ロームブロック少  
量混入 完形かわらけ (種族高弁など) 多量に含む
- 6 5Y 8 / 3 黄褐色ローム 7.5Y 5 / 1 灰色土まだらに多量  
混入
- 7 5Y 8 / 2 灰色ローム 腐炭粒少量混入 7.5Y 5 / 1 灰  
色土腐炭に少量混入
- 8 5Y 8 / 2 灰色土 (砂-砂い) 7.5Y 5 / 1 灰色土ブロッ  
ク状に少量混入 炭化物粒少量混入
- 9 10Y R 3 / 1 黒褐色土 木屑多量含む

0 2 m

第17図 井戸状遺構 (3) (52SE8~10)



### 3 土坑

39基を調査した。12世紀に属する土坑は52SK1、52SK9～14、52SK21、52SK22、52SK24、52SK25、52SK28～33、52SK35～38の21基がある。近世～近代に属する土坑は52SK2～8、52SK16～20、52SK26、52SK27がある。52SK39は時期不明である。52SK15、52SK23は調査時に土坑の名称を付したがどちらも52SB23を構成する柱穴になった。

#### (1) 12世紀の土坑

52SK1 52SD1より古い。ロクロかわらけ(529)が出土している。他に図示していないかわらけ片が3,220gある。図示したかわらけは250gである。合計3,470gの出土である。国産陶器は常滑産三筋壺片(1011 15g)を図示した。他に図示していない常滑産陶器が3片(85g)、瀬美産陶器4片(450g)が出土している。

52SK9 底面に瓜の種子を含む土があり、「トイレ状土坑」に分類される。遺物の出土はない。

52SK10 下部の6層は有機質分の多い土で「トイレ状土坑」に分類される。12世紀の溝52SD10と接するが前後関係を明らかにできなかった。埋土からII系の白磁壺片(2051)が出土した。また6層からはチュウ木が出土した。図示したのは5206～5215の10点であるが、図示していないものも多量にある。また図示していない常滑産陶器1片(15g)、瀬美産陶器4片(240g)が出土している。

52SK11 顕著なトイレ状土坑特有の土ではないが5層からチュウ木が多量に出土しており、「トイレ状土坑」と判断される。図示したかわらけは530～535の5点である。他に図示していないかわらけが5,080gある。図示したかわらけ675gと合わせると5,755gになる。また埋土から瓦片(3036、3037、3064、3065)が出土している。他に図示していない瀬美産陶器5片(135g)、須恵器系陶器1片(85g)が出土している。チュウ木は5層から多量に出土したが図示したのは5216～5226の21点である。様々な形状があり、他の製品を割って転用したものである。5232～5236には黒漆塗りが観察できる。5236は2片が接合したが、ものさしに類似する刻みがある製品である。また墨書のある手づくねかわらけ片(6030)が出土している。墨書は内外面にある。

52SK12 埋土はトイレ状土坑の土とは異なる。手づくねかわらけ(536)が出土している。これは磨耗が著しい個体である。もう一個体完形に近いかわらけがあったが、磨耗が著しく、接合できなくなり図化できなかった。これも合わせ図示していないかわらけが3,665g出土した。図示したかわらけとの合計は3,890gである。他に図示していない常滑産陶器1片(15g)が出土している。

52SK13 埋土の下部5層から種子が出土し「トイレ状土坑」と判断される。ロクロかわらけ(537、538)が2～3層から出土している。他に図示していないかわらけが1,930g出土した。図示したかわらけの重量を合わせると2,110gの出土である。他に図示していない瀬美産陶器2片(90g)が出土している。

52SK14 明瞭なトイレ状土坑の埋土ではないが、形状と深さから考えてトイレ状土坑である可能性が高い。かわらけは4点(539～542)を図示した。いずれもロクロかわらけである。他に図化しなかったかわらけが540gある。図化したものとの合計は1,180gである。

52SK21 埋土下部の2層は有機質分の多い土で、トイレ状土坑と判断される。かわらけは3点(543～545)図示した。図示していないかわらけ片が10,560g、図示したものも加えると10,740gになる。また埋土から瀬美壺片(1081 365g)、中国陶器(2087)が出土した。他に図示していない瀬美産陶器が1片(50g)、須恵器系陶器1片(30g)が出土している。

52S K22 52S K23 (52S B23の柱穴)と重複するがそれよりも古い。最下層3層は炭化物質であり、土坑の形状と合わせてトイレ状土坑の可能性が高い。かわらけは1点(546)図示した。他に図化していないかわらけが1,430g出土した。図化したものを合わせると1,490gになる。

52S K24 52S B13の柱穴P143と重複するがそれよりも古い。下半部の埋土は有機質分の多い土でチュウ木と種子が多量に出土し、トイレ状土坑であることを示している。かわらけは8個(547~554)図示した。図示していないかわらけ片は7,155gで、図示したものを加えると8,095gになる。他に図示していない常滑産陶器1片(85g)、渥美産陶器2片(65g)、須恵器系陶器1片(45g)が出土した。チュウ木は18点(5237~5253)のみを図示したが、他にも6~8層から多量に出土している。大半のものは5237~5240のような断面が角形の棒状のチュウ木である。他に8層出土の木片(5254)と4層出土の部材(5255)も図示した。また6層から鉄製の札(さね)が3枚(6026~6028)出土した。6026と6027は癒着した状態、6028は少し離れて出土した。いずれも表面には黒漆が塗られている。威糸の痕跡はない。

52S K25 埋土下部の4層から種子が出土しておりトイレ状土坑と判断される。52S B13の柱穴P921bと重複するがそれよりも古い。かわらけは1点(555)図示した。他に図示していないかわらけが365g出土した。図示したものを加えると420gになる。

52S K28 皿状の浅い土坑である。2層からほぼ完形の手づくねかわらけが少量まとまって出土した。いずれも非常に磨耗している。図示したのは6点(557~562)である。他に図示していないかわらけが1,155gが出土している。図示したものを合計すると1,760gになる。また埋土から常滑産三筋壺の破片(1012)が出土している。

52S K29 埋土はトイレ状土坑のものとは異なる。かわらけは5点(563~567)図示した。図示しなかったかわらけは1,860gある。図示したものと合計は2,555gになる。

52S K30 埋土はトイレ状土坑のものとは異なる。完形のかかわらけが数点まとまって出土した。図示したのは5点(568~572)でいずれもロクロかわらけである。他に図示していないかわらけが885gある。図示したものを加えると1,515gになる。

52S K31 埋土はトイレ状土坑のものとは異なる。52S I1と重複するがそれよりも古い。

52S K32 埋土はトイレ状土坑のものとは異なる。かわらけは1点(573)を図示した。他に図示していないかわらけが235g出土した。図示したものと合わせると330gになる。

52S K33 埋土はトイレ状土坑とは異なる。かわらけは4点(574~577)図示した。他に図示していないかわらけが725g出土した。図示したものを合わせると1,060gの出土になる。

52S K35 浅い土坑である。底面から完形かわらけが少量出土している。図示したのは2点(578、579)である。図示したものの以外にかかわらけ片が170g出土している。図示したものと合わせると540gになる。

52S K36 当初柱穴の番号を付したが調査の結果土坑と判明したので名称を変更した。埋土はトイレ状土坑とは異なる。底面から完形のかかわらけが出土した。かわらけは4点(580~583)を図示した。いずれもロクロかわらけである。図示した以外に1,040gかわらけが出土している。図示したものを合わせると1,715gになる。他に図示していない須恵器系陶器3片(390g)が出土した。

52S K37 埋土は典型的なトイレ状土坑のものとは異なるが、土坑の形状からトイレ状土坑の可能性が高い。本遺構は道路状遺構の道路側溝52S D30と重複するが、52S D30の残存状態が非常に悪く、前後関係を判別できなかった。また52S K37は大型建物52S B25のプラン内にあり、同時存在ではない。かわらけは2点(584、585)を図示した。図示した以外に350gかわらけが出土している。図示したものを合わせると520gである。

52SK38 浅い土坑である。かわらけは1点(586)を図示した。他に図示していないかわらけが190g出土した。図示したものを合わせると365gの出土になる。また図示していない程美産陶器が2片(200g)が出土した。

## (2) 近世～近代の土坑

52SK2 皿状の土坑である。埋土下半の2層は礫で構成される層である。礫に混じって近世陶磁器片、砥石、12世紀の瓦、国産陶器片が混じる。不要の礫などを集めて廃棄した土坑と考えられる。出土した近世陶磁器には19世紀前半の大堀相馬産の陶器碗(4018)、18世紀代の瀬戸産の播鉢(4022)、瀬戸産?の鉢(4025)18世紀後半～19世紀初頭の肥前産の青磁香炉(4050)がある。これらの近世陶磁器から19世紀以降に形成された土坑と考えられる。

52SK3 皿状の土坑である。52SD6と重複するがそれよりも新しい。12世紀の国産陶器片が多数出土したが近世の陶磁器も出土しており、近世以降の土坑である。近世陶磁器は18世紀代の陶器碗(4012、4013)、18世紀前半の肥前産陶器碗(4015)、19世紀前半?の大堀相馬?産の陶器碗(4019)、18世紀の瀬戸産播鉢(4021)、17世紀前半の肥前産磁器皿(4032、4039、4040)がある。本遺構より古い52SD6からも18世紀代の遺物が出土しており、本遺構の年代は19世紀以降の可能性が高い。

52SK4 52SK6と重複するが本遺構が新しい。埋土に大きめの礫を多量に含んでいる。

52SK5 底面は皿状を呈する土坑である。12世紀の遺物を多量に含んでいたが埋土の質感から近世以降のものと判断した。

52SK6 52SK4と重複するが本遺構が古い。また52SD7と重複するが本遺構が新しい。

52SK7 52SD6と重複するが本遺構が古い。時期ははっきりしないが埋土の質感から近世以降の遺構と判断した。

52SK8 規模の小さい土坑である。SB17のP842と重複するが本遺構が新しい。18世紀代の肥前産磁器皿(4048)が出土している。近世後半以降の土坑である。

52SK16 52SD22と重複するがそれよりも新しい。52SD22は近世以降の溝と考えられ、それより新しい本遺構も近世以降の遺構ということになる。

52SK17 52SD17と重複するが本遺構が古い。時期ははっきりしないが、埋土の質感から近世以降の遺構と考えられる。

52SK18 52SB14の柱穴P901と重複するが、本遺構が新しい。底面は皿状で一部分が深く窪む。胎土には礫が混じる。埋土の質感から近世以降の遺構と判断される。

52SK19 出土物はないが、埋土の質感から近世以降のものと判断される。

52SK20 52柱列3の柱穴P125と重複するが本遺構が古い。埋土の質感から近世以降の遺構と判断される。

52SK26 皿状の底部で、水貯めのような用途と推測される。出土遺物は17世紀前半の肥前産陶器皿(4008)、19～20世紀の陶器甕(4026)、16世紀代の中国産の染付皿(4027)を図示した。他に図示しなかったがプリントの磁器碗も出土しており、20世紀に下る遺構と判断できる。

52SK27 浅い土坑で中央が円形に盛り上がっている。52SB3の内部にあり、52SB3に伴う施設の可能性がある。周辺が焼けているわけではないが、位置から考えて炉の施設痕跡である可能性が考えられる。

52SB3に伴うのであれば17世紀前半の年代が与えられる。

52SK34 埋土の質感から考えて、非常に新しい近年のものと考えられる。

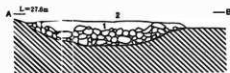
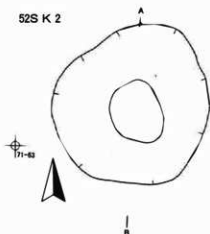
52S K 1



52S K 1

- 1 10Y R 5 / 2 灰黄褐色土 かわらけ片、炭化物粒、焼土粒少量混入
- 2 10Y R 5 / 1 黄褐色土 炭化物粒、焼土粒少量混入
- 3 10Y R 5 / 1 黄褐色土 炭化物粒、焼土粒まだらに全体に多量混入
- 4 10Y R 4 / 2 灰黄褐色土 炭化物粒少量混入
- 5 10Y R 8 / 3 黄褐色ローム 10Y R 5 / 1 黄褐色土まだらに多量混入
- 6 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム 10Y R 5 / 1 黄褐色土まだらに少量混入

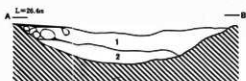
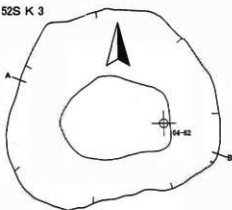
52S K 2



52S K 2

- 1 10Y R 6 / 4 に近い黄褐色土 炭化物粒少量混入
- 2 硬層

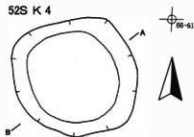
52S K 3



52S K 3

- 1 10Y R 5 / 3 に近い黄褐色土 炭化物粒少量混入
- 2 10Y 5 / 1 灰色ローム 砂少量混入 近世陶磁器出土

52S K 4



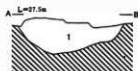
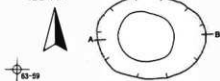
52S K 4

- 1 10Y R 7 / 8 黄褐色ロームの焼土 10Y R 6 / 1 灰白色土 まだらに混入



第18図 土坑 (1) (52S K 1~4)

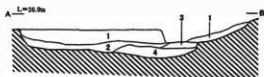
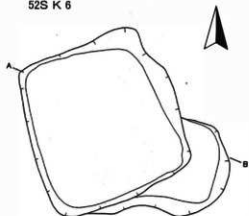
52S K 5



52S K 5

- 1 10Y R 6 / 1 褐色土 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム まだらに少量混入 縦、磨耗したかわらけ片少量混入

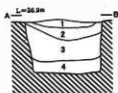
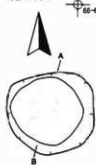
52S K 6



52S K 6

- 1 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム 10Y R 4 / 1 褐色土 まだら少量混入  
2 10Y R 4 / 1 褐色土 縦、陶器片混入  
3 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム 10Y R 3 / 1 黒褐色土 まだらに少量混入  
4 10Y R 2 / 2 黒褐色土 10Y R 7 / 8 黄褐色ロームブロック少量混入

52S K 7



52S K 7

- 1 10Y R 8 / 8 黄褐色ローム 陶器片含む  
2 10Y R 4 / 1 褐色土  
3 10Y R 8 / 8 黄褐色ローム まだらに少量混入 縦、陶器片少量混入  
4 10Y R 4 / 1 褐色土 まだらに少量混入  
15C 7 / 1 明緑灰色砂  
10Y R 8 / 8 黄褐色土 まだらに少量混入

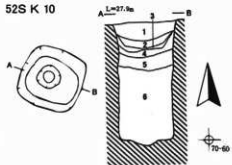
52S K 8



52S K 8

- 1 10Y R 5 / 1 褐色土 炭化物混入 近代以降の磁器片出  
2 10Y R 5 / 2 灰黄褐色土

52S K 10



52S K 10

- 1 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム 10Y R 6 / 1 褐色土 まだらに少量混入  
2 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム 10Y R 6 / 1 褐色土 まだらに少量混入 1  
3 10Y R 1.7 / 1 黒色土 炭化物少量混入  
4 10Y R 6 / 1 褐色土 炭化物少量混入  
5 5Y R / 4 灰黄色ローム 10Y R 6 / 1 褐色土と炭化物少量混入  
6 10Y R 2 / 1 黒色土 炭化物少量混入 有機質分の多い土 腐り臭あり

52S K 9

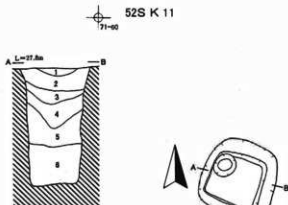


52S K 9

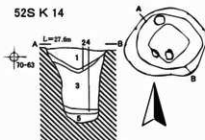
- 1 10Y R 1.7 / 1 黒色土 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム まだらに少量混入 人為的に増大した  
2 10Y R 1.7 / 1 黒色土 灰の粒子少量に含む



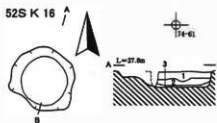
第19図 土坑(2) (52SK5~10)



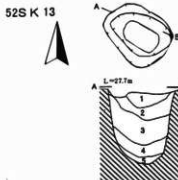
- 52S K11
- 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム 互片, 炭化物粒混入
  - 10Y R 5 / 1 薄灰色土 10Y R 7 / 8 黄褐色ロームまだらに少量混入
  - 10Y B 6 / 6 明黄褐色ローム 10Y R 6 / 1 薄灰色土まだらに少量混入
  - 10Y R 5 / 1 薄灰色土 炭化物粒少量混入 磁りあり
  - 10G Y 8 / 1 明緑灰色ローム 10Y R 5 / 1 薄灰色土少量混入 炭化物粒少量混入 磁りあり
  - 10G Y 7 / 1 明緑灰色土 炭化物少量混入



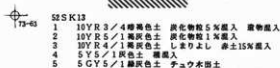
- 52S K14
- 10Y R 5 / 1 薄灰色土 炭化成分, 炭化物粒少量混入
  - 10Y R 1.7 / 1 黒色土 かわらけ片含む
  - 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム 10Y R 5 / 1 薄灰色土まだらに少量混入
  - 10Y R 4 / 1 薄灰色土 10Y R 7 / 8 黄褐色砂少量混入
  - 10B G 7 / 1 明緑灰色砂 10Y R 4 / 1 薄灰色土少量混入



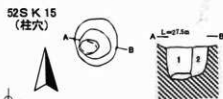
- 52S K16
- 10Y R 5 / 8 黄褐色ローム土 10Y R 7 / 8 黄褐色ロームまだらに混入
  - 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム 10Y R 5 / 1 薄灰色土まだら少量混入
  - 10Y R 5 / 1 薄灰色土炭化物粒少量混入



- 52S K12
- 10Y B 3 / 1 黒褐色土 炭化物粒 5%混入 炭化物混入
  - 2.5Y R 7 / 3 黄褐色土 黒色土20%混入
  - 2.5Y 6 / 4 によい黄褐色土 しまりよし



- 52S K13
- 10Y R 3 / 4 暗褐色土 炭化物粒 5%混入 炭化物混入
  - 10Y R 5 / 1 薄灰色土 炭化物粒 1%混入
  - 10Y R 4 / 1 薄灰色土 しまりよし 赤土15%混入
  - 5Y 5 / 1 灰色土 薄混入
  - 5CY 5 / 1 緑灰色土 チェウ木田土



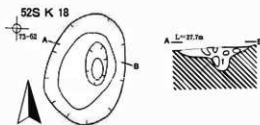
- 52S K15
- 10Y R 5 / 2 灰黄褐色土 赤土3%混入 しまりよし
  - 10Y R 4 / 2 灰黄褐色土 2.5Y 7 / 3 黄褐色土30%混入 砂, 赤土7%混入 しまりよし



- 52S K17
- 10Y R 5 / 1 薄灰色土 10Y R 7 / 8 黄褐色ロームブロック少量混入
  - 10Y R 5 / 1 薄灰色土 炭化物粒少量混入
  - 10Y R 7 / 8 黄褐色ローム 10Y R 5 / 1 薄灰色土まだらに少量混入
  - 10Y R 5 / 1 薄灰色土 10Y R 7 / 8 黄褐色ロームブロック少量混入

0 2 m

第20図 土坑 (3) (52S K11~17)



52SK 18

1 10YR 4/2 灰黄褐色土 礫多量混入 10YR 7/8 黄褐色ロームブロックまだらに少量混入

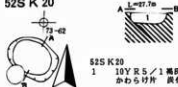
52SK 19



52SK 19

1 10YR 5/8 黄褐色土 10YR 7/8 黄褐色ロームまだらに少量混入

52SK 20



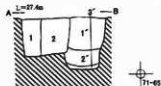
52SK 20

1 10YR 5/1 黄褐色土 かわらけ片 炭化物粒少量混入

52SK 22



52SK 23  
(柱穴)



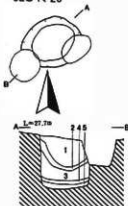
52SK 22

1' 10YR 5/1 黄褐色土 かわらけ細片 炭化物粒少量混入  
2' 7.5YR 7/3 灰黄色ローム 10YR 5/1 黄褐色土少量混入 炭化物粒少量混入  
3' 10YR 1.7/1 黄褐色土 7.5YR 7/3 灰黄色ロームブロック少量混入

52SK 23 (52SK 22の柱穴に使用)

1 10YR 5/1 黄褐色土 10YR 7/8 黄褐色ローム、かわらけ細片 炭化物粒少量混入 柱底 骨白磁片出土  
2 10YR 7/8 黄褐色土 10YR 4/1 黄褐色土まだらに少量混入 かわらけ細片少量混入

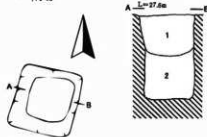
52SK 25



52SK 25

1 10YR 4/2 灰黄褐色土 10YR 7/8 黄褐色ロームまだら少量混入 炭化物粒少量混入  
2 10YR 4/2 灰黄褐色土 炭化物粒少量混入  
3 10YR 7/8 黄褐色ローム 10YR 8/2 灰色ロームまだらに少量混入  
4 10YR 8/2 灰色土 炭化物粒、有機質少量混入 種子混入  
5 10YR 8/2 灰色土 炭化物少量混入

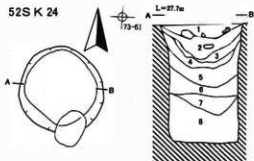
52SK 21



52SK 21

1 10YR 5/2 灰黄褐色土 かわらけ細片 炭化物粒少量混入  
2 10YR 4/1 黄褐色土 炭化物粒少量混入 有機質少量、かわらけ細片少量混入

52SK 24



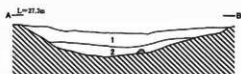
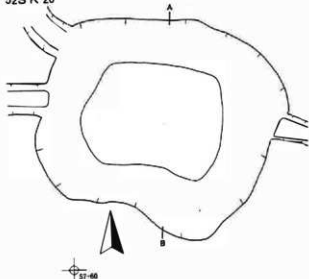
52SK 24

1 10YR 7/8 黄褐色ローム 10YR 4/1 まだら少量混入 礫混入  
2 10YR 1.7/1 黄褐色土 10YR 7/8 黄褐色ロームブロック少量混入 礫含む  
3 10GY 8/1 明緑灰色ローム 炭化糞少量混入  
4 10GY 5/1 黄褐色ローム 10YR 1.7/1 黄褐色土まだらに少量混入  
5 7.5GY 7/1 明緑灰色土 炭化物石灰状少量混入  
6 7.5GY 7/1 明緑灰色土 10YR 5/1 黄褐色土少量混入 炭化物粒、ちゅう木を多量に混入 有機質分の多い土  
7 10GY 7/1 明緑灰色土 10YR 5/1 黄褐色土少量混入 有機質分の多い土 ちゅう木を含む  
8 10GY 7/1 明緑灰色土 10YR 5/1 黄褐色土少量混入 炭化物粒多量に混入、有機質分の多い土



第21図 土坑(4) (52SK 18~25)

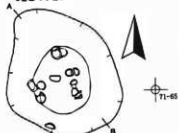
52S K 26



52S K 26

- 1 10YR 3 / 1 黄褐色土 炭化成分少量混入 炭化物粒少量混入
- 2 10YR 5 / 1 黄灰色土 炭化成分少量混入 近代の磁器片含む

52S K 28



52S K 28

- 1 10YR 5 / 2 灰黄褐色土
- 2 10YR 5 / 1 黄灰色土 炭化成分少量混入 磁、瓦形かわらけ混入
- 3 10YR 7 / 8 黄褐色ローム 10YR 5 / 1 黄灰色土まだら少量混入 炭化物粒少量混入
- 4 10YR 4 / 1 黄灰色土 10YR 7 / 8 黄褐色砂少量混入

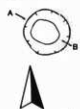
52S K 27



52S K 27

- 1 5YR 6 / 1 灰色土
- 2 5YR 8 / 3 灰黄色ロームブロック多量混入

52S K 29



52S K 29

- 1 5Y 7 / 8 黄色ローム 10YR 4 / 2 灰黄褐色ブロック下半に少量混入ローム 炭化物粒少量混入 かわらけ半片混入人為的に埋めた土
- 2 10YR 4 / 2 灰黄褐色土 炭化物粒少量混入 かわらけ片混入
- 3 5Y 8 / 2 灰白色ローム 10YR 4 / 2 灰黄褐色土まだらに少量混入

52S K 30



52S K 30

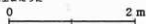
- 1 10YR 4 / 2 灰黄褐色土 かわらけ片、炭化物粒少量混入
- 2 10YR 5 / 1 黄灰色土 10YR 7 / 8 黄褐色ロームまだら少量混入
- 3 10YR 5 / 1 黄灰色土 10YR 7 / 8 黄褐色ロームまだら少量混入
- 4 10YR 7 / 8 黄褐色ローム 炭化物粒少量混入
- 5 10YR 5 / 1 黄灰色土 10YR 7 / 8 黄褐色ロームまだら少量混入

52S K 31



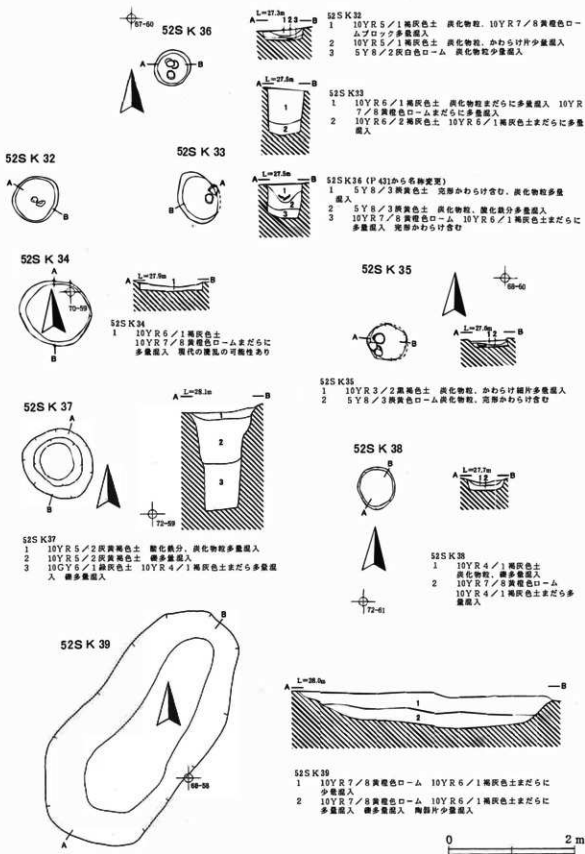
52S K 31

- 1 10YR 3 / 1 黄褐色土 炭化物粒少量混入
- 2 10YR 7 / 8 黄褐色ローム 10YR 3 / 1 黄褐色土まだらに少量混入



第22図 土坑 (5) (52S K 26~31)





第23図 土坑 (6) (52S K 32~39)

### (3) 時期不詳の土坑

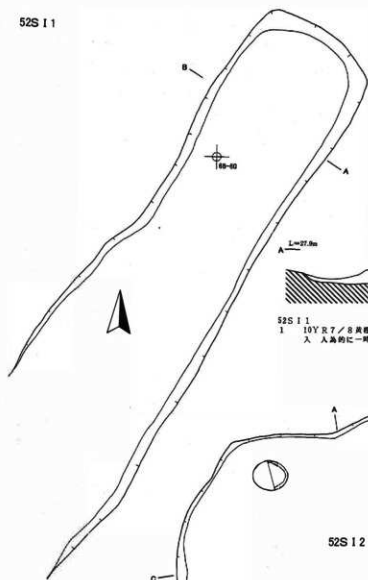
52SK39 楕円形のプランで底面が皿状の土坑である。埋土は地山に非常に類似した土で人為的に一気に埋め戻したと判断される。遺物は常滑産の甕片(1045)を図示した。重さは280gの破片である。他に図示していない瀬美産陶器15片(2,050g)が出土している。道路状遺構の路面内に位置しており道路と同時存在ではない。所属時期は12世紀のものか近世以降のものか判断に苦しむ。

## 4 竪穴遺構

52S11 南西部が削平され壁が残っていないが、細長いプランを呈すると考えられる。用途は不明であるが、底面が概ね平坦であるため竪穴遺構に分類した。時期は埋土の質感から近世後半～近代の遺構と推測される。

52S12 不整な隅丸長方形を呈する。底面は概ね平坦で竪穴遺構に分類した。床面の北西側に浅い柱状の窪み(底面からの深さ約8cm)が存在するが、本遺構に伴うか否か不明である。埋土は地山と判別が難しい黄橙色ロームで、ほぼ一時に人為的に埋め戻されたと判断される。出土遺物はかわらけの細片が590g出土した。すべてロクロかわらけと推測される。時期ははっきりしたことは不詳だが、12世紀代の遺構である可能性が高い。道路遺構の路面内に存在し、道路状遺構とは同時存在ではない。

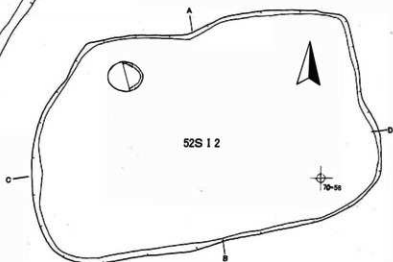
52S 11



52S 11

1 10Y R 7 / 8 黄褐色口-△ 10Y R 6 / 1 黄灰色土まだらに  
入 人為的に一時に埋めた土

52S 12



52S 12

1 10Y R 7 / 8 黄褐色口-△ 10Y R 6 / 1 黄灰色土まだらに  
多数混入  
2 10Y R 7 / 8 黄褐色口-△ 10Y R 6 / 1 黄灰色土まだらに  
少数混入  
3 10Y R 7 / 8 黄褐色口-△ 10Y R 6 / 1 黄灰色土粒状に少  
量混入

1~3層ともに人為的に埋めた土



第24図 竪穴遺構 (52S 11・2)

## 5 溝

52次調査で溝は32条検出された。このうち12世紀に属する溝は52SD10、52SD14、52SD25、52SD26、52SD29、52SD30、52SD31、52SD32である。一方、近世～近代に属する溝は52SD1、52SD2、52SD3、52SD4、52SD5、52SD6、52SD7、52SD8、52SD9、52SD11、52SD12、52SD13、52SD15、52SD16、52SD17、52SD18、52SD19、52SD20、52SD21、52SD22、52SD23、52SD24、52SD27、52SD28である。

溝の実測図は本文には断面図のみ掲載し、平面図は長大になるため本文中には示していない。遺構配置図を参照されたい。

### (1) 12世紀の溝

52SD10 52SK10と接するか前後関係を明確にできなかった。一部分が不整な形状を呈する溝で、用途などは不明である。埋土中から手づくねかわらけ(587～589)が出土した。また瓦(3005、3038)が出土している。他に図示していないかわらけ片が1,290g出土した。図示したものと合計すると1,500gの出土である。

52SD14 単独の溝として遺構名を付し調査をおこなったが、板罫52SA2のライン上にあり、罫の掘方である可能性がある。

52SD25 52SD18と重複するが52SD25が古い。埋土の質感から12世紀の遺構の可能性が高い。図示していない常滑産陶器が1片(125g)出土している。

52SD26 調査区西方に位置する。調査区内では溝は北側から南側に走るが、調査区外北側では溝が東側にカーブしていることを読み取れる。調査区外南側ではそのまま真っ直ぐ南側に伸び、堀に交わると予想される。溝は幅の広い溝(古段階)と、それを埋めて再び掘り返した幅の狭い溝(新段階)からなる。古段階の溝はトレンチで3ヶ所掘ったのみで、基本的には新段階の溝のみを完掘した。

古段階の溝は上幅6m20～50cmを測る。深さは確認面から40cm～100cm程度で、底面の標高は南東側に行くほど深くなっている。断面形は壁がなだらかに下がり、幅の広い概ね平らな底面を持つ形態である。埋土は部分により異なるが、黄橙色～黄褐色を基調とするロームで地山と類似する土である。全体的に人為的に埋め戻された土と解釈できる。断面G-Hの付近には自然木片を多量に含んでいる。

新段階の溝は古段階の溝を埋めることによって構築している。古段階の埋土は黄色がかったローム基調の埋土であるが、新段階の埋土は砂質土や黒褐～褐色土で構成されており判別は可能であった。砂質土層の存在から流水により生成された層があることがわかる。流水や周辺からの土砂の流れ込みによって時間をかけ徐々に埋没したものと考えられる。新段階の溝は古段階に比較すると大分細くなり蛇行している。しかし蛇行の範囲もあくまで古段階の溝の幅の範囲内に納まっている。よって新段階の溝の構築の際には古段階の溝の存在を十分意識していたことがわかる。つまり、古段階の溝を人為的に埋め、新段階の溝を掘るという行為は一連の連続した行為であったと考えられる。新段階の溝の深さは、古段階の底面の深さとほぼ同じか、やや深めに掘られている。また新段階の溝は蛇行していると記したが、蛇行しているとするより、コの字形の溝を掘り、西側への張出しを意図して作ったと判断した方が良い。張り出し部分の溝側に向かって緩やかに傾斜する地形で上面に構築物の痕跡は見出せなかった。調査区の北端でも新段階の溝は蛇行する気配をみせている。おそらくこの部分でも溝がコの字形になり、北側に向く張り出しを構成すると推測される。

52SD26の所属時期は12世紀代と考えられる。新段階の溝には多量の遺物を含んでいる。これらは全て

12世紀以前の遺物であるが、多くは風化しており、接合するものも少ない。よって溝が廃絶した後に、周辺に散布する遺物が土砂とともに徐々に時間をかけて堆積したものと判断される。この状況は奥州藤原氏が滅亡した直後のことと推測される。よって52SD26の新段階の溝は1189年の奥州藤原氏の滅亡時に開口していたことになり、柳之御所遺跡の最終段階の遺構とすることができる。古段階の溝も新段階と間を置かず連続しているものなので、時期はそれほど上らず、12世紀後半の範囲内に納まる可能性が高い。しかし、はっきりした年代を確定できない。52SD26の用途は明確にできないが、大規模な溝でもあり、堀内地区をさらに区画する区画溝の用途が推測される。

52SD31は52SD26と接するが、52SD26の壁面が52SD31に連続する部分で流水により浸食されており同時に開口していたことを示す。よって両者は同時存在であったことがわかる。また52SD26の上に存在する52SB3～52SB10の柱穴はすべて、52SD26よりも新しいものである。

出土遺物は非常に多い。そのほとんどは新段階の溝からの出土で、古段階の溝に含まれる遺物は明確にすることができなかった。以下図示した遺物を列挙する。かわらけ(598～616)、常滑産陶器(1001、1002、1004、1006、1007、1010、1013、1014、1016、1021、1022、1023、1035、1040、1041)、瀬美産陶器(1054、1060、1061、1064、1065、1066、1067、1071、1075、1082、1086、1095、1106)、須恵系陶器(1111、1124、1130)、古代の須恵器?(1135、1136、1137)、水沼産陶器(1142)、中国産白磁(2001、2002、2017、2019、2022、2025、2032、2033、2043、2045、2048、2059、2060)、中国産青磁(2068、2069)、中国産青白磁(2073、2076)、中国産陶器(2079、2085、2088、2093、2096、2097)、瓦(3009、3052、3054、3062)、部材(5256)、砥石(6007)、石鍋片(6007)、古代の須恵器(6014)、古代の土師器(6015、6016)、穿孔のあるロクロかわらけ(6020)、羽口(6022)である。他に図示していないかわらけが10,205g出土している。図示したものを合計すると11,145gになる。また図示していない常滑産陶器片が268片(11,530g)出土している。図示したものを合わせると283片(12,837g)になる。図示していない瀬美産陶器は366片(24,260g)出土している。図示したものを合計すると379片(25,594g)になる。図示していない須恵系陶器と古代の須恵器?は59片(2,888g)、出土している。図示したものを合わせると66片(3,162g)になる。図示していない水沼産陶器はない。図示したものは1片(18g)である。

52SD29、52SD30(52SC1道路状遺構) この2つの溝は対になる道路側溝である。道路は東西に走り、52SD29が南側、52SD30が北側の道路側溝になる。どちらの溝も残存状態が不良で、切れ切りの状態で検出されている。道路状側溝の検出は約30mに留まるが、本来は東西にまだまだ続いていたと推測される。道路側溝は深さが一律ではなく、深い部分や浅い部分がある。深い部分は52SD29と52SD30で対応する位置関係にあり、何らかの意図を持って深さに差をつけたと推測される。道路幅は側溝の幅を含めて約8mになる。道路状遺構は52SB25と重複するが道路状遺構が古い。また52SE7、52S12、52SK39と道路状遺構が重複するが直接切り合う部分がなく前後関係を判断できない。いずれにせよ同時存在ではない。また道路側溝52SD30と52SD32が重複するが52SD32が新しい。また52SD29の南側に52SA2が平行して存在するが同時存在と考えられる。この道路状遺構を52SC1と称する。

出土遺物は52SD29からロクロかわらけ(590～593)が出土している。他に図示していないかわらけが825g出土している。図示したものを合わせると1,035gになる。また図示していない常滑産陶器2片(73g)、瀬美産陶器5片(350g)が出土している。52SD30からはロクロかわらけ(594)が出土している。他に図示していないかわらけが435g出土している。図示したものと合わせると585gになる。また瀬美産山茶碗片(1056)が出土している。

52SD31 52SD26に注ぎ込む溝である。52SD26と同時存在と考えられる。12世紀の遺構であるが用途、正確は不明である。出土遺物は9世紀頃のヘラ切の須恵器坏(6013)が出土している。他に図示していないかわらけが2,185g出土している。また図示していない常滑産陶器2片(20g)、瀬美産陶器5片(615g)が出土している。

52SD32 確実な証拠はないが、12世紀の遺構である可能性が高い。溝は途中で途切れ、西側部分と東側部分に分かれる。途切れる部分は削平で失われているのではなく、もともと途切れていたと考えられる。東側部分の東端と、西側部分の西端は削平のため失われており、本来は東西ともにまだ溝が繋がっていたと推測される。道路側溝52SD30と重複するか52SD31が新しい。

出土遺物はかわらけ(596、597)、常滑産陶器(1034)、瀬美産陶器(1105)、中国産陶器(2092、2098、2101)を図示した。他に図示していないかわらけが2,920g出土している。図示したものを合わせると3,015gになる。また図示していない常滑産陶器5片(250g)、図示したものを合わせると6片(315g)になる。図示していない瀬美産陶器は31片(4,620g)、図示したものを合わせると32片(4,815g)になる。須恵器系陶器は6片(288g)あるが図示はしていない。

## (2) 近世～近代の溝

52SD1 52SB1または52SB16に伴う溝の可能性はある。52SD9とは連続しており一連のものである可能性がある。

52SD2 52SB16に伴う溝の可能性はある。また52SD18と一連のものである可能性もある。52SB15よりは新しい溝である。

52SD3 自然の流水痕の可能性はある。

52SD4、52SD5 この2本の溝は平行関係にあり、それぞれが道路側溝と考えられる。北側に新しい溝が平行に2本(遺構名は付していない)あるが、そこから続く道路と考えられる。このラインは字柳之御所133番地と128番地の境界にびったり重なり、地番の境に設置された道路と理解できる。時期は近代以降の可能性が高い。52SD5は52SD6と重複するが、52SD5が新しい。また52SD4からは18世紀代の肥前産の磁器碗(4043)が出土している。

52SD6 大規模な蛇行する溝である。18世紀代の瀬戸美濃産の陶器碗(4014)、17世紀前半の肥前産磁器皿(4036)、18世紀代の肥前産磁器皿(4046)が出土している。他に12世紀の国産陶器片が多量に出土している。常滑159片(7,373g)、瀬美451片(24,804g)、須恵器系陶器、須恵器8片(881g)が出土した。出土遺物から18世紀以降の溝と判断される。52SE3、52SK3、52SD4より古く、52SD7とは同時存在と考えられる。52SE5との前後関係は判断できなかった。同時存在の可能性もある。用途は明確ではないが、概ね字柳之御所133番地と128番地の境界のラインに沿っており、地境に設置された排水目的の溝の可能性はある。

52SD7 幅が広いが浅い溝である。52SD6に合流し同時存在の可能性が高い。52SK4、SK6より古い。

52SD8 52SE6と重複するがそれよりも古い。用途は不明である。

52SD9 東西に走る溝であるが、西端で南側に曲がりL字状を呈する。52SB11、12に伴う溝の可能性が高い。52SD1とは東側でつながっており、一連の遺構である可能性が高い。埋土から17世紀後半?の肥前産磁器(4035)が出土しており、年代の一端を示している。

52SD11 南北方向に走る細い溝である。用途は不明であるが、埋土中から19世紀中葉の大堀相馬産の土

瓶片(4020)が出土した。出土遺物から近世末～近代の遺構と判断される。

52SD12 52SB16の柱穴と重複するが前後関係を明らかにすることはできなかった。おそらく近世後半～近代の遺構と推測される。

52SD13 52SD11と平行に並ぶ小規模な溝である。おそらく近世後半～近代の遺構と推測される。

52SD15 東西に走る溝である。おそらく近世後半～近代の遺構と推測される。

52SD16 52SB2、SB16の柱穴と重複するが52SD16が古い。また12世紀の土坑52SK14よりも52SD16が古い。時期は12世紀の可能性を捨てきれないが、埋土の質感から近世の可能性が高いと判断した。用途は不明である。

52SD17 蛇行する溝である。52SD18、52SD27に連続する可能性があるが、途切れており判断できないため独立した遺構名を付した。近世後半の遺構52SK2より古く、近世前半の所属の可能性が高い。

52SD18 蛇行する溝である。未調査区が間に入るため北側と南側が連続しないが同一の溝と判断した。またさらに南側の52SD27に連続する可能性もあるが、判断できないので別の遺構名を付した。北端は52SD2につながる可能性がある。用途は52SD1や52SD2と同様に建物を区画する溝の可能性が高い。52SD25、52SK21と重複するが52SD18が新しい。

52SD19 52SB23の北辺に平行して位置しており、52SB23に伴う可能性が高い。

52SD20 南北に走る溝である。近世後半～近代にかけての溝と推測される。用途は不明である。

52SD21 南北に走る溝である。近世後半～近代にかけての溝と推測される。用途は不明である。

52SD22 東西に走る溝で、52SD1につながっていた可能性がある。52SK16よりも古い溝である。

52SD23 南北に走る溝である。近世後半～近代にかけての溝と推測される。用途は不明である。52SB13の柱穴と重複するが52SD23が新しい。

52SD24 南北に走る溝である。52SB16の柱穴と重複するが52SD24が古い。52SB15または52SB2に伴う溝の可能性が高い。

52SD27 南北に走る溝である。52SB23に伴う可能性がある。また52SD17か52SD18のどちらかにつながる可能性がある。52SB21と52SB22の柱穴と重複するが、どちらよりも52SD27が新しい。

52SD28 南北に走る細長い溝である。52SD27と重複するが52SD28が新しい。また52SK28とも重複するが41次調査により重複部分が破壊されている。おそらく52SD28が新しい。

## 6 塀

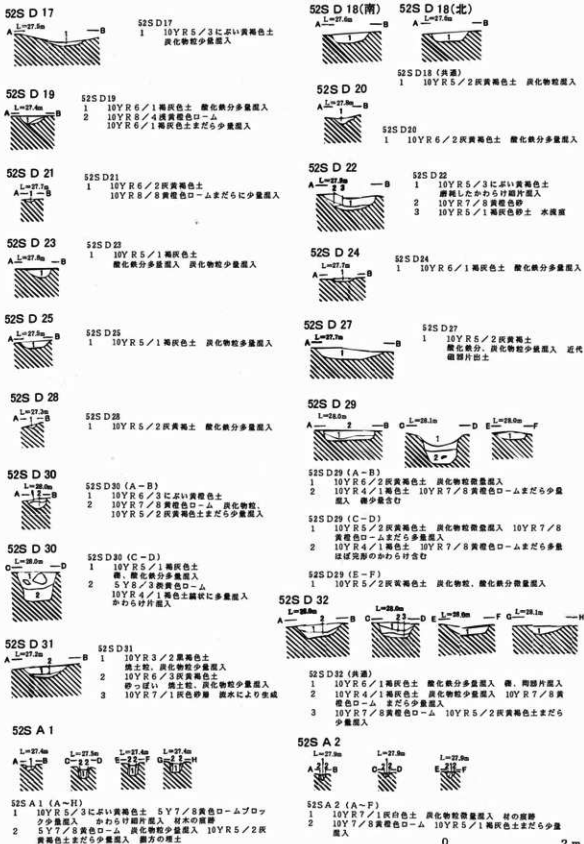
塀は2条検出された。どちらも12世紀の遺構である。

52SA1 丸太材を連続して並べた塀である。軸方向(直行する)はN-17°-Eである。

52SA2 板材を並べた板塀である。道路状遺構の南側側溝52SD29の南側に平行して設置されており、道路状遺構と同時存在である。軸方向(直交する)はN-17°-Eである。切れ切れであるが約40mにわたって検出された。



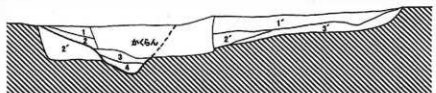




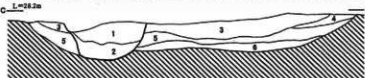
第26図 満断面 (2) (52SD17~25・27~32) 掘断面 (52SA1・2)

## 52S D 26

A—L=24.2m



C—L=28.2m



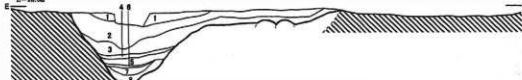
## 52S D26 (A-B)

- 1 5Y8/2灰白色ロ-ム 10YR 6/1黒灰色土 多量混入  
腐化成分混入
- 2 10YR 5/1黒灰色土 砂、腐化に多量混入
- 3 10YR 5/1黒灰色土 10GY 7/1明緑灰色ロ-ムまだらに少量混入
- 4 10YR 5/1黒灰色土 10GY 7/1明緑灰色ロ-ムまだらに多量混入
- 1' 10G 6/1緑灰色土 腐化成分多量混入
- 2' 10YR 7/8黄褐色ロ-ム 10YR 3/1黒褐色土まだら少量混入 人為的に埋めた土
- 3' 10YR 7/8黄褐色ロ-ム 10G 6/1緑灰色土まだら少量混入

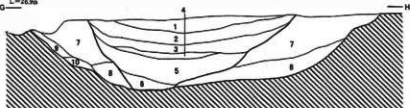
## 52S D26 (C-D)

- 1 10YR 4/1黒灰色土 砂粒 腐化に多量混入
- 2 10YR 3/1黒褐色土 10YR 7/8黄褐色ロ-ムブロック 少量混入 砂粒多量混入
- 3 10YR 7/8黄褐色ロ-ム 10YR 4/1黒灰色土階層状に多量混入 人為的に埋めた土
- 4 5Y 8/3灰黄色ロ-ム 10YR 4/1黒灰色土まだら少量混入
- 5 5Y 8/3灰黄色ロ-ム 腐化成分、砂粒多量混入
- 6 5Y 8/2灰黄色砂 10YR 4/1黒灰色土まだら少量混入

E—L=28.0m



G—L=26.8m



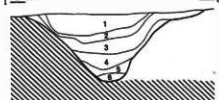
## 52S D26 (E-F)

- 1 10YR 7/8黄褐色ロ-ム 10YR 5/1黒灰色土まだらに多量混入 炭化物多量混入 人為的に埋めた土
- 2 10YR 3/2黄褐色土 砂多量混入 人為的に埋めた土か
- 3 2.5Y 7/2灰黄色砂 腐化成分のたまり層を呈する部分あり
- 4 10GY 5/1緑灰色土 炭化物粒少量混入
- 5 2.5Y 7/2灰黄色砂 10GY 3/1明緑灰色土まだら少量混入
- 6 10GY 3/1緑灰色土
- 7 1.5GY 5/1緑灰色土
- 8 10GY 7/1明緑灰色砂 10GY 3/1明緑灰色土まだら少量混入

## 52S D26 (G-H)

- 1 10YR 4/2灰黄褐色土 10YR 7/8黄褐色ロ-ムまだら多量混入 炭化物粒少量混入 人為的に埋めた土
- 2 10YR 4/1黒灰色土 砂粒、腐化成分多量混入
- 3 10YR 5/1黒灰色土 砂粒、腐化成分少量混入
- 4 10YR 6/1黒灰色土 砂粒の混入少ない
- 5 10YR 3/1黒褐色土 10YR 7/8黄褐色ロ-ムブロック 少量混入 木の枝少量混入
- 6 10YR 3/1黒褐色土 砂粒多量混入 木の枝多量混入
- 7 10YR 7/8黄褐色ロ-ムブロック 10YR 4/1黒灰色土 未だらに少量混入
- 8 10YR 7/8黄褐色ロ-ム 自然木多量に含む
- 9 10YR 5/1黒灰色土 砂粒多量混入
- 10 10YR 7/8黄褐色ロ-ム 10YR 5/1黒灰色土多量混入

I—L=26.7m



## 52S D26 (I-J)

- 1 10YR 5/2灰黄褐色土 砂多量混入
- 2 10YR 6/5灰黄褐色土 10YR 5/2灰黄褐色土少量混入
- 3 5Y 4/1灰色土 砂多量混入
- 4 10GY 6/1灰色砂
- 5 10GY 7/1明緑灰色土 砂っぽい
- 6 10Y 6/1灰色砂

0 2 m

第27図 溝断面 (3) (52S D26)

## 第三章 出土遺物

### 1 かわらけ

12世紀のかわらけは52次調査全体で314,803g出土した。52次調査区の表土は第36次、第41次調査により除去されており、そこから遺物は多量に出土しており、本来かわらけの出土量はこれよりは多かったはずである。以前の報告書にかわらけの具体的な出土量が記載されていないので当該区からの総出土量は不明である。しかし、それを考慮に入れてもこの出土量は柳之御所遺跡堀内部地区においては単位面積あたりでは少ない量といえそうである。

出土したかわらけは遺構出土のものを中心に掲載した。全部で614点を図示した。個々の特徴については表に記してあるので文章ではいちいち記載していない。かわらけは手づくねかわらけとロクロかわらけに分けられる。手づくねかわらけは以下のように分類される。

- C3・・2段で、口縁部面取りなし
  - C4・・2段で、口唇部をつまみ上げ
  - C5・・2段で、口縁部面取りあり
  - D2・・1段で、口縁部外反
  - D3・・1段で、口縁部面取り無し
  - D4・・1段で口縁部面取り有り
- その他に内折かわらけがある。

ロクロかわらけについては特別細く形態分類をしていない。その他として、ロクロ製品では柱状高台かわらけ、柱状高台で大型のものである高環型かわらけがある。

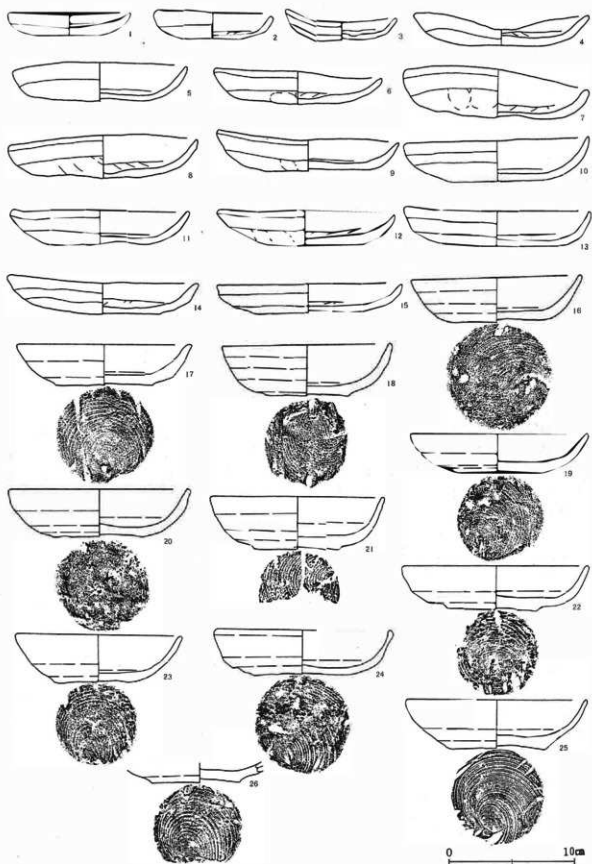
表中の法量は実測図面上で測定した。よって反転実測で求められた数値を記している場合もある。口縁長というのは、ロクロかわらけにおいて、底辺部から口唇部までの長さを示している。重さは残存している重さである。色調は多様に変化する場合は最も表面積が多い色を記した。依存度は正確な数値により測定ではなく、表面積の残存率を目分量によって測ったものである。

出土したかわらけで良好なセット状態にあるのは、52SE7、52SE8、52SE10の資料である。これらは平泉におけるかわらけ編年の基軸になり得る資料である。

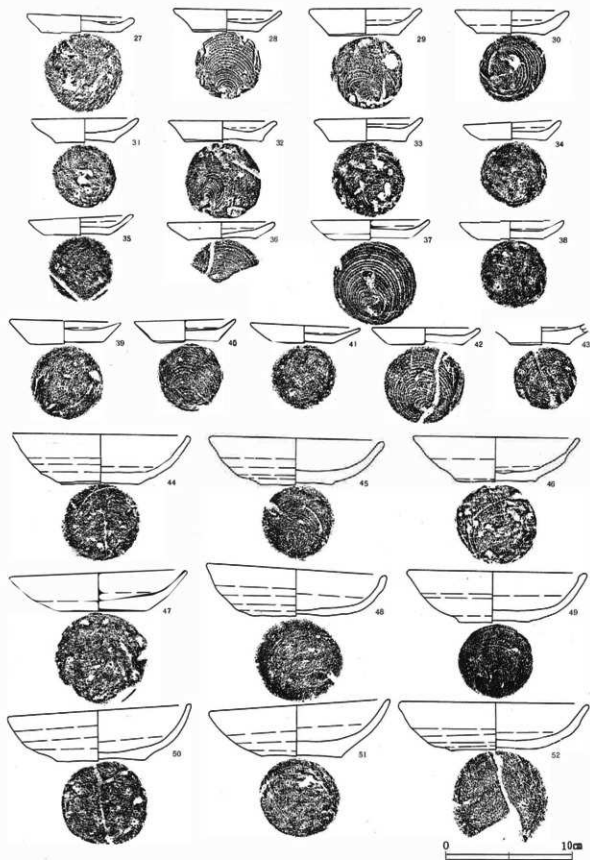
52SE7はロクロかわらけのみで構成されており、手づくねかわらけ導入以前の時期の所産と推測される。90点を図示した(27~116)。器形の基調は皿型で、12世紀初頭の碗形基調のかわらけとも一線を画され、12世紀第2四半期に位置づけられる可能性が高い。小型かわらけと大型かわらけの個数の比率は大型かわらけの個数が多く、12世紀後半期の器種構成とも共通する点が注目される。

52SE8からは多量のかわらけが出土している。総量では84,325gに及ぶ。図示したものは286点(117~402)である。出土したかわらけの大部分は9、10層から出土したものである。図示したものは口縁の残存率が50%以上のものを基準にしており、他の遺構と比較すると、図化の採用基準がやや厳しくなっている。また出土したかわらけの中でロクロかわらけの量は非常に少なく、基準にみえないものも図化、掲載した傾向がある。

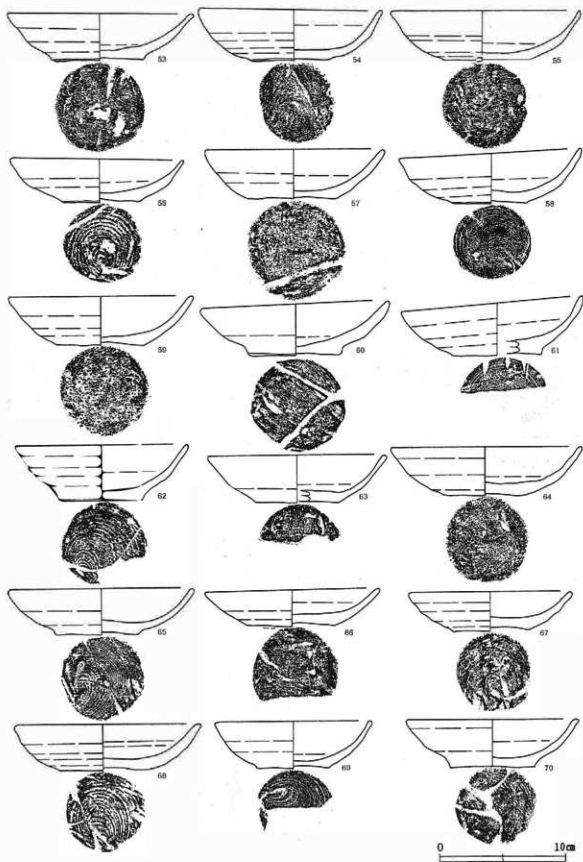
52SE8のかわらけは、その口径の小ささが特徴であるといえる。これまでの平泉の手づくねかわらけの理解からすると口径が小さいほど時期が新しいという傾向が明らかになっている。これに当てはめれば52SE8のかわらけは奥州藤原氏の平泉で最終段階の形態ということが出来る。これは52SE8出土折敷



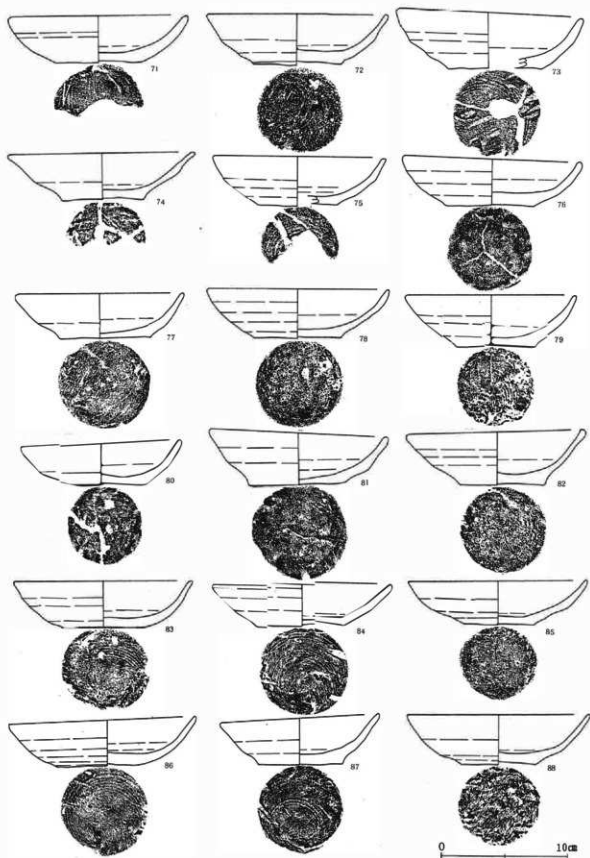
第28圖 52S E 1出土かわらけ



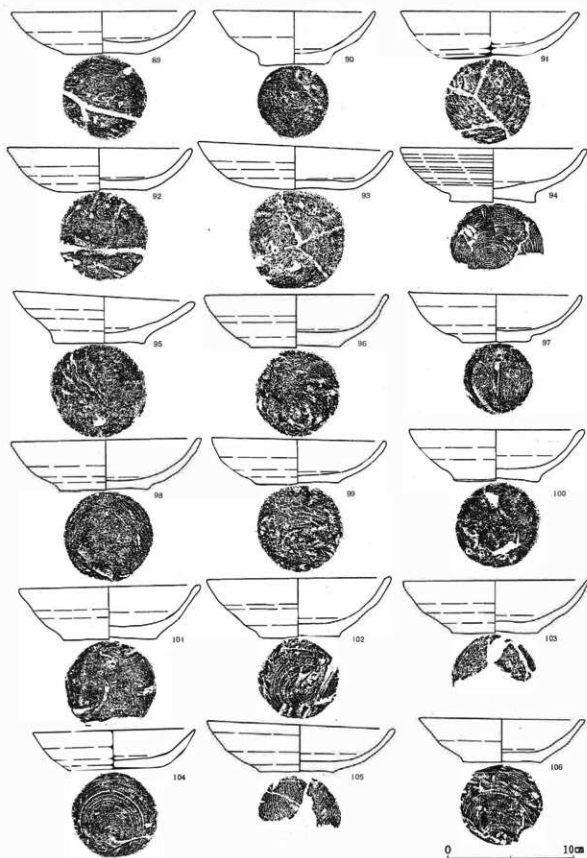
第29図 52S E7・2層出土かわらけ (1)



第30図 52SE7・2層出土かわらけ(2)

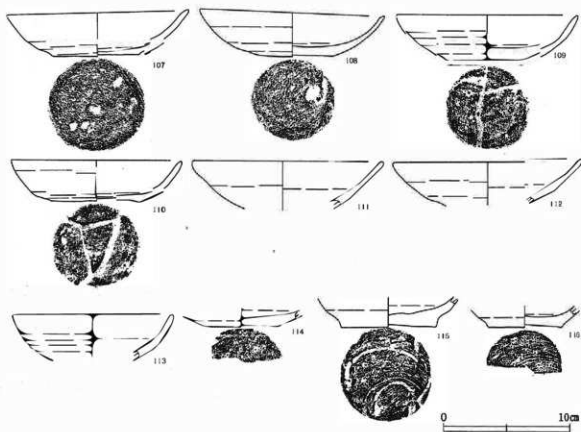


第31図 52SE7・2層出土かわらけ(3)



第32図 52SE7・2層出土かわらけ(4)



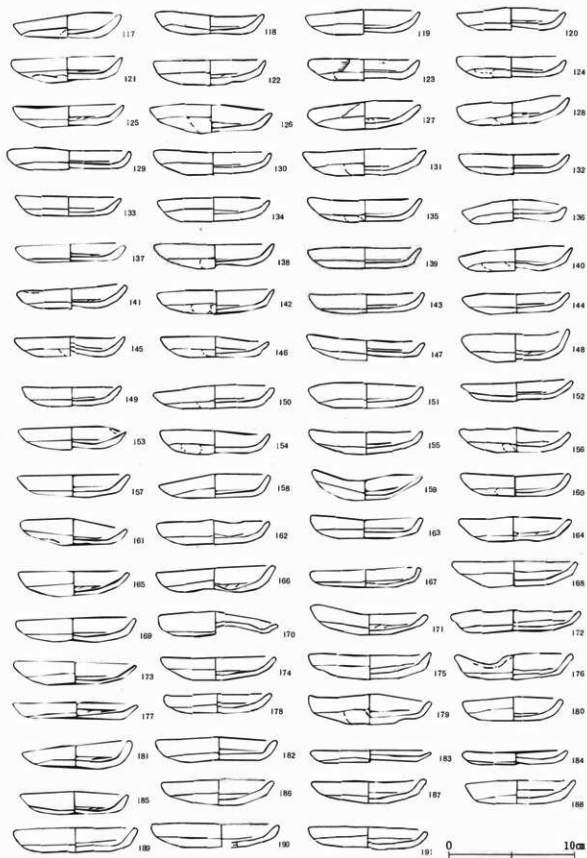


第33図 52SE7・2層出土かわらけ(5)

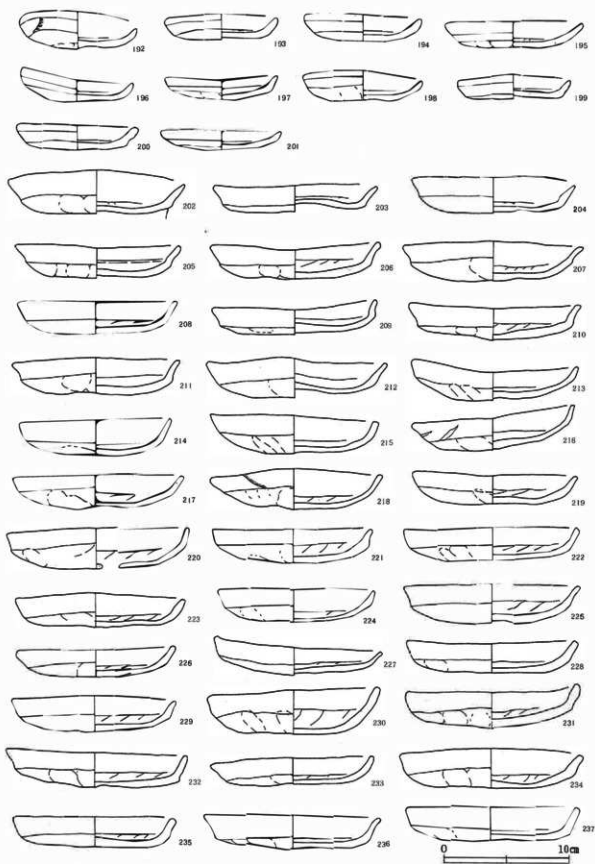
の年輪年代測定の結果→1186年伐採という結果とも合致する。年輪年代の成果と合わせて52SE8のかわらけの形態が平泉最終期の指標とすることができる。

また注目されるのは52SE8から、ロクロかわらけの胎土で製作された手づくねかわらけが出土していることである(379~389)。これらは砂粒が多く海綿状骨針が混じるロクロかわらけと共通する胎土でありながら、手づくねかわらけの技法で製作されているのである。そして非常にその製作技法は稚拙なのである。亀裂が生じたり、生じた亀裂に粘土を貼ってこまかしたりしている。これは手づくねかわらけの技法に熟達していない者の仕事と感ぜられる。使用している胎土から考えるとこれまでロクロの技法でかわらけを製作していた工人が、手づくねの技法でかわらけを製作したのではないかと考えられる。つまりロクロ工人が手づくね工人に同化吸収される過程を示しているのがこれらのかわらけと考えられるのである。

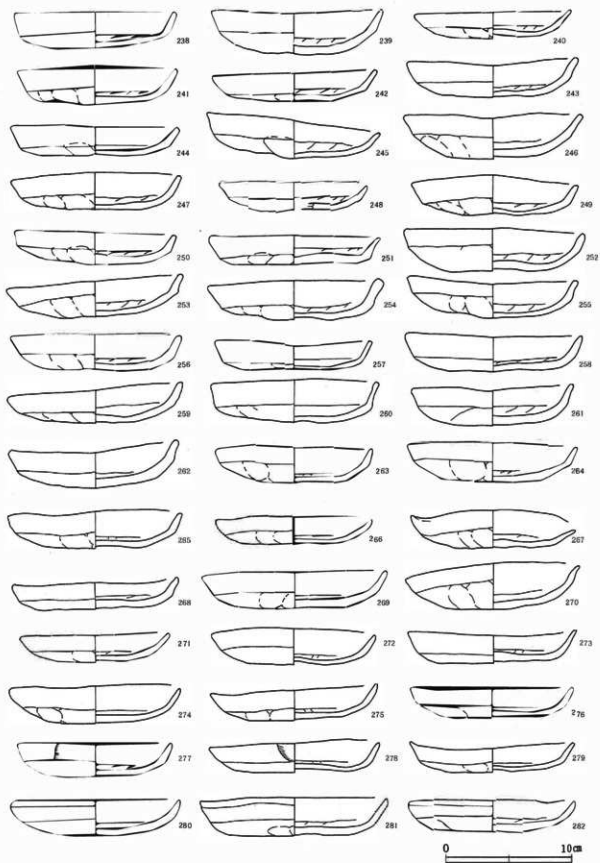
52SE8からはロクロかわらけも出土している。だが、これらは個体数が非常に少なく、残存率も低いものが多く、52SE8から多量に出土した手づくねかわらけに伴うものではなく、他の時期のものが混入した可能性も考えられる。



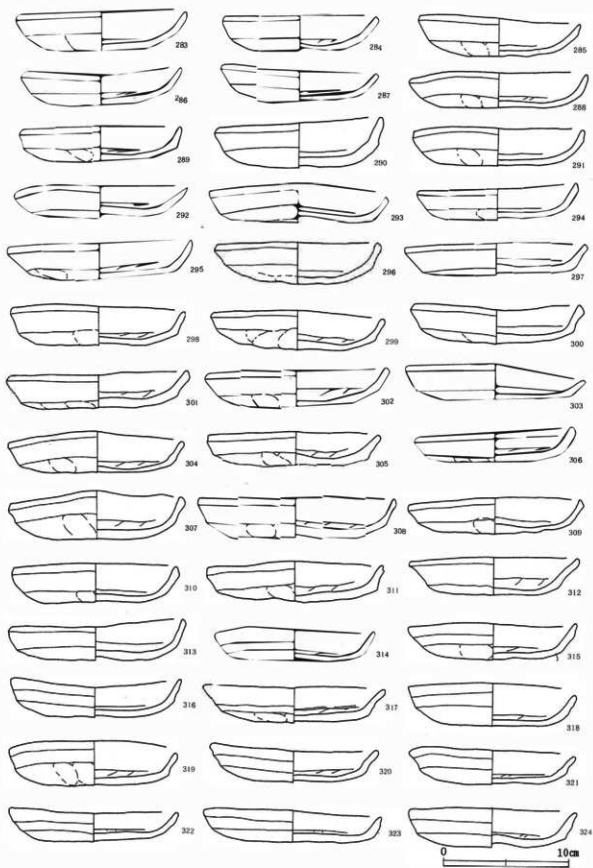
第34図 52SE8出土かわらけ(1)



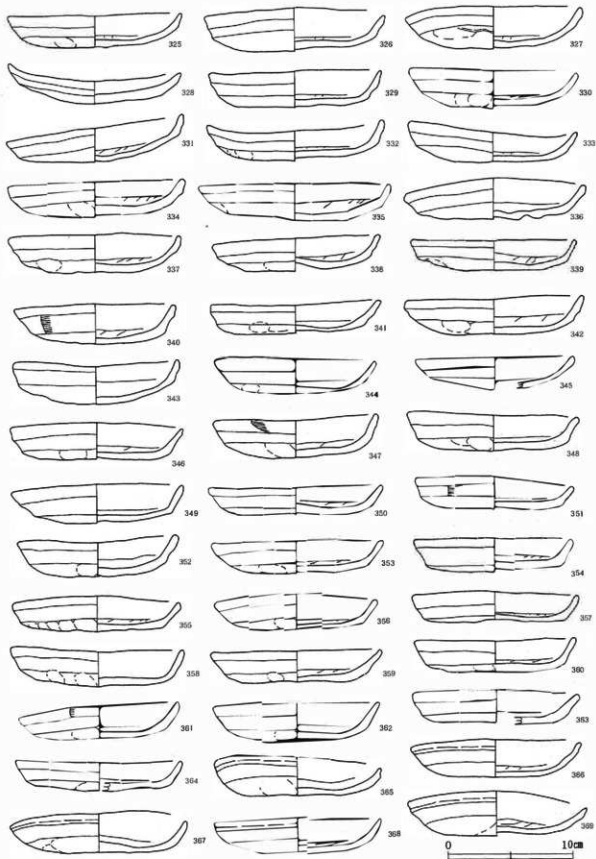
第35図 52SE8出土かわらけ(2)



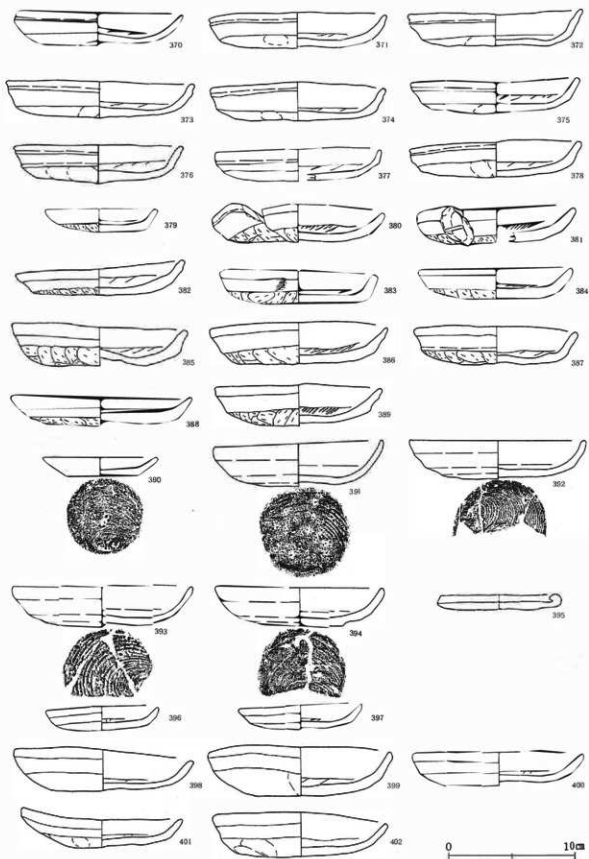
第36図 52SE8出土かわらけ(3)



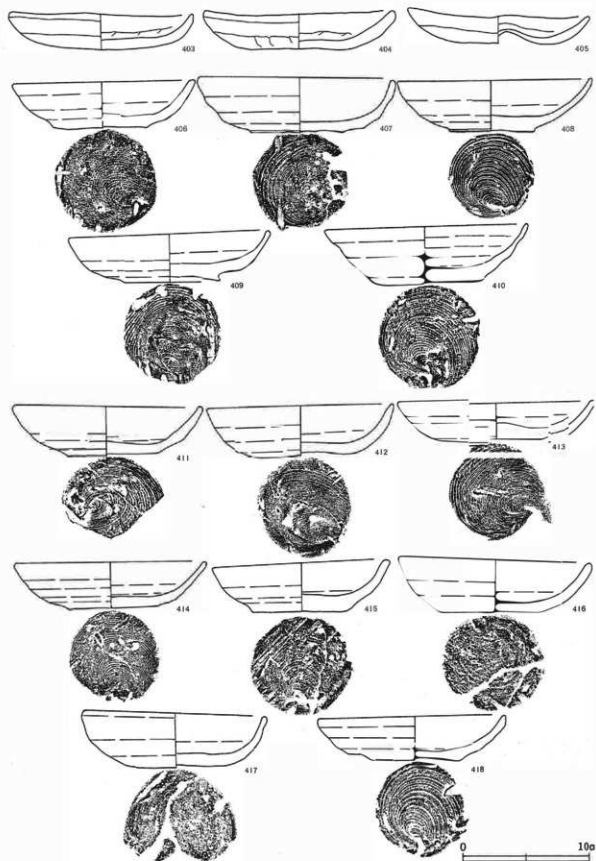
第37図 52SE8出土かわらけ(4)



第38図 52SE8出土かわらけ(5)

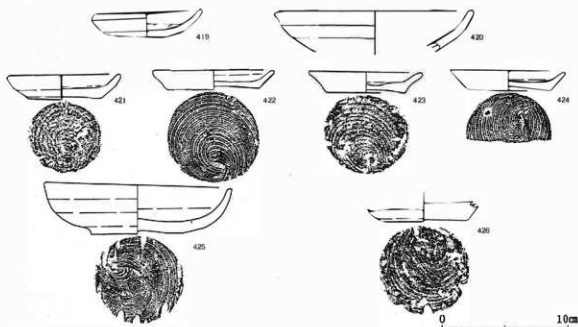


第39図 52S E8出土かわらけ (6)



第40図 52SE9出土かわらけ (1)

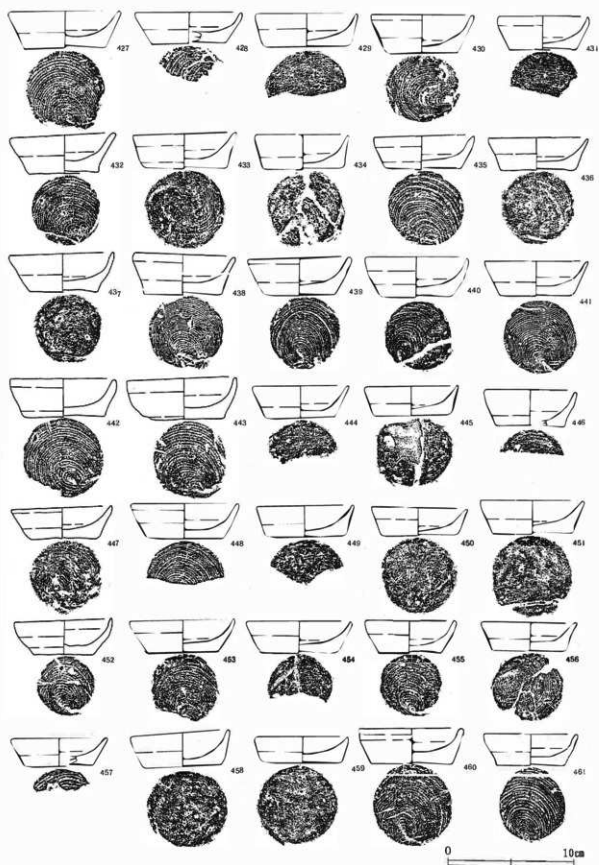




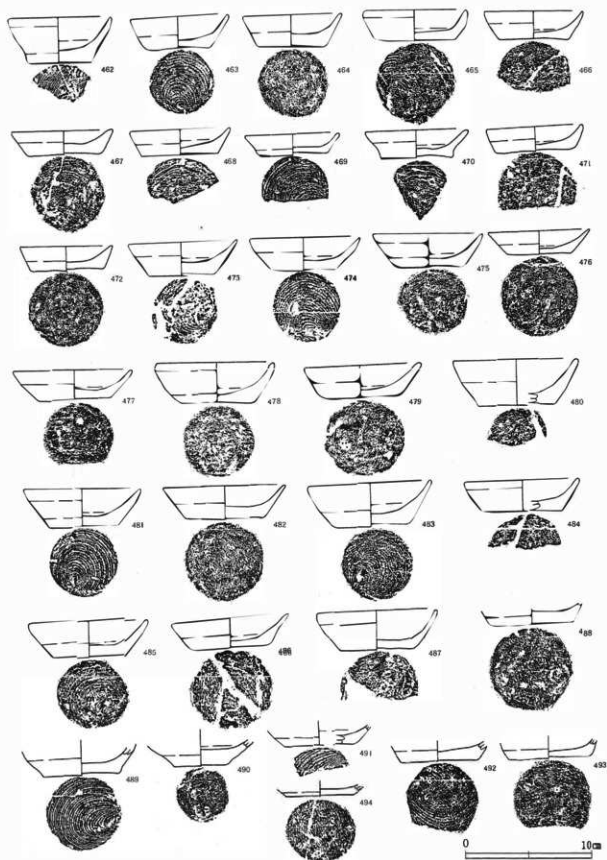
第41図 52SE9出土かわらけ(2)

52SE10のかわらけ(427~525)はこれまでの平泉遺跡群では出土例の少ないタイプのものである。碗形の大型かわらけ、身の深い小型かわらけ、小型の柱状高台かわらけ、大型の高坏型のかわらけが出土している。出土層位もまとまっており、一括のセットと考えられる。これらのかわらけに形態的に類似する資料は中尊寺境内金剛院下層出土のものがある。金剛院下層資料は12世紀の前半代の年代とされており、52SE10の資料もこれに近い時期と考えられる。大型かわらけの法量を比較すると、52SE10のものが、金剛院下層よりも底径が小さく、器高が高く若干ではあるが古式の様相を呈している。52SE10が金剛院下層よりわずかに先行すると考えて、52SE10のかわらけは12世紀第1四半期の所屬と考えたい。

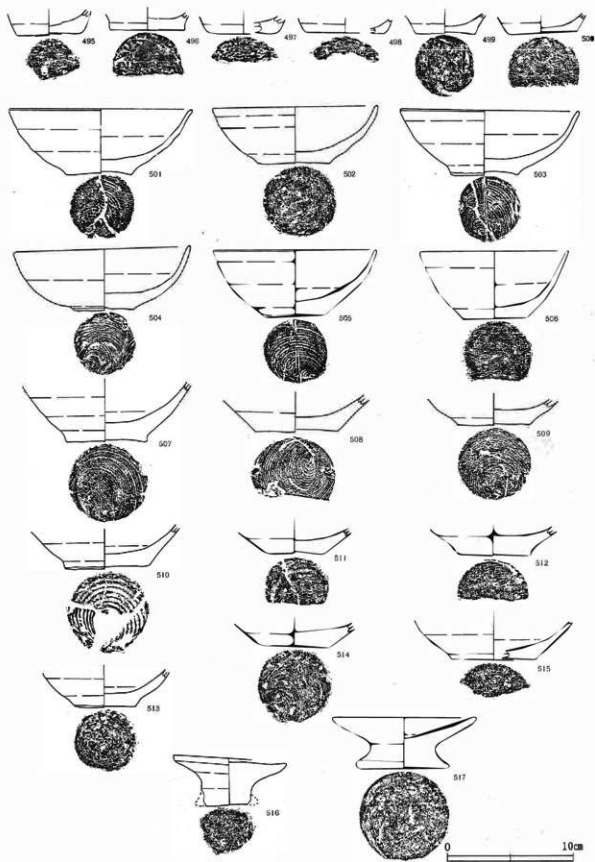
52SE10の中で特異なのは、大型の高坏型のかわらけである。これまで平泉遺跡群でこのような器種のもは出土していない。形状的には従来出土している柱状高台かわらけに類似するのであるが、その大きさが全くことなるのである。よって柱状高台かわらけとは用途が異なっているであろう。野場喜子氏(野場1988『兵範記』にみる食器)名古屋博物館研究紀要第11巻)によると、12世紀の京都の貴族の日記(兵範記など)には宴会儀礼の用具に「土高坏」というものが記されているという。この土高坏は焼物製で、上に折敷を置いて、その上に食器を並べて使用したものであるという。そして土高坏は全体が木製の塗高杯に比べると高位の者に供せられ、また権威の高い儀礼に使用される場合が多いという。この事例から52SE10の大型高坏は、兵範記などにみられる「土高坏」、またはそれを模したものである可能性が高いのではないだろうか。そうであれば52SE10のかわらけが使用された宴会儀礼はかなり格が高いものと考えられる。この大型高坏の破片は52SE10からあまり離れていない64-63グリッドの攪乱部分からも出土している(616)。また52SE10のかわらけの器種構成は小型かわらけが大型かわらけの個数より圧倒的に多い点に特徴がある。図示可能なものは小型74個に対し小型15個である。この大型と小型の個数の比は12世紀後半のものと同様である。12世紀後半のかわらけは大型かわらけの個数が小型かわらけ個数を圧倒するのが通常である。この52SE10の器種組成は、宴会儀礼の内容が12世紀後半のものとは異なっていた可能性を示している。



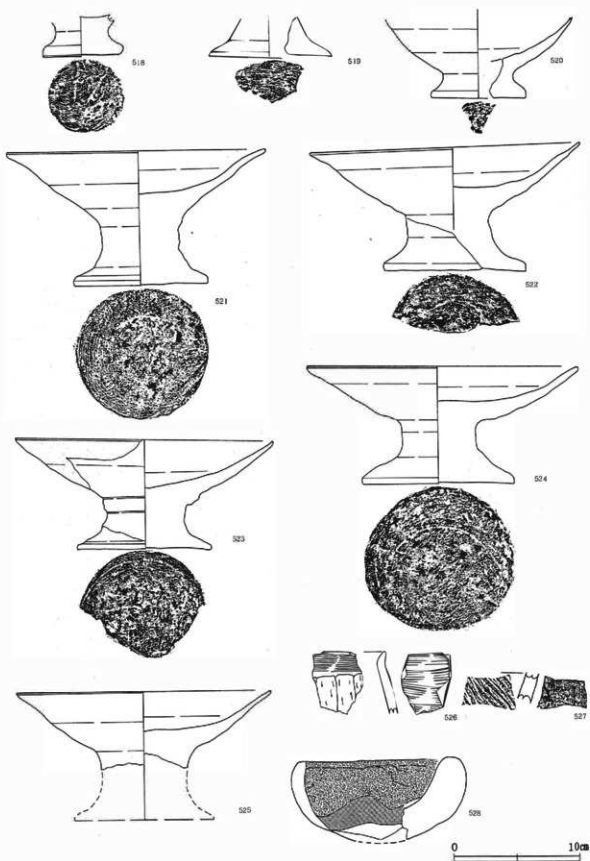
第42図 52SE10出土かわらけ(1)



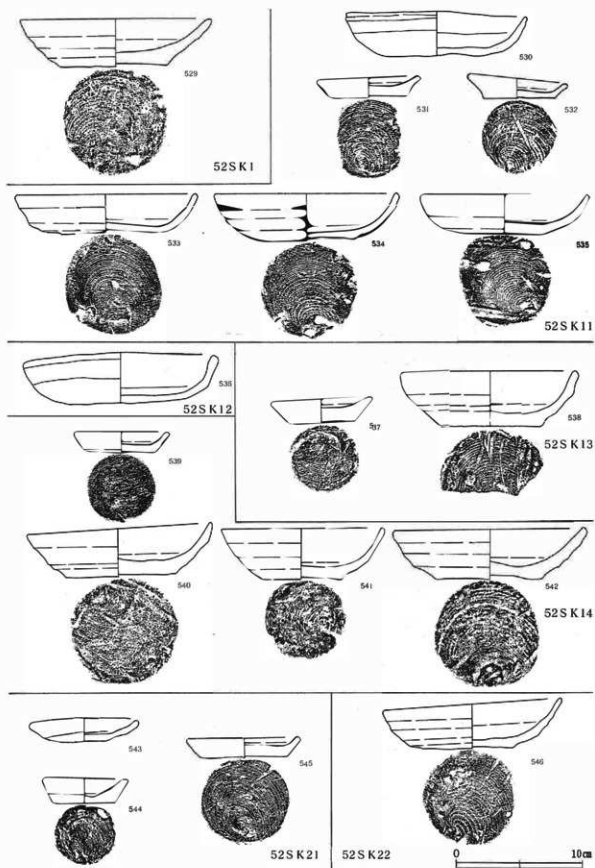
第43図 52S E 10出土かわらけ (2)



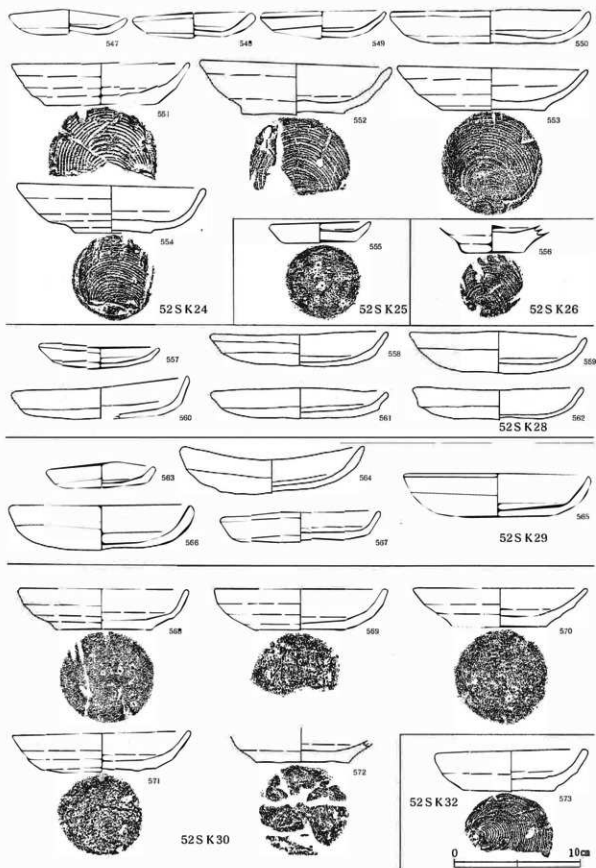
第44図 52SE10出土かわらけ(3)



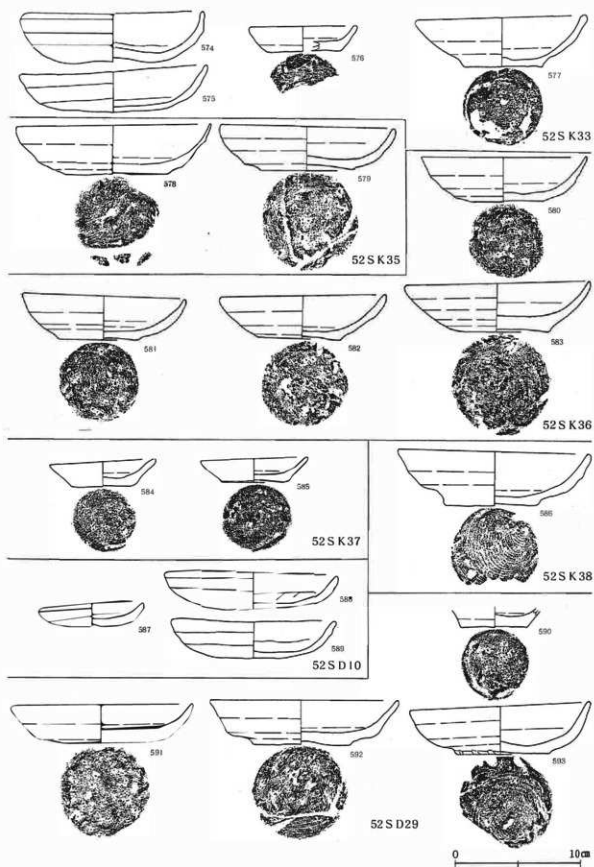
第45図 52SE10出土かわらけ(4)



第46図 土坑出土かわらけ(1)

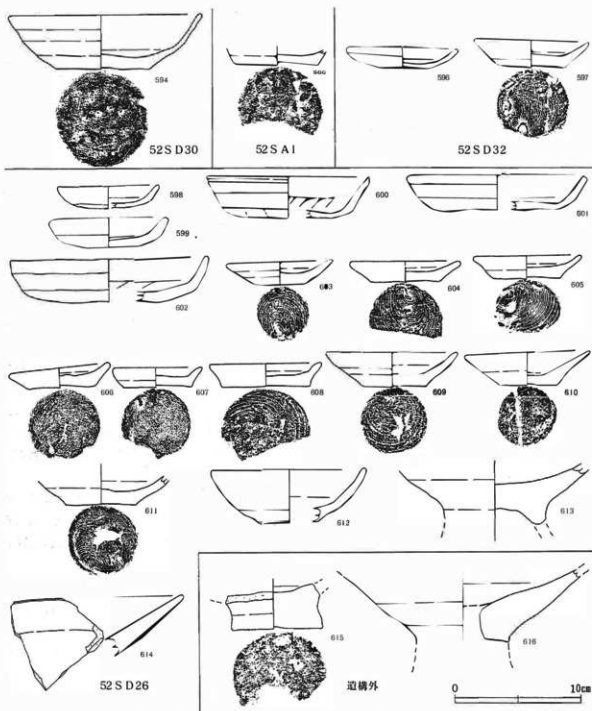


第47図 土坑出土かわらけ(2)



第48図 土坑出土かわらけ(3)・溝出土かわらけ(1)





第49図 溝出土かわらけ(2)・遺構外出土かわらけ

## 2 国産陶器

52次調査では12世紀の国産陶器(常滑産、瀬美産、須恵器系、水沼産)陶器の破片が多量に出土した。常滑産陶器は903片(42,411g)、瀬美産陶器は1919片(129,298g)須恵器系陶器、又は古代の須恵器が183片(12,080g)、水沼産陶器が3片(296g)である。合計すると3008片(184,065g)になる。この

量は平泉遺跡群内では突出した出土量の多さといえる。かわかけの項でも記したが52次調査と調査区が重複する36次、41次調査でも国産陶器は多量（報告書にはその具体的な量の記述は一切ないが、筆者が未掲載遺物などを観察した感じでは52次調査に匹敵する量が存在している。）に出土しており、これらを加えると当該区の国産陶磁器の出土量は特異に多いことになる。今次調査区では国産陶器片の出土は多かったが、かわかけ、中国産磁器の出土量はそれに見合う量は出土していない。52次調査区では国産陶器片が他の遺物よりも突出して出土量が多いという特徴を指摘できる。そして、器種的には厳密に点数を検討していないが、壺、甕の破片が片口鉢の量をはるかに圧倒しているようである。

そして、これらの国産陶器片のほとんどは12世紀の遺構に伴って出土したのではない。多くの破片は近世後半の52SD6、52SE3、52SK3などから集中して出土している。つまり、多くの12世紀の国産陶器の破片は原位置を留めておらず、移動して再堆積したのか近世以降の遺構に再堆積して52次調査区に存在しているということになる。そして再堆積しただけあってこれらの破片の接合率は非常に低い。例を上げると、外面の波状文が特異なため容易に同一個体を識別できる須恵系系陶器の甕（1108～1123）がある。この甕が割れた場合に生ずる総破片は数百片に達すると思われる。しかしこの個体の破片は41次調査を含めて約30片しか出土していない。総破片数を300片とすると約1/10しか出土していないことになる。これではほとんど接合できない量といえる。他の常滑産陶器や渥美産陶器は各々の個体の特徴が没個性的なため同一個体を抽出できないが、破片の残存率は上の須恵系系陶器波状文甕と同程度と推測される。

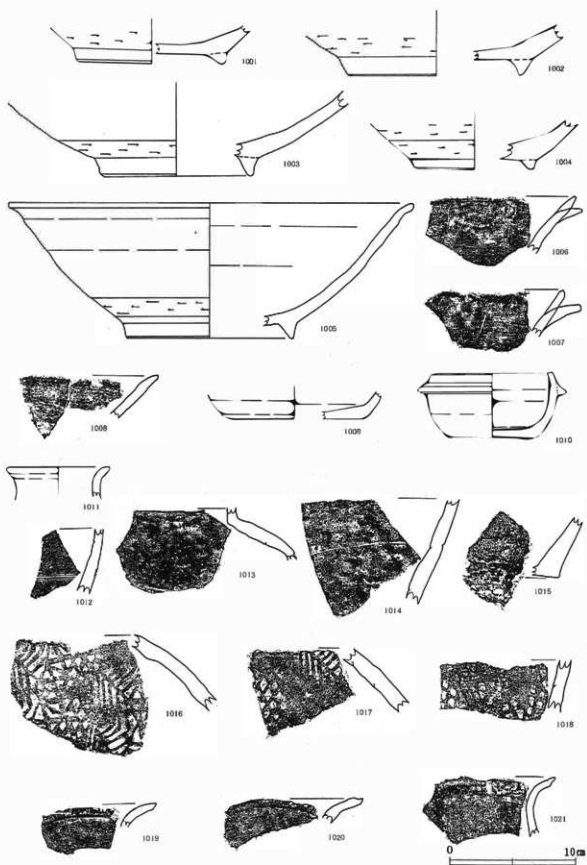
出土しなかった破片は、未調査区に包含されているか、猫間ヶ瀬や北上川に流失して失われたと考えられる。そうすると本来存在していた陶器の総量は出土した量をはるかに上まわると推定される。遺物や土砂は標高の高い地点から低い地点に移動するであろうから、出土した多量の国産陶器片の原位置は、52次調査区の北側と考えられる。12世紀においては52次調査区の北側に多量に国産陶器が集積された場所が存在した可能性がある。それは空の容器を貯蔵していたのではないだろうから、壺、甕に何らかのものを入れ貯蔵していた可能性が高い。何か貯蔵庫のような施設の存在が推測される。

このように多量に出土した国産陶器であるが、多くは前述のように近世以降の遺構からの出土であり、また接合率も低く、掲載するものは、口縁部の破片やその他特徴的なものの掲載に留めた。図示したのは常滑産陶器49点（1001～1049）、渥美産陶器58点（1050～1107）、須恵系系陶器又は古代の須恵器32点（1108～1139）、水沼産陶器3点（1140～1142）である。

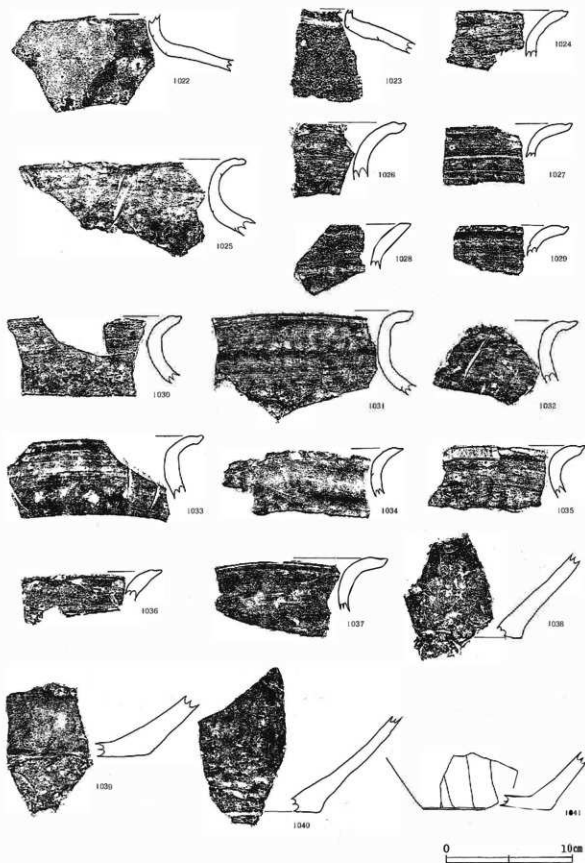
常滑産陶器の年代については赤羽・中野生産地編年（永原慶二編 1995 「常滑焼と中世社会」 小学館所収）を使用した。1b型式は1130～1150年、2型式は1150～1175年、3型式は1175年～1190年の製作年代とされている。資料の多くは特徴を有する部位を欠き、型式に当てはめることができなかった。

1010は口縁部に凸帯を有する器形である。類例の少ない器種で注目される。蓋と組み合わせの「合子」の可能性が考えられる。1016～1018は同一個体の破片である。大型の複合押印が施されており1b型式に分類される。1b型式の常滑産陶器甕は平泉遺跡群では非常に出土例が少なく、貴重な資料である。1023は口唇部を欠くが短頸壺と考えられる。1047～1049は52SE8から出土した。押印の目が非常に細かいのが特徴的である。

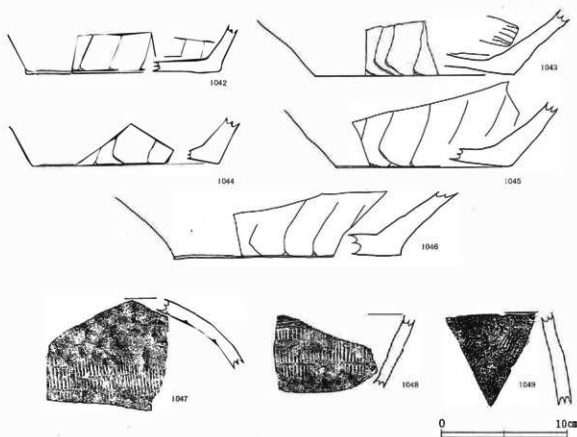
渥美産陶器の年代は特定の編年表には準拠していない。1050～1057は山茶碗である。1054は高台部が存在しないが欠損した痕跡もない。1058は片口部分を欠くが底部から口縁部まで残存している個体である。1063は内面に金が付着している片口鉢片である。砂金を擦る、練るといった用途に用いられたと考えられる。1064、1065は襷袢文の壺である。1065は沈線が釉薬で埋まって文様が判じ難くなっている。1066



第50图 常滑産陶器(1)



第51圖 常滑産陶器 (2)



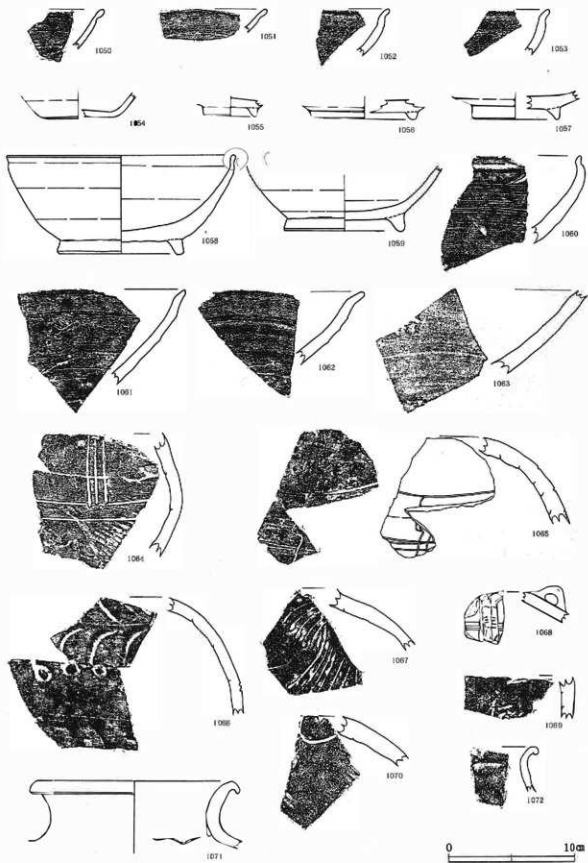
第52図 常滑産陶器 (3)

～1069は刻画文の壺である。1066は植物状の刻画、1067は鳥の羽状の刻画が施される。1068は耳の部分の破片である。耳の部分に刻みが施される。1069はわずかに刻画部分がみられる破片である。1070は甕の破片であるが沈線で描かれた文様がある。1073、1074は頸部に断面が角型の凸帯が施されている。1084～1107は甕の口縁部ないし頸部の破片である。頸部から口縁部が一度立ち上がりそれから口縁部が外反するタイプと頸部から直接口縁部が外反するタイプがある。

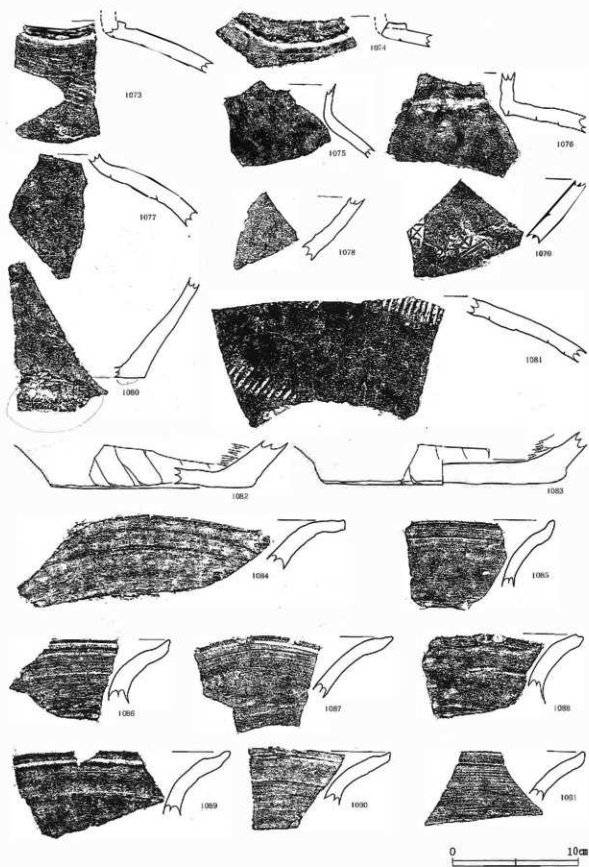
須恵器系陶器は1108～1133を図示した。1108～1123は同一個体で波状文を有する大型の甕である。外面の頸部から連続的に波状文が施されている。口縁部の内面の上端部にも波状文が施されている。内面には青海波に似る当て具痕がみられる。内面は当て具痕の上からナデ調整をおこなっており、当て具痕は部分的にしか残っていない。この個体の破片は41次調査でも出土しており、今回出土した破片に接合するものもあった。1113の上の部分は41次調査で出土した破片である。接合した状態を図示した。この波状文甕に類する須恵器系陶器は全国的にみても例がほとんどないようである。1124は片口鉢の底部、1125は波状文四耳壺の破片である。1126～1132は甕（又は壺）の口縁部破片である。1133は底部破片である。

1134～1139は古代の須恵器と思われる破片である。しかし12世紀の須恵器系陶器の内容がすべて明らかになっている訳ではなく、これらも12世紀の須恵器系陶器である可能性も全く否定はできない。1136、1137は同一個体であるが内面の当て具が独特なものである。1138、1139は破断面が赤褐色を呈する。

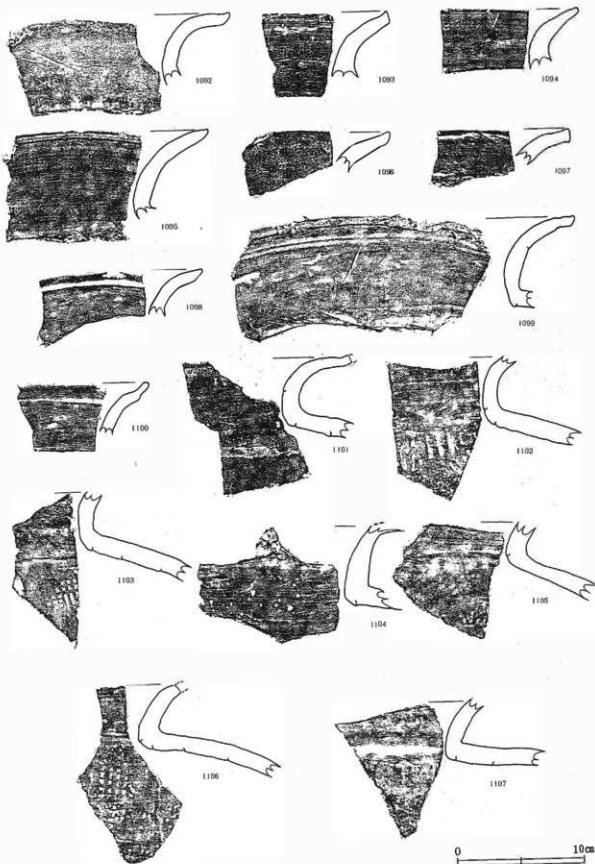
1140～1142は水沼産陶器である。この3片が52次調査出土の水沼産陶器の全点である。



第53圖 渥美産陶器(1)

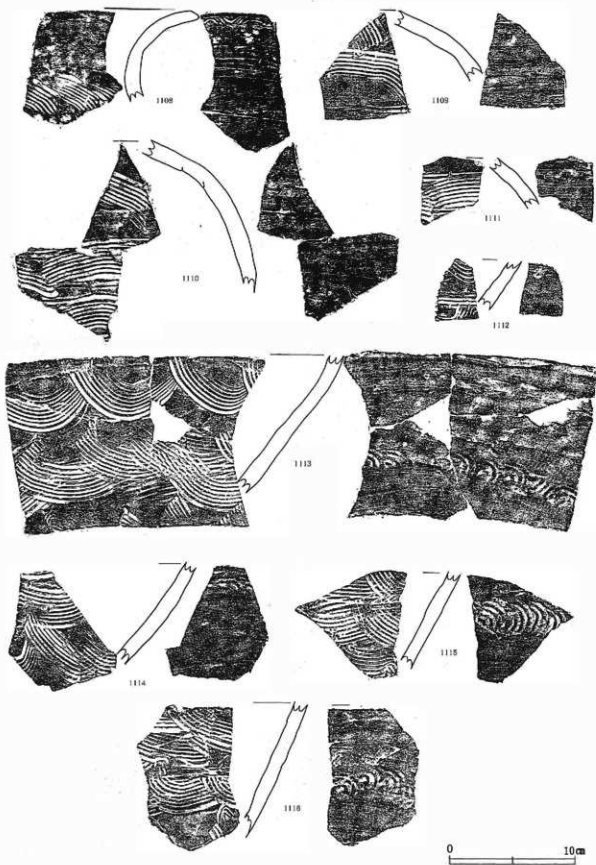


第54図 渥美産陶器(2)

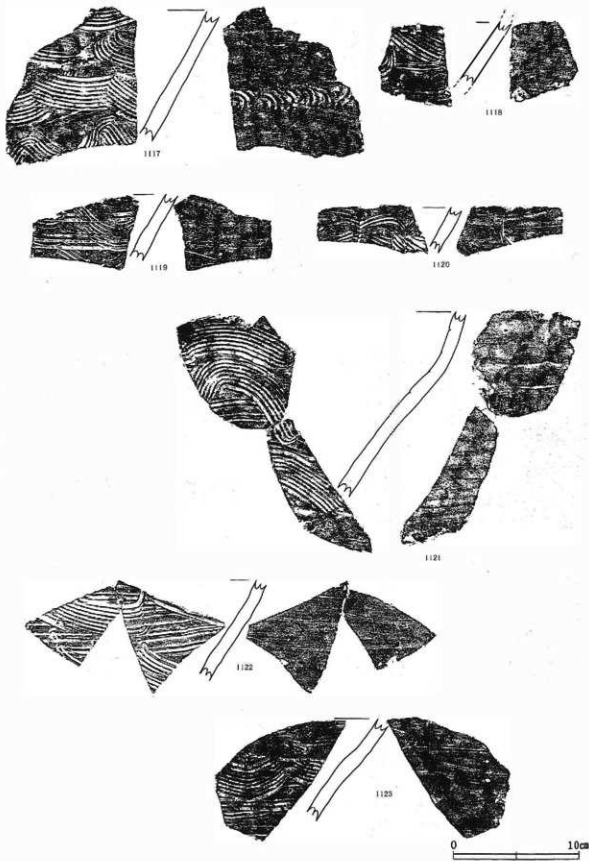


第55図 渥美産陶器 (3)

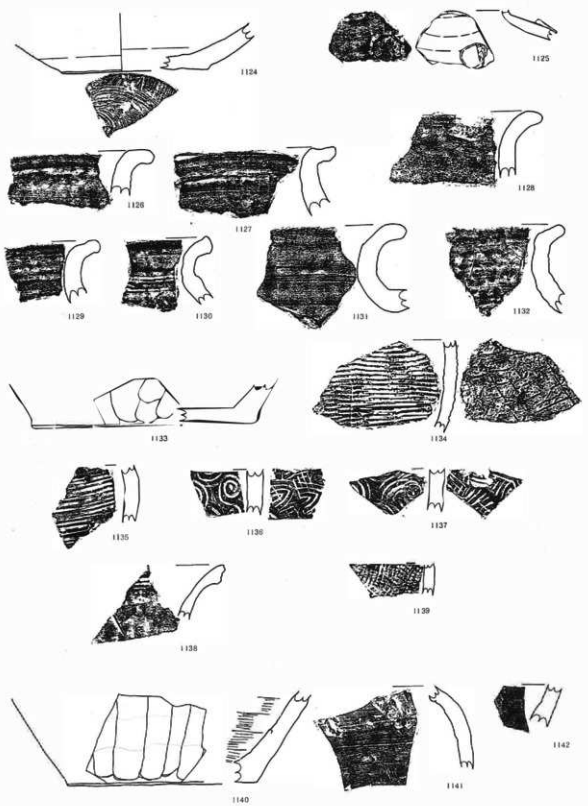




第56图 须惠器系陶器(1)



第57图 須惠器系陶器 (2)



第58圖 須惠器系陶器(3)・水沼産陶器

### 3 中国産陶磁器

52次調査で中国産磁器は白磁66点、青磁4点、青白磁5点が出土した。中国産磁器は出土したものを全点掲載した。中国産磁器の編年は大宰府における山本信夫氏の分類を参照した。年代も大宰府における年代観を記した。中国産陶磁器の多くは12世紀の遺構に介在しない状態で出土している。また12世紀の遺構から出土したもので、破片状態で混入した感じのものが多い。中国産磁器では碗、皿の破片が少なく壺類の破片が多いのが特徴的である。

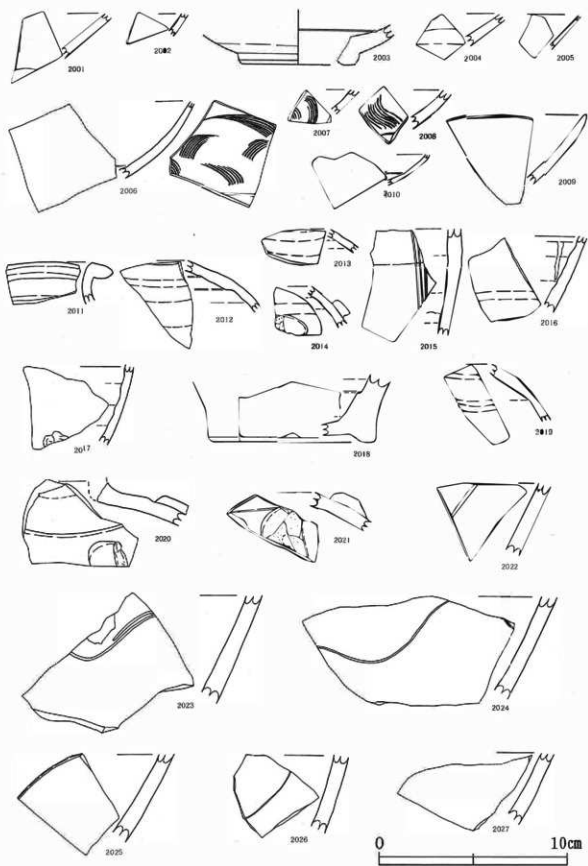
中国産陶器は102点 (3,045g) 出土した。この中で掲載したのは29点 (1,405g) である。中国産陶器は平泉遺跡群においては出土量が稀少な遺物である。その中であって今回の出土量は群を抜いて多いと言える。52次調査区では国産陶器の出土量の多さとともに、中国産陶器の出土量の多さも目立っているのである。出土状況は国産陶器片と同様に近世の遺構に混入して出土した破片が多い。

2001～2009は白磁の碗、皿である。小破片が多い。2011～2018は化粧土のあるⅡ系の白磁四耳壺で、同一個体の可能性がある。内面は口縁部と軸の流れた部分を除くと無軸である。2021～2027もⅡ系の壺で同一個体の可能性がある。かなり大型の壺と推測される。ほとんどの破片は二次被熱している。2028～2032も同一個体の破片の可能性が高い。これもⅡ系の壺である。2033は大型の壺の底部破片である。2034～2067は化粧土のないⅢ系の壺、又は水注の破片である。2064は水注の把手部分の破片である。志羅山遺跡の完形水注の把手に類似する。2065～2067は同一個体の破片である。内面は軸が流れる部分以外は無軸である。

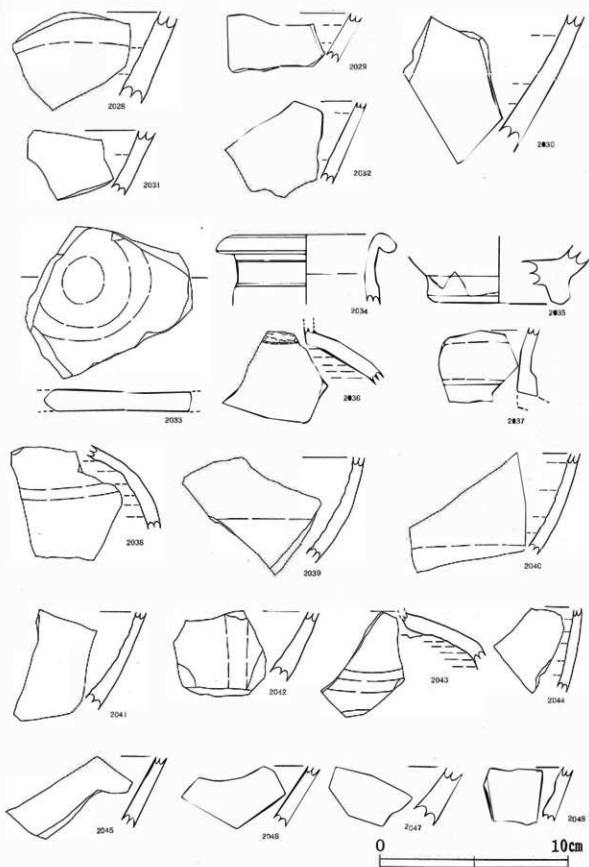
2068～2071は竜泉窯産の青磁碗である。2068、2071は内面に劃花文がある。

2072～2076は青白磁である。2073は碗であるが軸境に小石が付着する。2075は梅瓶にしては径が小さいのでそれ以外の器種の可能性もある。

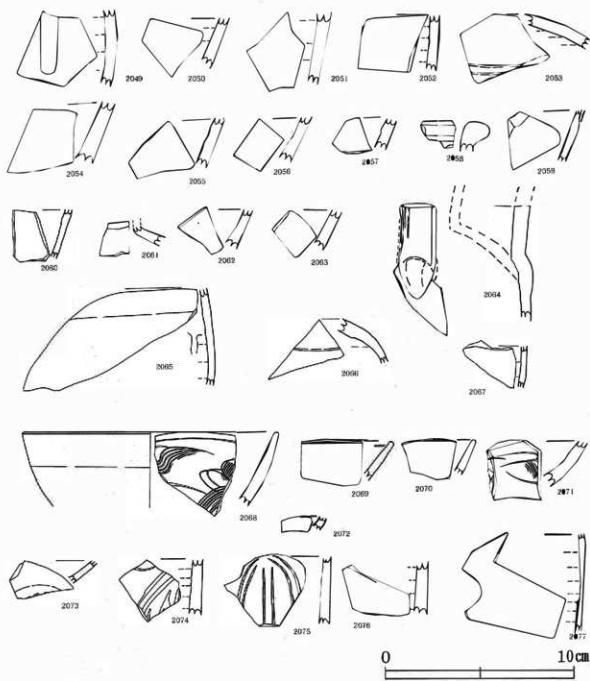
中国産陶器は29片を図示した。全体の器形を想定できないものが多く個々の破片を分類するに至らなかった。2077は磁器の図版に掲載したが外面に緑色の軸がかかり、陶器に分類するのが妥当ようである。2078、2080～2082、2083、2084は黄釉褐彩四耳壺の可能性が高い。2087は褐色の釉で上部に沈線による波状の文様がある。薄手の作りである。2101は底部の破片である。外面底辺部、底面は無軸である。2104、2105は絞胎陶器である。赤褐色の胎土と白色の胎土が練り込まれている。内面は失透性の白色の釉、外面には褐色の釉がかかる。どちらの破片も二次被熱している。同一個体かどうかは判断し難い。



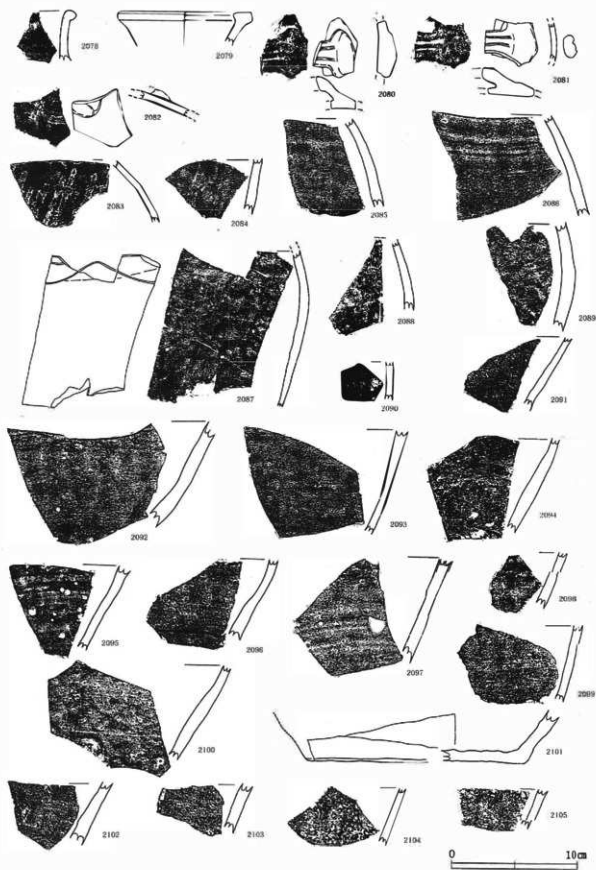
第59图 中国産磁器 (1)



第60图 中国産磁器 (2)



第61图 中国産磁器 (3)



第62圖 中国産磁器 (4)



#### 4 瓦

52次調査で12世紀の瓦は134点(17,545g)出土した。掲載したのは軒丸瓦3点(3001~3003)、軒平瓦1点(3004)、丸瓦22点(3005~3026)、平瓦39点(3027~3065)の合計65点(14,645g)である。

軒丸瓦はわずか3点の出土である。6001は陽刻の三巴文でその周りに二重の副線が施される。軒丸の文様部分が本体から剥離した状態の破片である。3002は陽刻の連珠検討三叉文が施されている。文様部分が剥離した小破片である。3003は小片で文様も判じ難い陽刻の三叉文と思われる。3004は今次調査出土の唯一の軒平瓦である。陽刻の唐草文が施されている。

軒丸瓦、軒丸瓦は胎土、質感、厚さなど様々な様相のものが混在するが、その中で2種類の胎土のものがそれぞれ数多く存在する。1つは軟質な焼成で胎土に細かい粒子の砂が多量に混じっている…①。もう一つは硬質な須恵器といった感じの焼成で胎土には砂粒はあまり混入していないもの…②である。①は丸瓦が3005~3013、3015、平瓦が3027~3044の合計28点である。②は丸瓦が3014、3016~3022、平瓦が3045~3055の合計20点である。

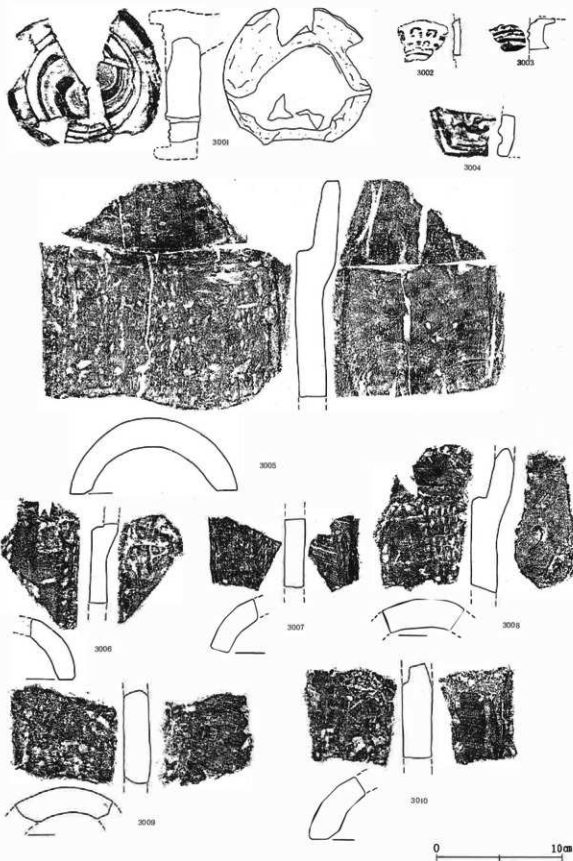
①の胎土のものは丸瓦も平瓦も②の胎土のものに比べると厚手の作りである。色調は灰~灰白色の色調を呈するものが多い。①の丸瓦は下面(凹面)に布の圧痕を呈する。上面(凸面)は縄目のタタキ痕があるがその上からナデ調整をおこなっており、タタキ痕はほとんど消されている。①の平瓦は上面(凹面)、下面(凸面)の両面に緩い弧状を呈する斜位の線がみられる。これは粘土塊から粘土板を切り離す際の糸切痕と考えられる。平瓦の下面には縄目のタタキ痕が明瞭にみられる。この縄目は②のものより太い。上面には布痕が見えず、上記の斜位の線と部分的に上面にみられるのと同様の縄目がある。

②の瓦は①と比較すると薄手の作りである。タタキの縄目も①のものより細い。色調は灰~青灰色を呈するものが多い。②の丸瓦は下面(凹面)に布の圧痕を有する。数は少ないが横位の連続する沈線が部分的に見える個体もある。これは粘土塊からの糸切痕と考えられる。上面にはタタキの縄目が顕著にみられる。②の平瓦は上面、下面に砂の付着がみられる。これは型から瓦を外しやすくするための「離れ砂」といわれるものである。そして上面(凹面)には糸切痕と思われる横位の沈線の連続と布の圧痕がみられる。下面(凸面)には縄目のタタキ痕がみられる。この縄目は丸瓦と共通するものである。

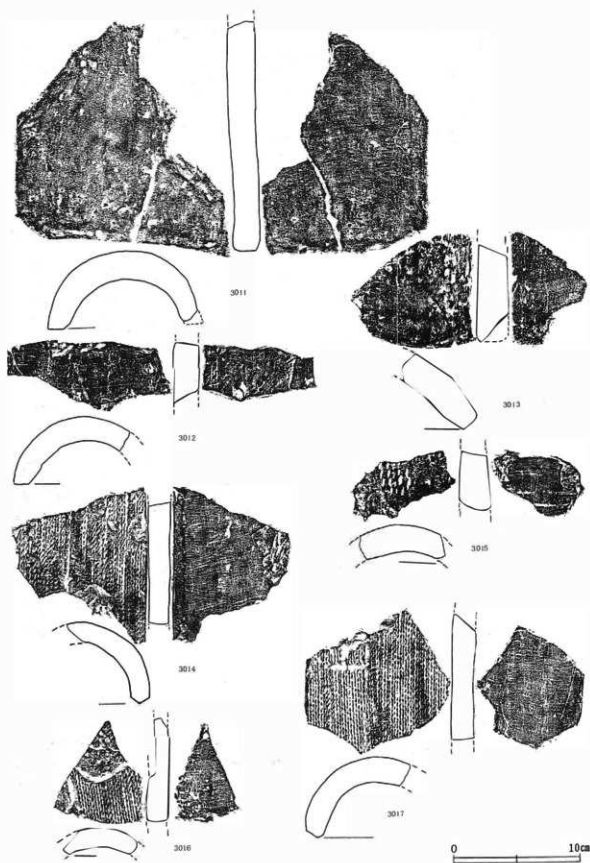
このように①と②では質感、製作技法が大きく異なっている。よって①と②の瓦は製作工人、製作時期がそれぞれ異なるという可能性が考えられる。①の瓦が集中して出土した遺構は52SE1である。一方②の瓦は52SE8や近世の遺構、近代の擾乱から多く出土している。52SE8は出土したかわらけの形態と折敷の年輪年代から平泉滅亡の1189年に非常に近い時期の遺構と考えられている。一方52SE1のかわらけは出土点数が少ないが52SE8よりは古い形態のかわらけが出土しており、遺構の年代は52SE8よりも古い。このことからすると①の瓦が②の瓦よりも古いと言えそうである。

そして2種類の瓦が時期を違えて存在するという事は柳之御所遺跡堀内部地区において最低2回の瓦を葺く両期があったということになる。

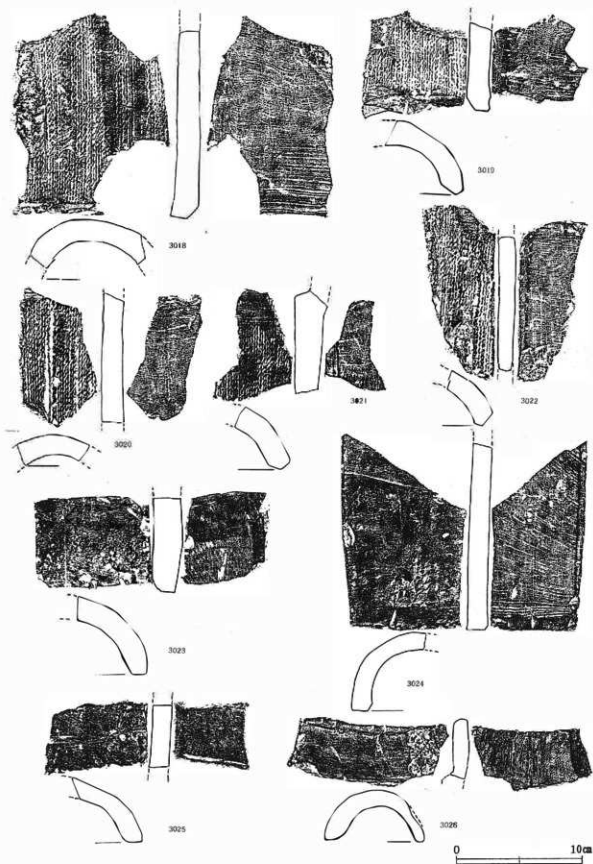
その他に①と②の範疇に当てはまらない特徴の瓦もある。丸瓦は3023~3026、平瓦は3056~3065である。3064、3065は一応平瓦に分類したが、平らな破片で反りがほとんどなく、本当に平瓦かどうか不明である。硬質な胎土である。



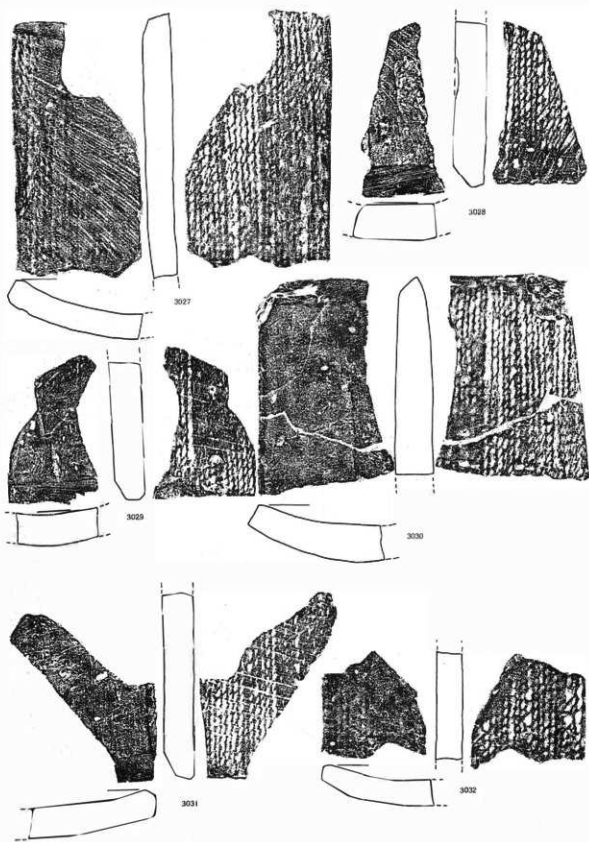
第63圖 瓦(1)



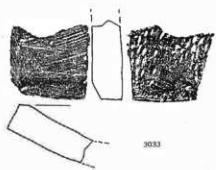
第64圖 瓦(2)



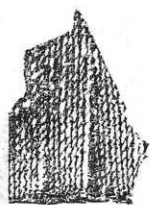
第65圖 瓦 (3)



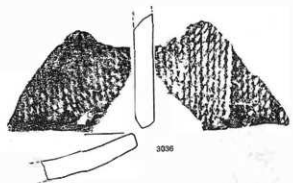
第66圖 瓦(4)



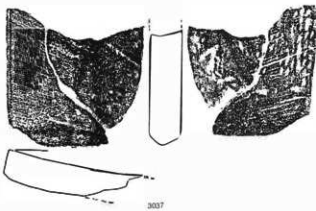
3031



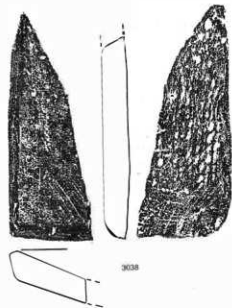
3035



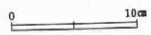
3036



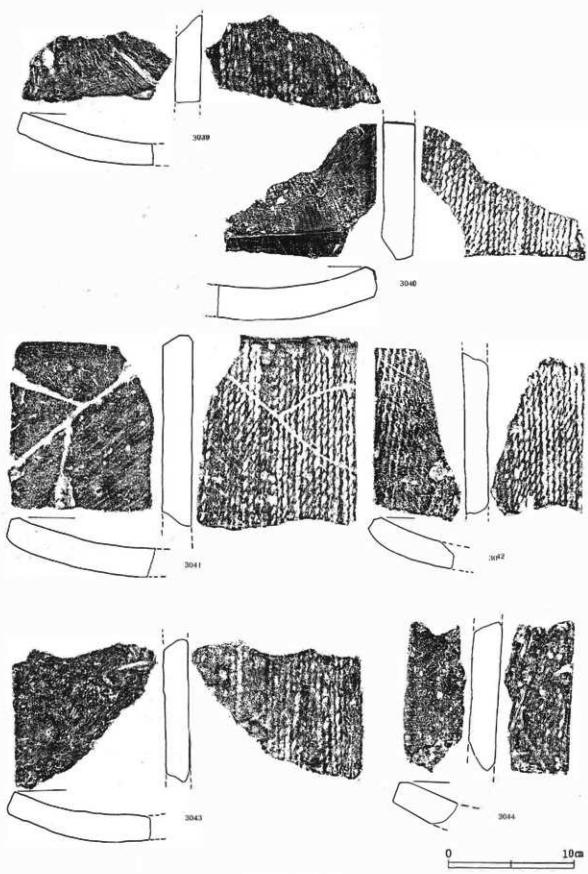
3037



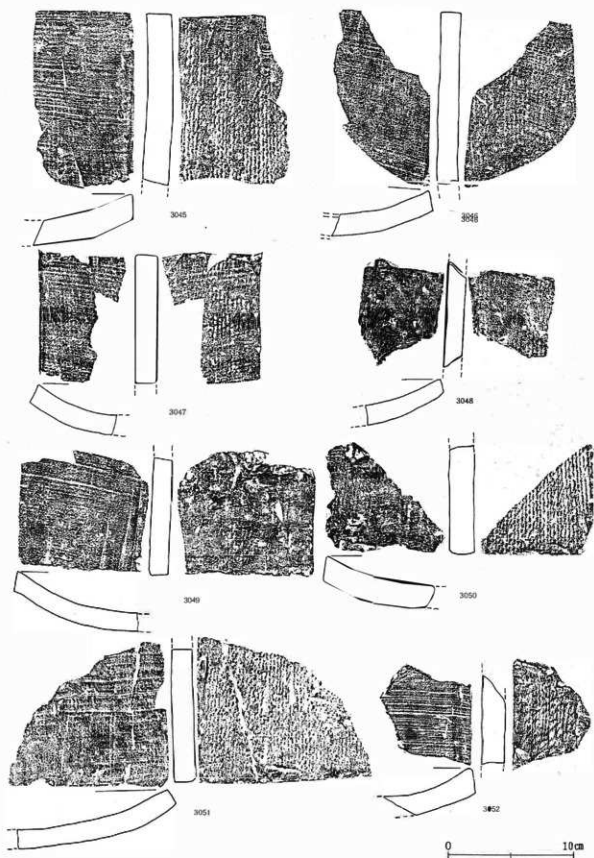
3038



第67圖 瓦 (5)

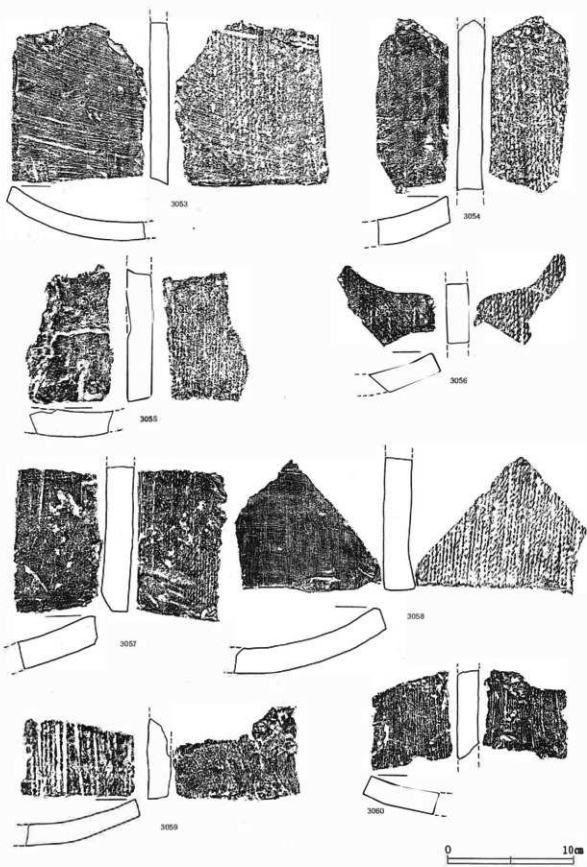


第68圖 瓦 (6)

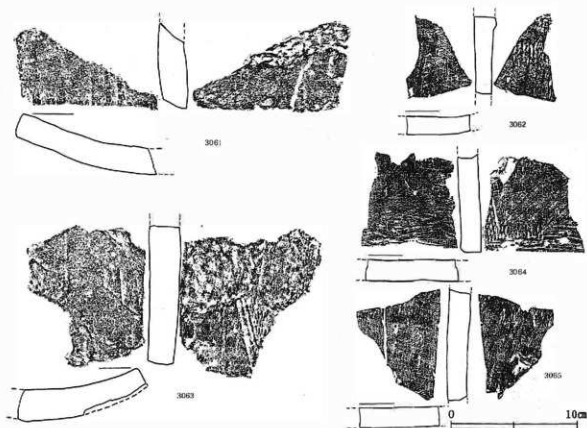


第69图 瓦 (7)





第70图 瓦 (8)



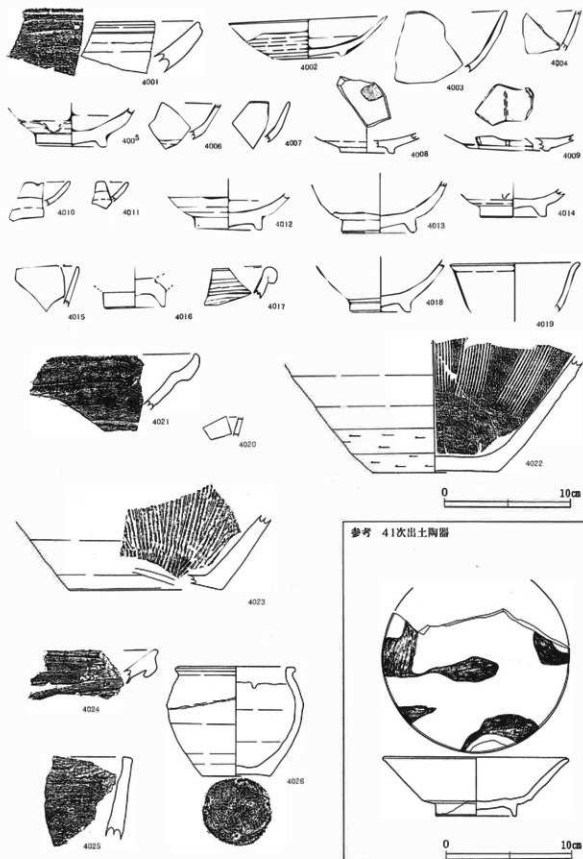
第71図 瓦(9)

## 5 近世陶磁器

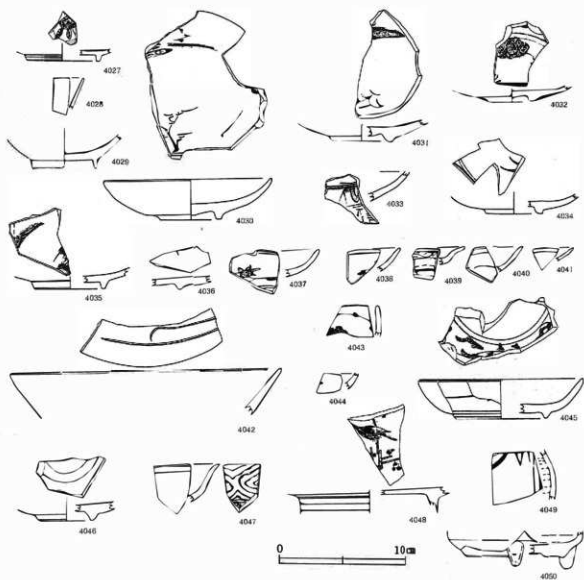
52次調査では中世末～近世の遺構が多数検出された。そしてそれに伴う陶磁器が出土している。図示したのは陶器が26点(4001～4026)、磁器が24点(4027～4050)である。これらは一部中世のものも含むが近世陶磁器と一括して扱っている。また参考資料として41次調査で出土した陶器を1点、磁器を4点図示した。52次調査区と41次調査区は重複する部分が多く、41次調査区出土の近世陶磁器も今回検出された近世の遺構群に伴うものである。41次調査の報告書では近世陶磁器は全く実測図の掲載がないが、かなりの点数の近世陶磁器が出土している。その一端は(羽柴直人 1996 「近世の柳之御所跡について」 紀要XVI(財)岩手県埋文センター)で示している。

4001は13世紀後半～14世紀前半の東北地方在地産の瓷器系陶器の片口鉢片と推測される。柳之御所遺跡堀内部地区で13～14世紀のはっきりした遺構は検出されておらず、また、これまで同時期の遺物の出土量も非常に少ない。よって、この破片は他地区からの混入ということも考えられる。

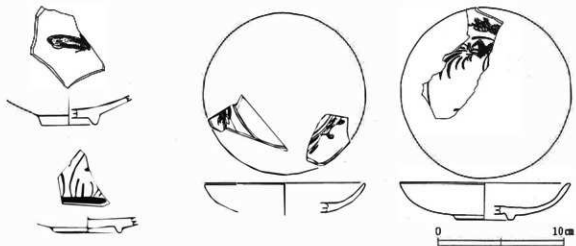
4002～4011は近世初頭の陶器である。柱穴から出土した遺物も多く、掘立柱建物の構築年代を考える上で参考になった。また、これだけまとまった量の近世初頭の陶器があるということは、52次調査区内において、近世初頭に安定した力を持つものが生活していたことを示している。参考として掲載した41次調査の志野織部の皿は井戸41SE6から出土したものである。かなりの優品であり当該区で生活していた者の勢力をしのばせる。



第72图 近世陶器 (1)



參考 41次出土磁器



第73圖 近世陶器 (2)

4012~4026は18世紀以降の陶器である。18世紀以降は17世紀代に比較すると陶磁器の量が飛躍的に増し、出土量も非常に多くなるのが特徴である。そのことを考え合わせると、52次調査区内では18世紀の陶磁器の出土量はそれほど多くないということが言える。遺構でも18世紀以降の大型の掘立柱建物は検出されていない。

4027は中国産の染付である。16世紀後半のものとして推測される。4028~4041は17世紀代の肥前産磁器である。4028、4029は同一個体の碗、他は皿である。4030は41次調査出土のものとして接合した。4037は同じ文様のもの（参考の図中央）が41次調査で出土している。同一個体の可能性もある。参考の図に掲載した4点はいずれも1630~1650年代の肥前産磁器皿である。4042は青磁の皿である。21次調査出土破片(21SD1出土 掲載番号472)と接合した。又、遺構外出土片（報告書掲載番号4775）も接合しないか同一個体と思われる。図は52次の出土片と21次出土片が接合した状態を示した。なお以前の報告書ではこれらを中国産青磁としているが、それは誤りで肥前産青磁が正しい。このように52次調査区では初期の肥前産磁器が多量に出土しているのが特徴的である。これまで平泉遺跡群内でも17世紀代の屋敷跡が幾つか調査されているが、17世紀前半の肥前産磁器の出土量は非常に少ない状況である。報告書が未刊行のために数値的な比較はできないが、一般の農民層とは階層が異なる中尊寺金院跡の調査では17世紀前半代の肥前産磁器がまとまって出土している。やはり17世紀前半代の肥前産磁器の量は、その使用者の階層性を表す可能性が高い。本調査区は17世紀前半の肥前産磁器の出土量の多さから考えて、格の高い者の居住が推測される。特に4042の青磁の皿は非常に高価なものであり注目される。

4043~4050は18世紀以降の肥前産磁器である。質、量ともに17世紀前半代に比較すると貧弱といえる。4043、4044は碗、4045~4048は皿、4049は瓶、4050は香炉である。4049の内面は無軸である。4050は青磁で足が付く、内面は無軸である。

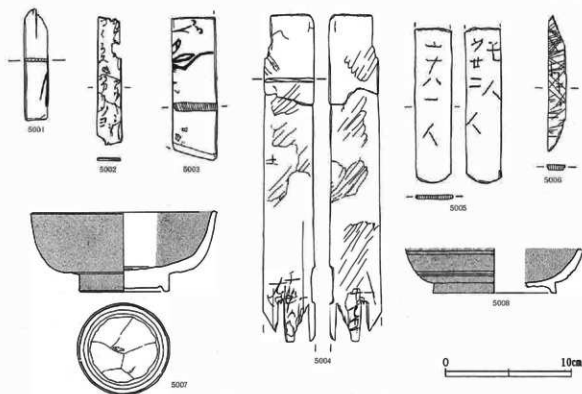
## 6 木製品

木製品は258点を図示した。この内、194点（5001~5194）が52SE8の出土品である。他に52SE1か4点（5195~5098）、52SE2か2点（5199~5200）、52SE9か4点（5201~5204）、52SE10か1点（5205）、52SK10か10点（5206~5215）、52SK11か21点（5205）、52SK24か19点（5237~5255）、52SD26か1点（5256）、52SB25の柱穴出土が1点（5257）、柱穴P1009出土が1点（5258）である。表中の整理番号というのは整理の過程で用いた番号で、水漬けの遺物それぞれにその番号を付してあるので、今後の保存処理や樹種同定の際の便を考えて表中に示した。

5001~5004は墨書のある木片である。5002はカタカナ、5003には絵？が書かれている。5004は図の下端に文字らしい墨書がある。5006は文字？の線刻がある木片である。「七人」、「廿二人」などと読めるが、上部が欠損しており全体の文意は不明である。5006は外面に切り傷が多量にある木片である。5007、5008は漆器碗である。5007の外底面は漆が施されていない。5008は小破片から器形を求めており、図示した実測図は正確ではない可能性もある。5009~5042は折敷である。ただし小片は確実に折敷かどうかはわからない。5018は折敷として使用した後に端部を削って何物かに転用している。5044は折敷に似るが端部に抉りがあり、箱の部品と思われる。5050は扇の骨である4本が組み合わさった状態で出土した。5051~5055は単品で出土した扇の骨である。5056、5057は櫛である。図のスケールは2/3である。5056は歯の基部に線刻による文様がある。5058は刀子の鞘、5059は柄である。5058の実測図の右端は鞘の内面の図である。鞘が割れていたため実測可能であった。5060~5062は杓子、5063は木槌の槌部分である。

5065～5080は箸である。ただし、両端部を欠くものは箸か否かの判断は難しい。5086は用途不明の部材である。何らかの飾りの部材と考えられる。5087は竹とんぼの類と思われるが定かでない。5088から5090は形代と思われる。5089は刀形であるが、他の2点は何をかたどったかわからない。5091は机の脚の類である。5102は貫穴がある部材、5104は断面形がL字形を呈している部材である。いずれも用途は不明である。5186は毬打のスティックに似るか定かではない。5193は棒状の製品で端部にえぐりがある。長さは90cm近くに達し一方の端部は欠損している。5193、5194のスケールは1/4である。

5195～5198は52S E 1からの出土である。12世紀の材木であるが、製品名、用途は不明である。5199、5200は52S E 2からの出土で近世以降の材木である。5201～5204は52S E 9からの出土で12世紀の材木である。5201は折敷、5205は曲物の廻しの側板が本体から外れたものである。樹皮で纏じられており釘穴が3ヶ所にある。5205は箸で52S E 10から唯一出土した木製品である。5206～5215は52S K 10からの出土、5216～5236は52S K 11からの出土でチュウ木として使用された木片である。これらは本来チュウ木として製作されたのではなく、何らかの製品や不要の木片をチュウ木として転用したものと推測される。両遺構ともに、図示した他にもチュウ木と思われる木片が多量に出土している。この中で52S K 11出土の5231～5236は黒漆塗がある木片である。何らかの漆塗製品を割ってチュウ木に使用したと考えられる。5236は縦に割れていたものが接合したものである。図示した表面にのみ黒漆が塗られているが、物差にみられるような目盛り状の刻みと、「く」状の刻みがある。目盛りと目盛りの間の長さは3.55cmを数える。この数値は曲尺の1寸（約3.03cm）よりも長く、鯨尺の1寸（約3.78cm）よりも短い。また「く」状の刻みは以前、柳之御所遺跡で出土した物差に施されたものと非常によく似る。しかしこれまでの物差ではこの刻みは5の単位の日盛に施されるものであり、5236に施される部分には必要のない記号である。また両方の端部は削られているが、それが本来の製品であった時点の端部なのか、チュウ木に転用される際の削りなの



第74図 52S E 8出土木製品 (1)

か判断できない。本来の製品の端部であれば物差とは考え難い。そして、これまで平泉で出土した物差で塗装のものは存在していない。以上の点から5236が物差とするには躊躇を感じる。5237～5256は52SK24出土のものである。5237～5253はチュウ木である。図示した他にも多くのチュウ木が出土している。その多くは5239のような断面が方形の棒状のものである。5254～5256はチュウ木以外の用途の材木と思われる。5257は52SB25の柱穴P866から出土した大型のへらである。掘立柱の礎盤として転用され、使用されていたと思われる。

### 年輪年代測定結果

52次調査で出土した木製品について光谷拓実氏（奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター 技術研究室長）に年輪年代測定を依頼し、測定結果をいただいた。

52次調査出土のものは3点について依頼したが、それと合わせて平泉町教育委員会の調査で出土した2点も同時に結果をいただいた。よって、その2点についても町教育委員会の許可を得て測定結果をここで報告する。

試料1 柳之御所遺跡第52次調査52SE8出土折敷 報告書掲載番号5018

結果 測定不能

試料2 柳之御所遺跡第52次調査52SE8出土折敷 報告書掲載番号5010

結果 西暦1186年伐採（樹皮あり）

試料3 柳之御所遺跡第52次調査52SE8出土箱片 報告書掲載番号5044

結果 測定不能

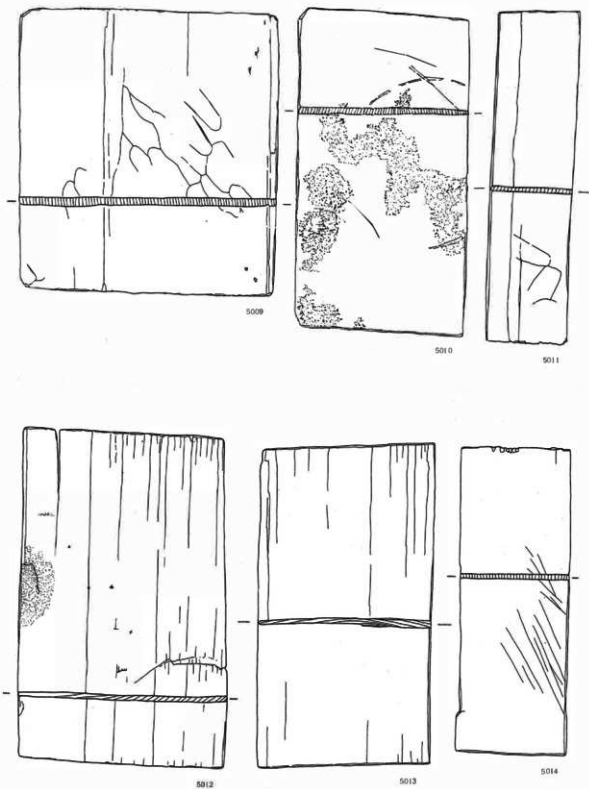
試料4 柳之御所遺跡第53次調査井戸中層出土板材（町教委試料）

結果 西暦1148年伐採

試料5 志羅山遺跡第59次調査2号井戸下層出土曲物底板（町教委試料）

結果 西暦1099年+ $\alpha$ 年伐採

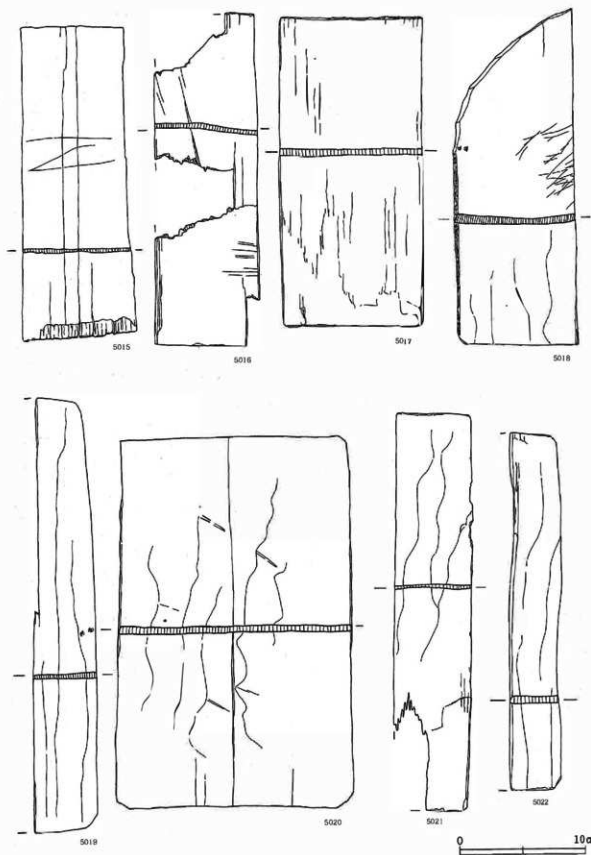
試料4の結果については平泉町教育委員会 2001 「平泉遺跡群発掘調査略報」柳之御所遺跡53・54次にも掲載している。試料5については現在報告書未刊行である。



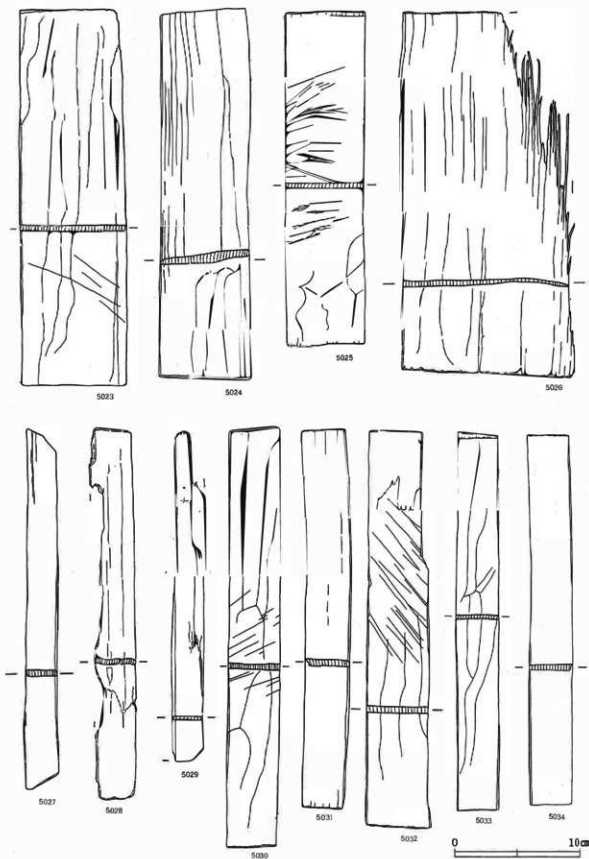
0 10cm

第75图 52SE8出土木製品(2)

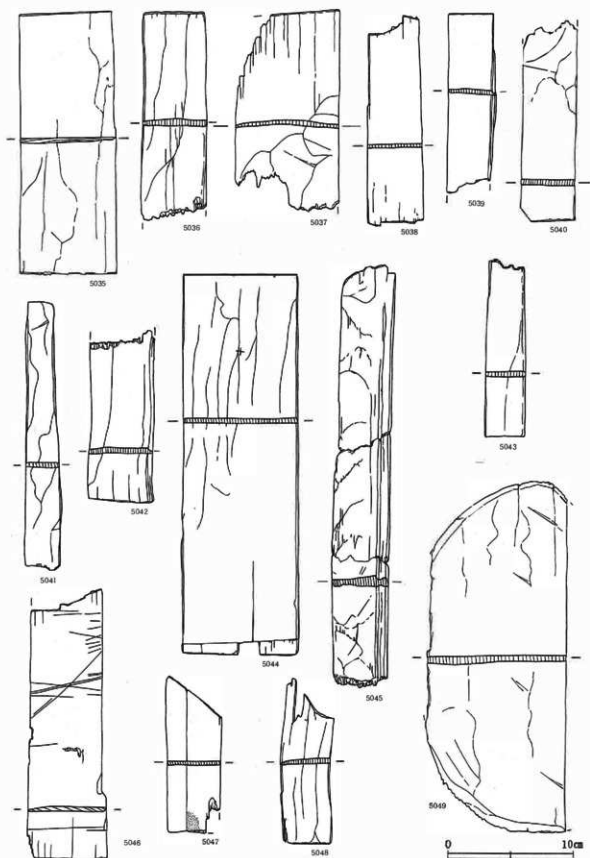




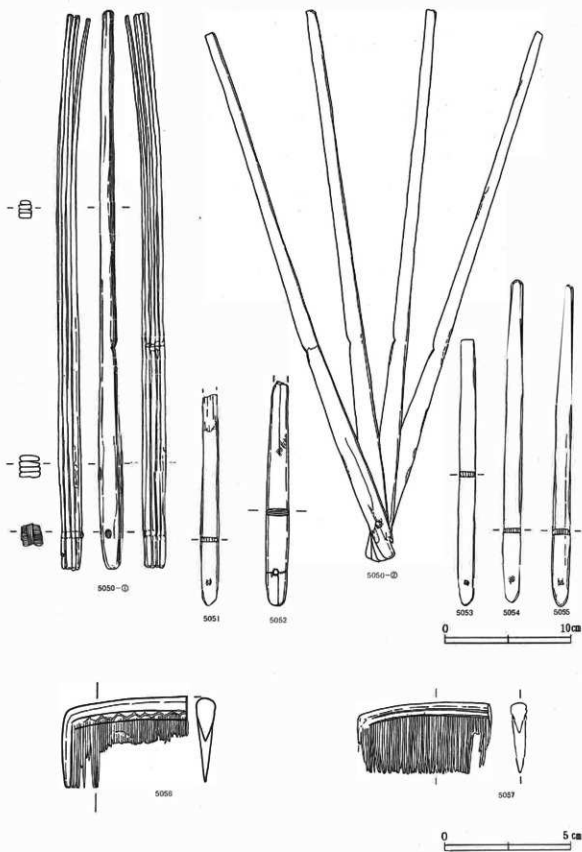
第76圖 52SE8出土木製品 (3)



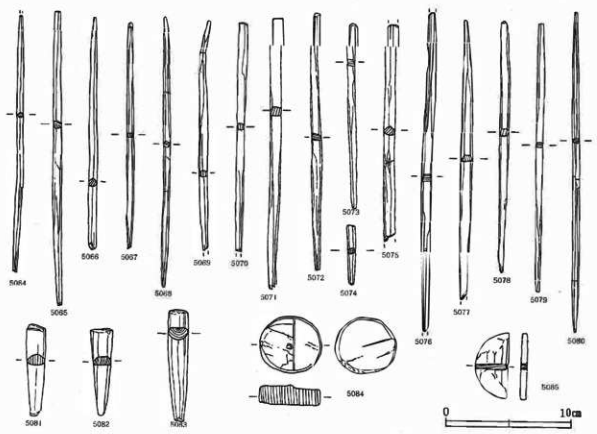
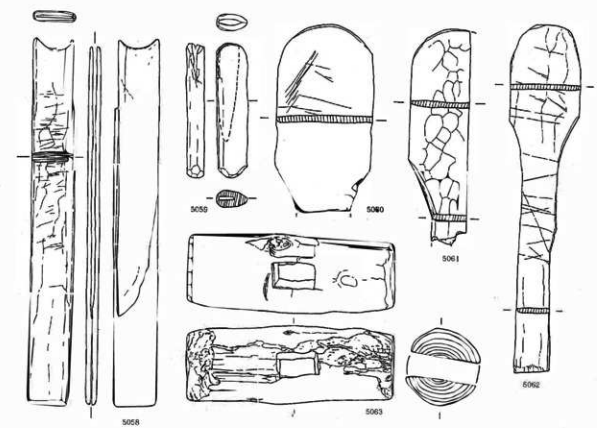
第77圖 52SE8出土木製品(4)



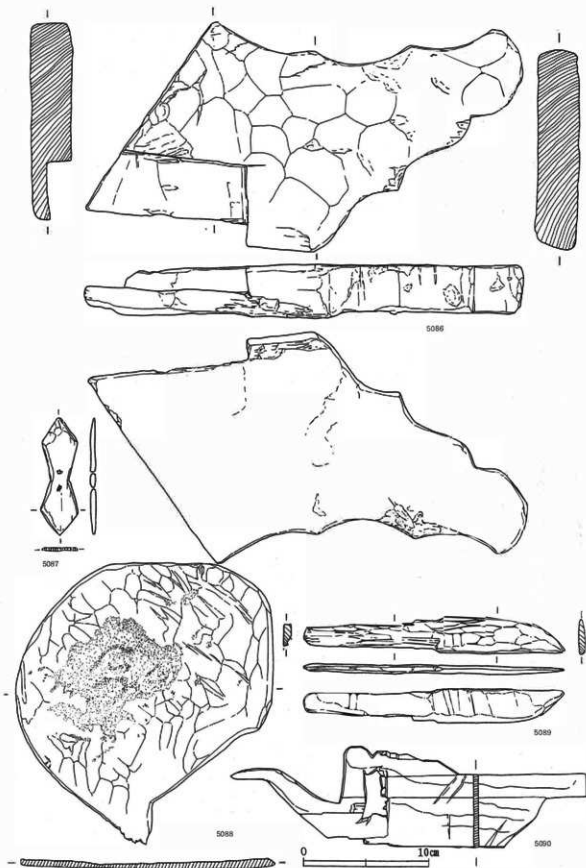
第78圖 52SE8出土木製品 (5)



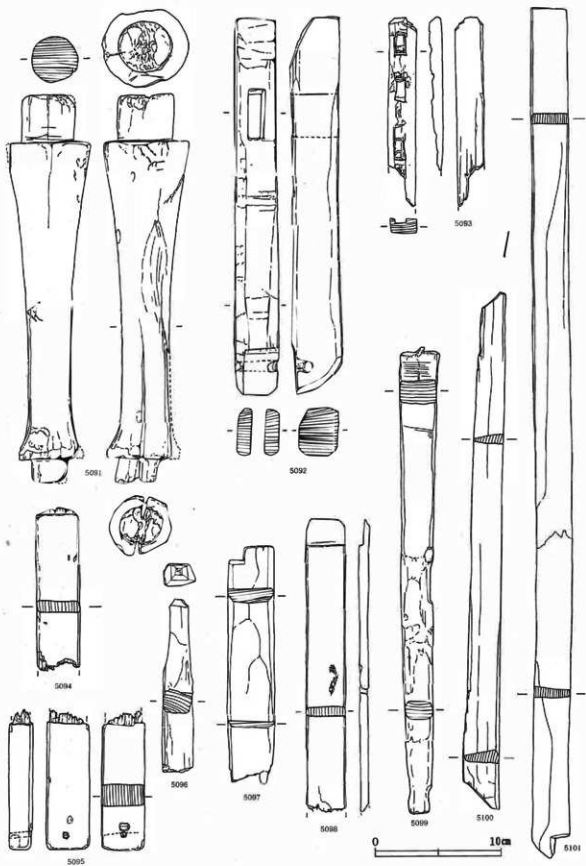
第79圖 52SE8出土木製品(6)



第80圖 52S E8出土木製品 (7)



第81圖 52SE8出土木製品 (8)

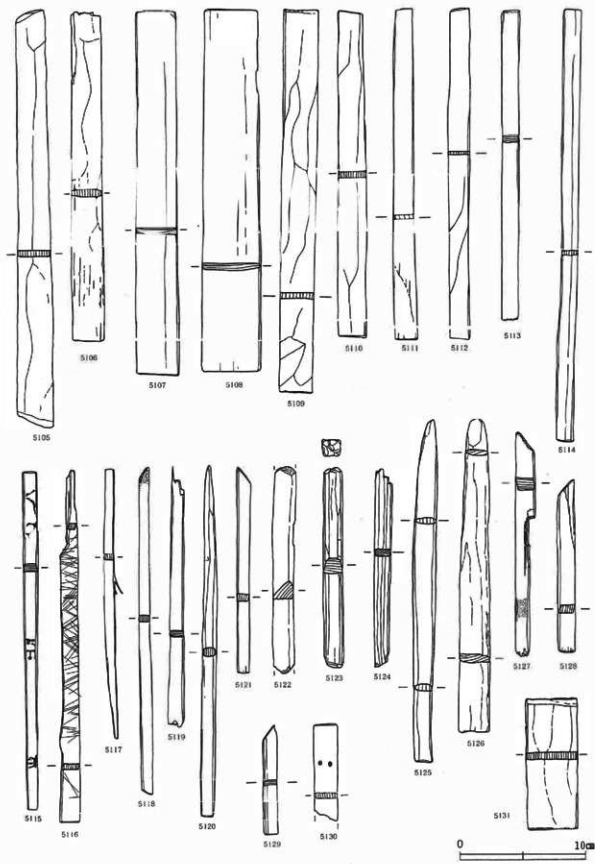


第82图 52SE8出土木製品 (9)

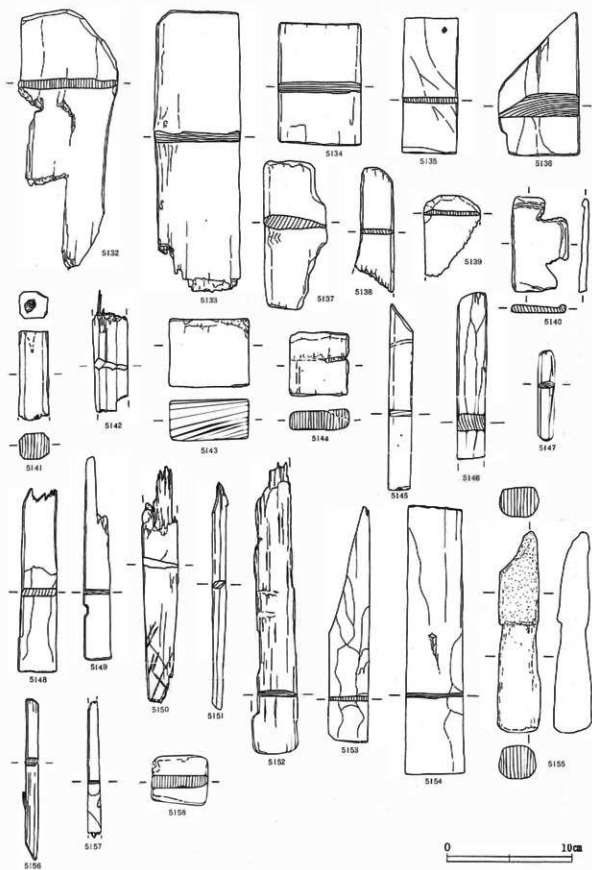


第83圖 52SE8出土木製品(10)





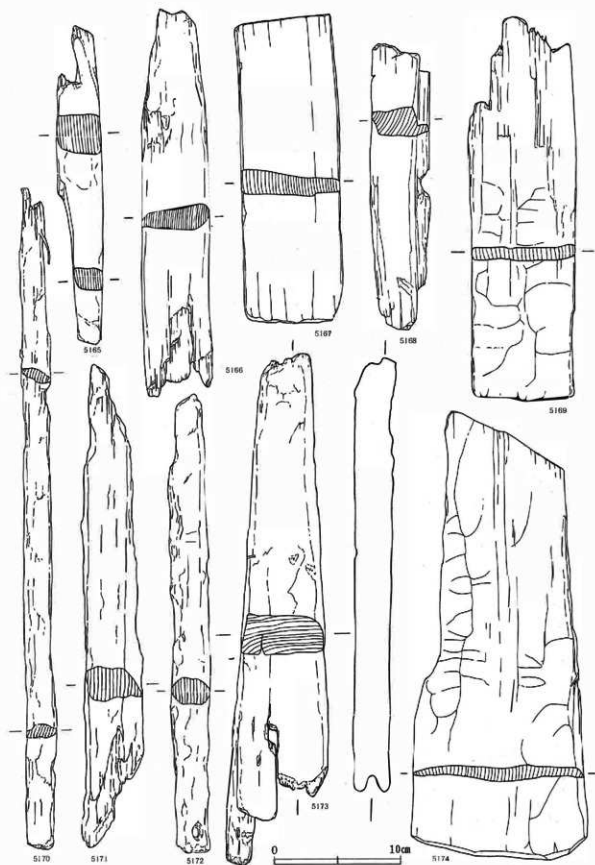
第84圖 52SE8出土木製品 (11)



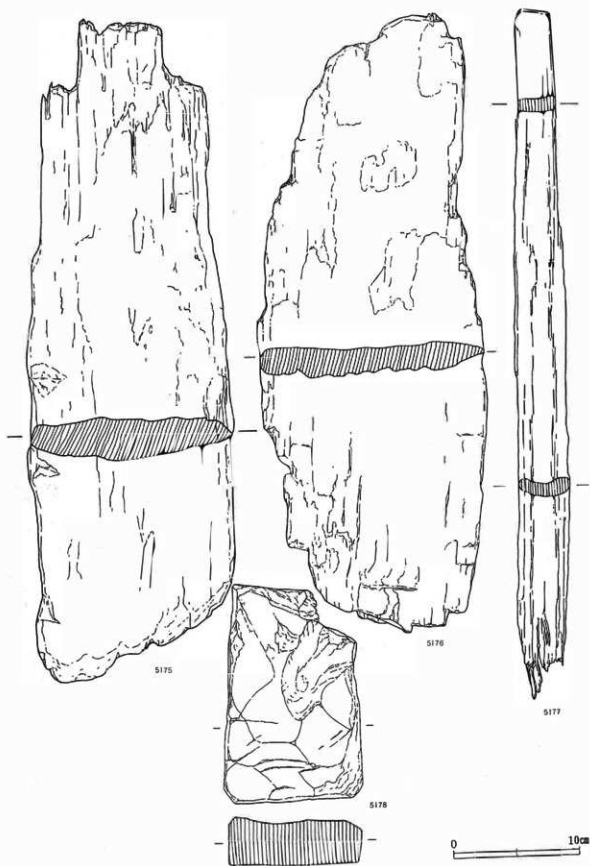
第85圖 52S E8出土製品 (12)



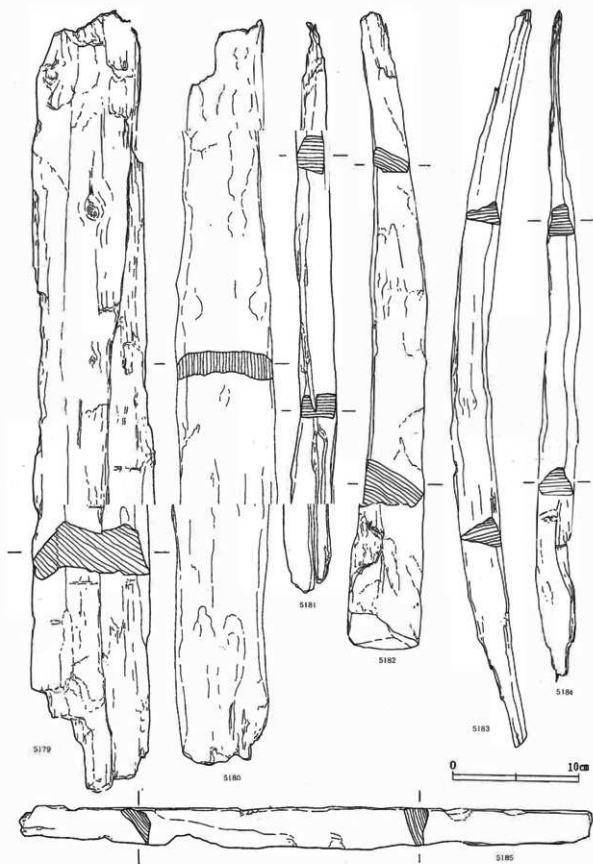
第86圖 52S E8出土木製品 (13)



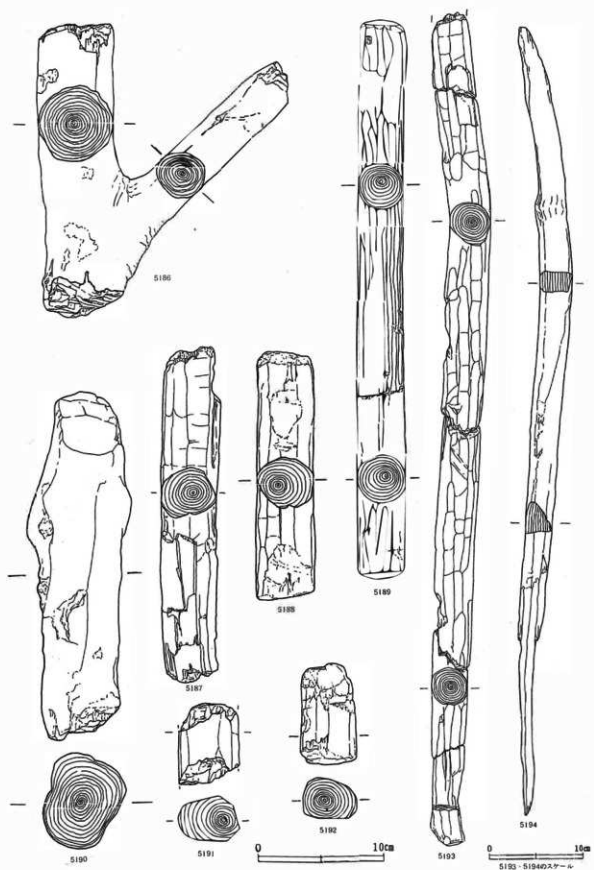
第87圖 52SE8出土木製品 (14)



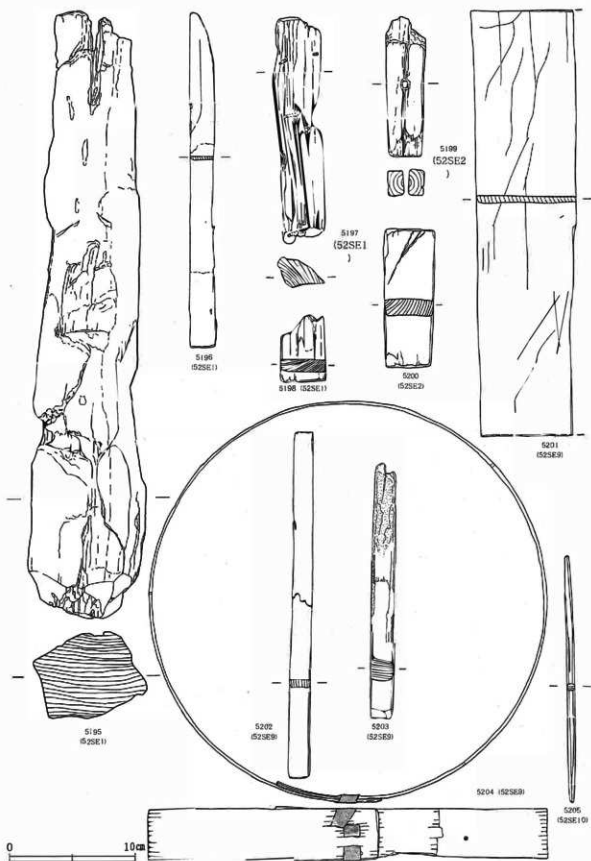
第88圖 52S E8出土木製品 (15)



第89圖 52SE8出土木製品 (16)

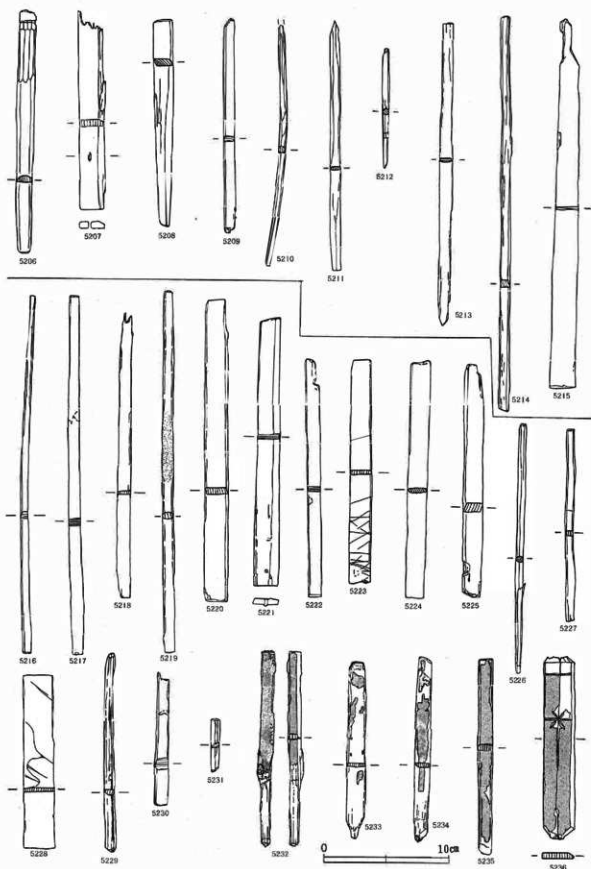


第90図 52SE8出土木製品 (17)

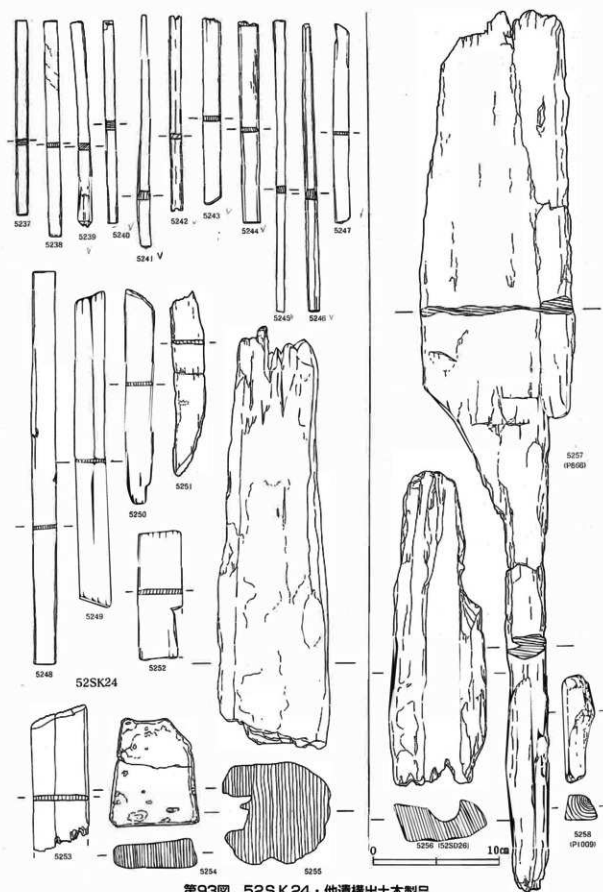


第91圖 52SE1・2・9・10出土木製品





第92圖 52SK10・11出土木製品



第93図 52SK24・他遺構出土木製品

## 7 その他の遺物

これまで述べた種類以外の遺物をここで一括して述べる。

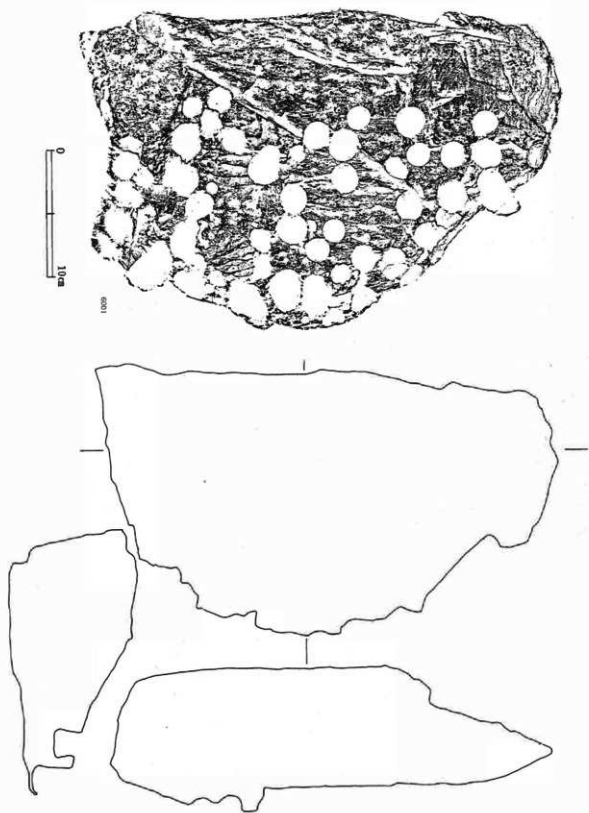
6001は52S E 8の5層から出土した粘板岩である。片面に貝の巢穴が多数開いている。類似のものは毛越寺庭園にみられ、庭園において荒磯を表現する風景の道具立てとして使用されたと考えられる。同様に6001も庭園に用いられたも石であり、不要になった後に井戸に廃棄されたと推測できる。6002～6008は砥石である。砥石は近世以降と思われるものは割愛し、12世紀に属する可能性が高いもののみを示した。6009は滑石製の石鍋の体部破片である。外面に縦方向の調整がみえる。6010は滑石片である。上面、下面ともに擦痕がある。石鍋の転用品の可能性ある。6011は浮き彫りのある石片である。何らかの彫刻から剥離欠損した石片と思われる。6012は穿孔のある石である。穿孔は自然のものである可能性が高い。

6013は切り離しがへら切りの須恵器坏である。9世紀前半の遺物と考えられる。6014は軟質な焼成であるが9～10世紀の須恵器の破片と推測される。器種は長頸瓶の可能性が高い。6015～6017は9～10世紀の土師器長胴甕の破片である。調整は内外面ともに磨耗が著しく不明である。6018は52S E 8から出土した素焼きの破片である。火鉢の類と推測され、時期はおそらく12世紀と考えられる。6019は素焼きの破片である。時期、器種とも不明である。6020はロクロかわらけの底部に穿孔が施されたものである。磨耗が著しく確実ではないが、焼成後の穿孔と思われる。6021、6022は羽口である。6021は時期不明、6022は出土遺構から12世紀のものと考えられる。

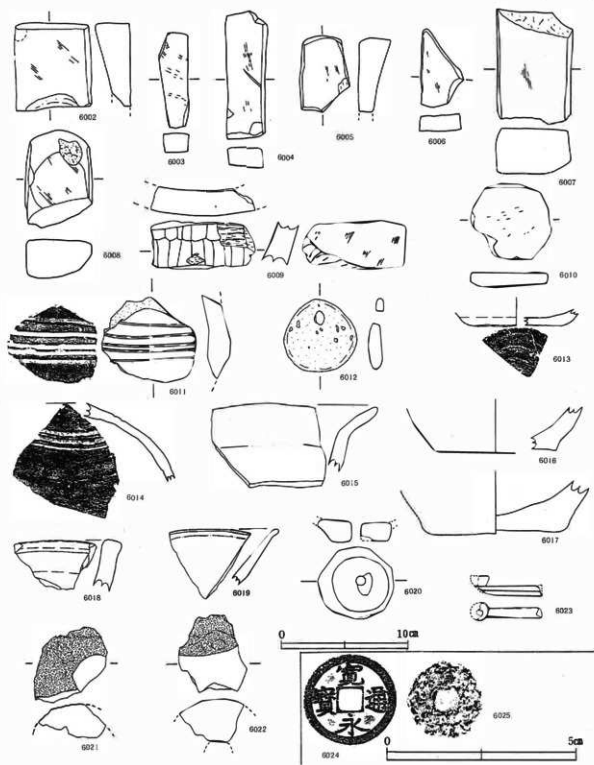
6023は52S B 3の柱穴P 372から出土したキセルの雁首である。近世のものであるが詳細な時期は判じかねる。6024、6025はどちらも寛永通寶（古寛永）である。6025は腐食が著しい。

6026～6028は鉄製の鎧の「札」である。52S K 24の6層から出土した。52S K 24はトイレ状遺構であり6層は有機質分の多い土で種子やチュウ木が多量に混入していた。6026と6027はX字状に重なって癒着し、6028はやや離れて単独で出土した。3点とも表面に漆が塗られており、穴の数は13個ある。3枚ともに威糸の痕跡はない。

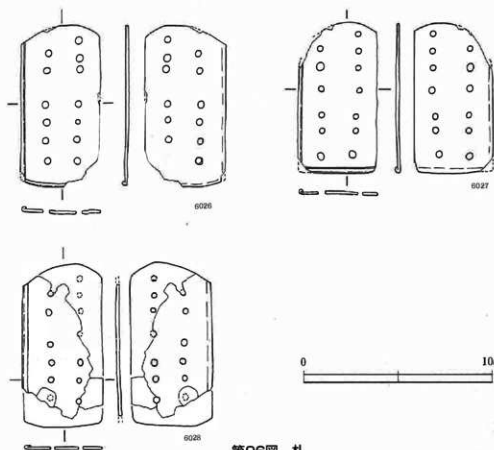
6029、6030は墨書のあるかわらけ片である。6029は手づくねかわらけ片で52S E 8からの出土である。カタカナが記されるが小破片であり文意を読み取れない。墨書は内外面両方にある。6030は手づくねかわらけ片で52S K 11から出土した。内外面にくずし字？の墨書を施している。また実測図は木製品としても掲示したが、墨書資料という観点から5002の実測図も再び掲載している。



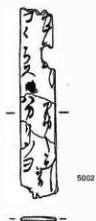
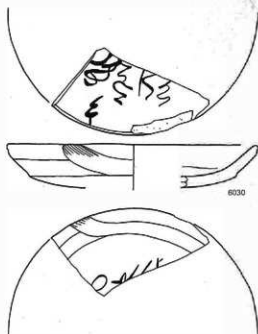
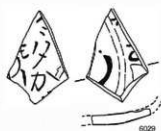
第94図 52SE8出土「穴あき石」



第95圖 石製品・金屬製品他



第96図 札



第97図 墨書資料







| 柱穴番号  | 深さ<br>(cm) | 底面の標高<br>(m) | 建物番号   | 柱穴番号 | 深さ<br>(cm) | 底面の標高<br>(m) | 建物番号   | 柱穴番号 | 深さ<br>(cm) | 底面の標高<br>(m) | 建物番号   |
|-------|------------|--------------|--------|------|------------|--------------|--------|------|------------|--------------|--------|
| P493  | 未掘         |              |        | P558 | 22.7       | 27.45        | 52柱列5  | P624 | 未掘         |              |        |
| P494  | 未掘         |              |        | P559 | 11.1       | 27.56        | 52SB19 | P625 | 未掘         |              |        |
| P495  | 未掘         |              |        | P560 | 14.6       | 27.53        | 52柱列5  | P626 | 未掘         |              |        |
| P496  | 未掘         |              |        | P561 | 5.2        | 27.64        |        | P627 | 未掘         |              |        |
| P497  | 未掘         |              |        | P562 | 40.8       | 27.37        |        | P628 | 未掘         |              |        |
| P498  | 未掘         |              |        | P563 | 未掘         |              |        | P629 | 30.1       | 27.47        |        |
| P499  | 未掘         |              |        | P564 | 未掘         |              |        | P630 | 28.5       | 27.47        |        |
| P500  | 未掘         |              |        | P565 | 未掘         |              |        | P631 | 35.4       | 28.48        |        |
| P501  | 未掘         |              |        | P566 | 未掘         |              |        | P632 | 未掘         |              |        |
| P502  | 未掘         |              |        | P567 | 34.1       | 27.43        | 52SB19 | P633 | 未掘         |              |        |
| P503  | 未掘         |              |        | P568 | 34.7       | 27.77        | 52SB19 | P634 | 39.4       | 27.36        | 52SB18 |
| P504  | 未掘         |              |        | P569 | 未掘         |              |        | P635 | 27.2       | 27.65        | 52SB18 |
| P505  | 未掘         |              |        | P570 | 48.9       | 27.26        | 52SB19 | P636 | 未掘         |              |        |
| P506  | 未掘         |              |        | P571 | 22.1       | 27.54        |        | P637 | 10.8       | 27.80        | 52SB19 |
| P507  | 未掘         |              |        | P572 | 35.1       | 27.40        | 52SB19 | P638 | 未掘         |              |        |
| P508  | 未掘         |              |        | P573 | 未掘         |              |        | P639 | 未掘         |              |        |
| P509a | 未掘         |              |        | P574 | 未掘         |              |        | P640 | 未掘         |              |        |
| P509b | 未掘         |              |        | P575 | 未掘         |              |        | P641 | 未掘         |              |        |
| P510  | 未掘         |              |        | P576 | 未掘         |              |        | P642 | 未掘         |              |        |
| P511  | 未掘         |              |        | P577 | 未掘         |              |        | P643 | 未掘         |              |        |
| P512  | 未掘         |              |        | P578 | 25.5       | 27.14        |        | P644 | 未掘         |              |        |
| P513  | 未掘         |              |        | P579 | 未掘         |              |        | P645 | 未掘         |              |        |
| P514  | 未掘         |              |        | P580 | 未掘         |              |        | P646 | 未掘         |              |        |
| P515  | 未掘         |              |        | P581 | 未掘         |              |        | P647 | 未掘         |              |        |
| P516  | 未掘         |              |        | P582 | 未掘         |              |        | P648 | 未掘         |              |        |
| P517  | 未掘         |              |        | P583 | 未掘         |              | 52SB11 | P649 | 未掘         |              |        |
| P518  | 未掘         |              |        | P584 | 未掘         |              |        | P650 | 未掘         |              |        |
| P519  | 未掘         |              |        | P585 | 68.0       | 26.43        |        | P651 | 未掘         |              |        |
| P520  | 未掘         |              |        | P586 | 15.8       | 26.88        |        | P652 | 未掘         |              |        |
| P521  | 47.6       | 26.28        |        | P587 | 未掘         |              |        | P653 | 未掘         |              |        |
| P522  | 未掘         |              |        | P588 | 20.8       | 26.78        |        | P654 | 未掘         |              |        |
| P523  | 47.4       | 26.63        | 52SB11 | P589 | 未掘         |              |        | P655 | 未掘         |              |        |
| P524  | 21.9       | 26.97        | 52柱列1  | P590 | 未掘         |              |        | P656 | 未掘         |              |        |
| P525  | 45.0       | 26.73        |        | P591 | 未掘         |              |        | P657 | 未掘         |              |        |
| P526  | 34.5       | 26.81        | 52柱列1  | P592 | 未掘         |              |        | P658 | 未掘         |              |        |
| P527  | 未掘         |              | 52柱列1  | P593 | 未掘         |              |        | P659 | 未掘         |              |        |
| P528  | 51.2       | 26.62        | 52SB11 | P594 | 未掘         |              |        | P660 | 未掘         |              |        |
| P529  | 72.9       | 26.44        | 52SB12 | P595 | 未掘         |              |        | P661 | 未掘         |              |        |
| P530  | 未掘         |              |        | P596 | 未掘         |              |        | P662 | 14.7       | 26.84        | 52SB5  |
| P531  | 44.5       | 26.59        | 52SB12 | P597 | 未掘         |              |        | P663 | 6.6        | 26.79        |        |
| P532  | 21.0       | 26.85        | 52SB12 | P598 | 未掘         |              |        | P664 | 9.4        | 26.78        |        |
| P533  | 未掘         |              |        | P599 | ホツ         |              |        | P665 | 28.8       | 26.51        | 52SB7  |
| P534  | 18.8       | 26.85        |        | P600 | 未掘         |              |        | P666 | 25.9       | 26.54        | 52SB7  |
| P535  | 未掘         |              |        | P601 | 未掘         |              |        | P667 | 13.4       | 26.66        | 52SB7  |
| P536  | 未掘         |              |        | P602 | 未掘         |              |        | P668 | 33.8       | 26.47        | 52SB7  |
| P537  | 53.3       | 26.99        | 52SB11 | P603 | 未掘         |              |        | P669 | 20.4       | 26.46        | 52SB9  |
| P538  | 48.8       | 26.51        | 52SB12 | P604 | 未掘         |              |        | P670 | ホツ         |              |        |
| P539  | 未掘         |              |        | P605 | 未掘         |              |        | P671 | 17.9       | 26.59        | 52SB9  |
| P540  | 37.7       | 26.52        | 52SB11 | P606 | 未掘         |              |        | P672 | 17.0       | 26.59        |        |
| P541  | 34.6       | 26.54        | 52SB12 | P607 | 未掘         |              |        | P673 | 未掘         |              |        |
| P542  | 未掘         |              |        | P608 | 未掘         |              |        | P674 | 16.3       | 26.35        |        |
| P543  | 未掘         |              |        | P609 | 未掘         |              |        | P675 | 78.6       | 26.35        | 52SB5  |
| P544  | 未掘         |              |        | P610 | 未掘         |              |        | P676 | 22.6       | 26.89        |        |
| P545  | 未掘         |              |        | P611 | 未掘         |              |        | P677 | 14.7       | 26.95        |        |
| P546  | 未掘         |              |        | P612 | 未掘         |              |        | P678 | 4.5        | 27.07        |        |
| P547  | 未掘         |              |        | P613 | 未掘         |              |        | P679 | 45.5       | 26.66        | 52SB7  |
| P548  | 未掘         |              |        | P614 | 未掘         |              |        | P680 | 18.5       | 26.91        | 52SB7  |
| P549  | 未掘         |              |        | P615 | 未掘         |              |        | P681 | 33.5       | 26.73        | 52SB7  |
| P550  | 未掘         |              |        | P616 | 未掘         |              |        | P682 | 9.1        | 26.99        | 52SB7  |
| P551  | 未掘         |              |        | P617 | 未掘         |              |        | P683 | 13.3       | 26.98        | 52SB5  |
| P552  | 未掘         |              |        | P618 | 未掘         |              |        | P684 | 8.5        | 26.86        | 52SB9  |
| P553  | 未掘         |              | 52SB19 | P619 | 未掘         |              |        | P685 | 4.4        | 26.89        |        |
| P554  | 未掘         |              |        | P620 | 未掘         |              |        | P686 | 16.5       | 26.88        |        |
| P555  | 未掘         |              |        | P621 | 未掘         |              |        | P687 | 7.9        | 26.95        |        |
| P556  | 未掘         |              |        | P622 | 未掘         |              |        | P688 | ホツ         |              |        |
| P557  | 19.4       | 27.57        | 52SB19 | P623 | 未掘         |              |        | P689 | 6.5        | 26.91        | 52SB7  |

表3 柱穴計測表(3)





























| 番号   | 種類   | 器種  | 部位   | 出土位置            | 年代など | 色調  | その他                  | 量(g) | 図面 | 写真 |
|------|------|-----|------|-----------------|------|-----|----------------------|------|----|----|
| 1105 | 須美   | 甕   | 胴～口縁 | 52SD32埋土        | 12C  | 黒褐  | 外面自然釉                | 195  | 55 | 67 |
| 1106 | 須美   | 甕   | 胴～口縁 | 52SD26埋土(60-56) | 12C  | 灰白  | 口縁が「狭」に開く            | 145  | 55 | 67 |
| 1107 | 須美   | 甕   | 胴～口縁 | 52SK2埋土         | 12C  | 灰   | 口縁が「狭」に開く            | 175  | 55 | 67 |
| 1108 | 須美系  | 甕   | 口縁   | 52SK3埋土         | 12C  | 灰   | 内面肩部にも成状の文様がある       | 110  | 56 | 67 |
| 1109 | 須美系  | 甕   | 胴部   | 52SD6埋土(65-60)  | 12C  | 褐灰  | 1108, 1110～1123と同一個体 | 80   | 56 | 67 |
| 1110 | 須美系  | 甕   | 胴部   | 52SD6埋土(64-63)  | 12C  | 灰   | 52SE3埋土からも出土         | 145  | 56 | 67 |
| 1111 | 須美系  | 甕   | 胴部   | 52SD26埋土        | 12C  | 灰   |                      | 32   | 56 | 67 |
| 1112 | 須美系  | 甕   | 体部   | 52SD32埋土        | 12C  | 灰   |                      | 23   | 56 | 67 |
| 1113 | 須美系  | 甕   | 体部   | 52SE3埋土         | 12C  | 灰   | 41次調査出土と併せ、跡は復元した状態  | 320  | 56 | 68 |
| 1114 | 須美系  | 甕   | 体部   | 63-58検出時        | 12C  | 灰   | 内面に7ヶ所具痕がある          | 111  | 56 | 67 |
| 1115 | 須美系  | 甕   | 体部   | 52SE9上層         | 12C  | 褐灰  | 内面に7ヶ所具痕がある          | 95   | 56 | 68 |
| 1116 | 須美系  | 甕   | 体部   | 52SD6埋土(64-61)  | 12C  | 褐灰  | 内面に7ヶ所具痕がある          | 150  | 56 | 68 |
| 1117 | 須美系  | 甕   | 体部   | 52SE3埋土         | 12C  | 褐灰  | 内面に7ヶ所具痕がある          | 210  | 57 | 68 |
| 1118 | 須美系  | 甕   | 体部   | 71-61検出時        | 12C  | 黄灰  |                      | 63   | 57 | 68 |
| 1119 | 須美系  | 甕   | 体部   | 52SK3埋土         | 12C  | 灰   |                      | 70   | 57 | 68 |
| 1120 | 須美系  | 甕   | 体部   | 52SD6埋土(64-63)  | 12C  | 灰   |                      | 50   | 57 | 68 |
| 1121 | 須美系  | 甕   | 体部   | 52SK3埋土P83埋土    | 12C  | 褐灰  |                      | 210  | 57 | 68 |
| 1122 | 須美系  | 甕   | 体部   | 52SD6埋土(64-63)  | 12C  | 灰   |                      | 126  | 57 | 68 |
| 1123 | 須美系  | 甕   | 体部   | 52SD6埋土(64-63)  | 12C  | 灰   |                      | 123  | 57 | 68 |
| 1124 | 須美系  | 片口鉢 | 底～体  | 52SD26埋土(59-58) | 12C  | 灰白  | 底部回転糸切痕              | 123  | 58 | 69 |
| 1125 | 須美系  | 四耳壺 | 体部   | 67-55検出時        | 12C  | 灰   | 液状文四耳壺と考えられる         | 28   | 58 | 69 |
| 1126 | 須美系  | 甕   | 口縁   | 72-60現代池埋土      | 12C  | 褐灰  |                      | 92   | 58 | 69 |
| 1127 | 須美系  | 甕   | 口縁部  | 52SK6埋土         | 12C  | 褐灰  |                      | 115  | 58 | 69 |
| 1128 | 須美系  | 甕   | 口縁部  | 52SD6埋土(64-63)  | 12C  | 灰白  | 胎土に砂粒多く混入            | 85   | 58 | 69 |
| 1129 | 須美系  | 甕   | 口縁部  | 52SE3埋土         | 12C  | 灰   |                      | 55   | 58 | 69 |
| 1130 | 須美系  | 甕   | 口縁部  | 52SD26埋土(64-54) | 12C  | 灰   |                      | 45   | 58 | 69 |
| 1131 | 須美系  | 甕   | 口縁部  | 52次調査区表採        | 12C  | 灰   |                      | 140  | 58 | 69 |
| 1132 | 須美系  | 甕   | 口縁部  | 72-57検出時        | 12C  | 赤～灰 | 外面胎付着                | 85   | 58 | 69 |
| 1133 | 須美系  | 甕   | 底部   | 52SD6埋土(64-61)  | 12C  | 褐灰  | 底面に瓶?の圧痕             | 122  | 58 | 69 |
| 1134 | 須美系? | 甕   | 体部   | 52SE8表層         | 不明   | 灰   | 9～10C頃の須美器の可能性あり     | 80   | 58 | 69 |
| 1135 | 須美系? | 甕   | 体部   | 52SD26埋土        | 不明   | 灰   | 9～10C頃の須美器の可能性あり     | 30   | 58 | 69 |
| 1136 | 須美系? | 甕   | 体部   | 52SD26埋土(62-54) | 不明   | 浅黄橙 | 1137と同一個体            | 22   | 58 | 69 |
| 1137 | 須美系? | 甕   | 体部   | 52SD26埋土(60-55) | 不明   | 浅黄橙 | 9～10C頃の須美器の可能性あり     | 22   | 58 | 69 |
| 1138 | 須美系? | 甕   | 口縁部  | 59-56検出時        | 不明   | 暗青灰 | 胎土赤褐色を呈する            | 40   | 58 | 69 |
| 1139 | 須美系? | 甕   | 体部   | 52E7 2層         | 不明   | 灰   | 1138と同一個体か           | 20   | 58 | 69 |
| 1140 | 水沼   | 壺   | 底～体  | 64-59検出時        | 12C  | 黒   | 胎土赤褐色を呈する            | 200  | 58 | 69 |
| 1141 | 水沼   | 壺   | 体部   | 52次調査区表採        | 12C  | 黒   | 外面に壺体付着              | 78   | 58 | 69 |
| 1142 | 水沼   | 壺   | 体部   | 52SD26埋土(59-57) | 12C  | 黒   | 胎土赤褐色                | 18   | 58 | 69 |

表18 国産陶器観察表(3)

| 番号   | 種類  | 器種 | 部位    | 出土位置            | 土層区分 | 土層期の年代      | その他                   | 量(g) | 図面 | 写真 |
|------|-----|----|-------|-----------------|------|-------------|-----------------------|------|----|----|
| 2001 | 白磁  | 碗  | 体部    | 52SD26埋土(59-56) | VかⅥ  | 12C         | 化粧土あり                 | 5    | 59 | 70 |
| 2002 | 白磁  | 碗  | 体部    | 52SD26埋土        | Ⅱ    | 11C前半～12C前半 | 化粧土あり                 | 2    | 59 | 70 |
| 2003 | 白磁  | 碗  | 底～体   | 52SD6埋土(64-61)  | Ⅳ    | 12C         | 全体に摩耗している             | 15   | 59 | 70 |
| 2004 | 白磁  | 碗  | 体部    | 62-60検出時        | VかⅥ  | 12C         | 下部釉かからず               | 15   | 59 | 70 |
| 2005 | 青白磁 | 皿? | 体部    | P83埋土           | 青白磁  | 12C         | 薄手のつり                 | 2    | 59 | 70 |
| 2006 | 白磁  | 碗  | 体部    | 52SD6埋土(64-63)  | V 4  | 12C         | 内面に磨きあり               | 16   | 59 | 70 |
| 2007 | 白磁  | 碗  | 体部    | 63-59からん        | V 4  | 12C         | 内面に磨きあり               | 1    | 59 | 70 |
| 2008 | 白磁  | 碗  | 体部    | 68-55検出時        | 青白磁  | 12C         | 二次被熱している 内面磨き         | 3    | 59 | 70 |
| 2009 | 白磁  | 碗  | 口縁部   | 52次調査区表採        | V 1  | 12C         | 内外面に磨き多くつく            | 8    | 59 | 70 |
| 2010 | 白磁  | 皿  | 体部    | 76-61検出時        | ⅡかⅢ  | 12C         | 内面に沈線あり               | 3    | 59 | 70 |
| 2011 | 白磁  | 壺  | 口縁    | 52SD6埋土(64-60)  | Ⅱ系   | 11C後半～12C前半 | 化粧土あり 2012～2018同一個体か  | 7    | 59 | 70 |
| 2012 | 白磁  | 壺  | 胴部    | 52SD6埋土(64-61)  | Ⅱ系   | 11C後半～12C前半 | 2012～2018同一個体か        | 20   | 59 | 70 |
| 2013 | 白磁  | 壺  | 胴部    | 69-58検出時        | Ⅱ系   | 11C後半～12C前半 | 肩部の破片                 | 3    | 59 | 70 |
| 2014 | 白磁  | 壺  | 体部、耳部 | 52SE3埋土         | Ⅱ系   | 11C後半～12C前半 | 耳の付け根の破片              | 3    | 59 | 70 |
| 2015 | 白磁  | 壺  | 体部    | 52SD6埋土(64-62)  | Ⅱ系   | 11C後半～12C前半 | 外面に沈線あり 内面上部に釉        | 15   | 59 | 70 |
| 2016 | 白磁  | 壺  | 体部    | 52SD6埋土(64-61)  | Ⅱ系   | 11C後半～12C前半 | 内面に釉一糸                | 15   | 59 | 70 |
| 2017 | 白磁  | 壺  | 体部    | 52SD26埋土(59-59) | Ⅱ系   | 11C後半～12C前半 | 下部の破片                 | 10   | 59 | 70 |
| 2018 | 白磁  | 壺  | 底部    | 74-59検出時        | Ⅱ系   | 11C後半～12C前半 | 外面無釉                  | 65   | 59 | 70 |
| 2019 | 白磁  | 壺  | 胴部    | 52SD26埋土(63-54) | Ⅱ系   | 11C後半～12C前半 | 化粧土あり                 | 3    | 59 | 70 |
| 2020 | 白磁  | 壺  | 体上、耳  | 52SE8 6層        | Ⅱ系   | 11C後半～12C前半 | 二次被熱している              | 35   | 59 | 70 |
| 2021 | 白磁  | 壺  | 体上、耳  | 52次調査区表採        | Ⅱ系   | 11C後半～12C前半 | 二次被熱している              | 15   | 59 | 70 |
| 2022 | 白磁  | 壺  | 体上、耳  | 52SD26埋土(60-55) | Ⅱ系   | 11C後半～12C前半 | 2021, 2023～2027と同一個体か | 15   | 59 | 70 |

表19 中国産陶磁器観察表(1)





| 番号   | 種類   | 部種 | 部位  | 出土位置            | 太平寺分庫 | 太宰府の年代観 | その他                 | 長さ(mm) | 内径 | 写真欄 |
|------|------|----|-----|-----------------|-------|---------|---------------------|--------|----|-----|
| 2088 | 中国陶器 | 壺  | 体部  | 52SD26埋土(59-56) | —     | 12C     | 深緑色の釉 内面無釉          | 15     | 62 | 72  |
| 2089 | 中国陶器 | 壺  | 体部  | 52SK5埋土         | —     | 12C     | 茶褐色の釉 内面無釉          | 43     | 62 | 72  |
| 2090 | 中国陶器 | 壺  | 体部  | 52SE8 7層        | —     | 12C     | 無釉 外面灰色             | 5      | 62 | 72  |
| 2091 | 中国陶器 | 壺  | 体部  | 52SD6埋土         | —     | 12C     | 深緑色の釉 内面無釉          | 17     | 62 | 73  |
| 2092 | 中国陶器 | 壺  | 体部  | 52SD32埋土        | —     | 12C     | 無釉? 外面茶褐色           | 160    | 62 | 73  |
| 2093 | 中国陶器 | 壺  | 体部  | 52SD26埋土        | —     | 12C     | 無釉 外面灰色に茶色の斑点       | 70     | 62 | 73  |
| 2094 | 中国陶器 | 壺  | 体部  | 65-55検出時        | —     | 12C     | 黄緑色の釉 内面無釉          | 65     | 62 | 73  |
| 2095 | 中国陶器 | 壺  | 体部  | 52SD6埋土(64-62)  | —     | 12C     | 黄緑色の釉 内面無釉          | 55     | 62 | 73  |
| 2096 | 中国陶器 | 壺  | 体部  | 52SD26埋土(64-60) | —     | 12C     | 褐色の釉 内面無釉           | 62     | 62 | 73  |
| 2097 | 中国陶器 | 壺  | 体部  | 52SD26埋土(63-54) | —     | 12C     | 外面上半茶褐色の釉           | 80     | 62 | 73  |
| 2098 | 中国陶器 | 壺  | 体部  | 52SD32埋土        | —     | 12C     | 外面上半黄緑色の釉 内面無釉      | 15     | 62 | 73  |
| 2099 | 中国陶器 | 壺  | 体部  | 52SK4埋土         | —     | 12C     | 黄緑色の釉 釉はほとんど剥落      | 45     | 62 | 73  |
| 2100 | 中国陶器 | 壺  | 体部  | 52SE1 12層下      | —     | 12C     | 茶色の釉 内外面炭化物附着       | 95     | 62 | 73  |
| 2101 | 中国陶器 | 壺  | 底～体 | 52SD32埋土        | —     | 12C     | 67-59検出時からも出土 褐色の釉  | 55     | 62 | 73  |
| 2102 | 中国陶器 | 壺  | 体部  | 52SE3埋土(66-59)  | —     | 12C     | 黄緑色の釉 釉はほとんど剥落      | 35     | 62 | 73  |
| 2103 | 中国陶器 | 壺  | 体部  | P144埋土          | —     | 12C     | 茶色の釉 内面無釉           | 16     | 62 | 73  |
| 2104 | 中国陶器 | 壺  | 体部  | 52SD17埋土        | —     | 12C     | 乾粘 外面無釉 二次被熱している    | 15     | 62 | 73  |
| 2105 | 中国陶器 | 壺  | 体部  | 65-60検出時        | —     | 12C     | 乾粘 外面無釉 内面白色の釉 二次被熱 | 15     | 62 | 73  |

表21 中国産陶磁器観察表 (3)

| 番号   | 器種  | 出土位置            | 色調   | その他                    | 長さ(mm) | 内径 | 写真欄 |
|------|-----|-----------------|------|------------------------|--------|----|-----|
| 3001 | 軒丸瓦 | 52SD6埋土(64-61)  | 青灰   | 三巴文 三巴の回りに二重の圏線        | 275    | 63 | 74  |
| 3002 | 軒丸瓦 | 52SE8 6層        | 灰白   | 連珠刺頭三巴文(陽刺頭文)          | 2      | 63 | 74  |
| 3003 | 軒丸瓦 | 52SD6埋土         | 灰白   | 三巴文                    | 11     | 63 | 74  |
| 3004 | 軒平瓦 | 52SD6埋土(64-60)  | 灰白   | 唐草文軒平瓦                 | 19     | 63 | 74  |
| 3005 | 丸瓦  | 52SD10埋土        | 灰    | 砂粒が多く軟質な粘土             | 696    | 63 | 74  |
| 3006 | 丸瓦  | 52SK10埋土        | 灰    | 砂粒が多く軟質な粘土 やや薄手        | 72     | 63 | 74  |
| 3007 | 丸瓦  | 52K10埋土         | 灰白   | 砂粒が多く軟質な粘土             | 45     | 63 | 74  |
| 3008 | 丸瓦  | P928埋土          | 淡黄   | 砂粒が多く軟質な粘土             | 175    | 63 | 74  |
| 3009 | 丸瓦  | 52SD26埋土        | 灰    | 砂粒が多く軟質な粘土 上面磨耗        | 155    | 63 | 74  |
| 3010 | 丸瓦  | 52SD26埋土(64-60) | 淡黄   | 上面をナゲている               | 150    | 63 | 74  |
| 3011 | 丸瓦  | 52SE1 2層        | 灰    | 砂粒が多く軟質な粘土 上面をナゲている    | 545    | 64 | 74  |
| 3012 | 丸瓦  | 52SE1 2層        | 灰    | 上面をナゲている               | 120    | 64 | 74  |
| 3013 | 丸瓦  | 52SE8 表層        | 淡黄   | 上面をナゲている               | 155    | 64 | 74  |
| 3014 | 丸瓦  | 57-60 検出時       | 明青灰  | 砂粒が少なく硬質な粘土            | 185    | 64 | 75  |
| 3015 | 丸瓦  | 52SE1 2層        | 灰    | 砂粒が少なく硬質な粘土            | 85     | 64 | 75  |
| 3016 | 丸瓦  | 64-62 検出時       | 灰    | 砂粒が少なく硬質な粘土            | 55     | 64 | 75  |
| 3017 | 丸瓦  | 72-60 現代池埋土     | 青灰   | 砂粒が少なく硬質な粘土            | 204    | 64 | 75  |
| 3018 | 丸瓦  | 52SE8 上層        | 青灰   | 砂粒が少なく硬質な粘土            | 376    | 65 | 75  |
| 3019 | 丸瓦  | 72-60 現代池埋土     | 青灰   | 砂粒が少なく硬質な粘土            | 130    | 65 | 75  |
| 3020 | 丸瓦  | 52SD6埋土(64-63)  | 灰白   | 砂粒が少なく硬質な粘土            | 110    | 65 | 75  |
| 3021 | 丸瓦  | 52SE1 表層        | 明青灰  | 砂粒が少なく硬質な粘土            | 70     | 65 | 75  |
| 3022 | 丸瓦  | 52SE3埋土         | 暗青灰  | 砂粒が少なく硬質な粘土            | 110    | 65 | 75  |
| 3023 | 丸瓦  | 52SK26埋土        | 灰黄   | 硬質な粘土 外面に砂粒附着          | 160    | 65 | 75  |
| 3024 | 丸瓦  | 52SE3埋土         | 淡黄   | 砂粒が少なく硬質な粘土 外面をナゲている   | 250    | 65 | 75  |
| 3025 | 丸瓦  | 52SD22埋土        | 灰白   | 内外面磨耗                  | 80     | 65 | 75  |
| 3026 | 丸瓦  | 52SK6埋土         | 灰白   | 砂粒が少なく硬質な粘土            | 70     | 65 | 75  |
| 3027 | 平瓦  | 52SE1 2層        | 青灰   | 砂粒が多く軟質な粘土 上面に斜位のナデ    | 580    | 66 | 76  |
| 3028 | 平瓦  | 52SE1 2層        | 灰白   | 砂粒が多く軟質な粘土 上面、下面に斜位のナデ | 232    | 66 | 76  |
| 3029 | 平瓦  | 52SE1 2層        | 淡黄   | 砂粒が多く軟質な粘土 上面、下面にナデ    | 218    | 66 | 76  |
| 3030 | 平瓦  | 52SE1 2層        | 灰    | 砂粒が多く軟質な粘土 上面にナデ       | 580    | 66 | 76  |
| 3031 | 平瓦  | 52SE1 2層        | 黄灰   | 砂粒が多く軟質な粘土 上面にナデ       | 282    | 66 | 76  |
| 3032 | 平瓦  | 52SE1 表層        | 淡黄橙  | 砂粒が多く軟質な粘土 全体に磨耗している   | 189    | 66 | 76  |
| 3033 | 平瓦  | 52SE1 2層        | 灰白   | 砂粒が多く軟質な粘土 上面にナデ       | 112    | 67 | 76  |
| 3034 | 平瓦  | 52SE1 2層        | 灰白   | 砂粒が多く軟質な粘土 上面に斜位のナデ    | 420    | 67 | 76  |
| 3035 | 平瓦  | 52SE1 2層        | にぶい黄 | 砂粒が多く軟質な粘土 上面にナデ       | 405    | 67 | 76  |
| 3036 | 平瓦  | 52SK11埋土 上層     | 暗青灰  | 砂粒が多く軟質な粘土 やや薄手        | 125    | 67 | 77  |
| 3037 | 平瓦  | 52SK11埋土        | 明黄褐  | 砂粒が多く軟質な粘土 上面に斜位のナデ    | 265    | 67 | 77  |
| 3038 | 平瓦  | 52SD10埋土        | 青灰   | 砂粒が多く軟質な粘土 上面に斜位のナデ 薄手 | 273    | 67 | 77  |
| 3039 | 平瓦  | 70-60 検出        | 明黄褐  | 砂粒が多く軟質な粘土 全体に磨耗       | 195    | 68 | 77  |
| 3040 | 平瓦  | 52SK2 埋層        | 灰白   | 砂粒が多く軟質な粘土 上面に斜位のナデ    | 256    | 68 | 77  |
| 3041 | 平瓦  | P259 底面         | 青灰   | 砂粒が多く軟質な粘土 上面に斜位のナデ    | 530    | 68 | 77  |
| 3042 | 平瓦  | 52SK5埋土         | 青灰   | 砂粒が多く軟質な粘土 やや薄手        | 209    | 68 | 77  |
| 3043 | 平瓦  | 52SD12埋土        | にぶい褐 | 砂粒が多く軟質な粘土 全体に磨耗       | 283    | 68 | 77  |

表22 瓦観察表 (1)

| 番号   | 器種  | 出土位置            | 色調     | その他                     | 長さ(㎝) | 直径 | 写真掲載 |
|------|-----|-----------------|--------|-------------------------|-------|----|------|
|      |     |                 |        |                         |       |    |      |
| 3044 | 平瓦  | 52SK2 礫層        | 灰青     | 砂粒が多く軟質な粘土 全体に磨耗        | 160   | 68 | 77   |
| 3045 | 平瓦  | 52SE1 2層        | 暗青灰    | 硬質な粘土 上面、下面に砂粒付着        | 345   | 69 | 78   |
| 3046 | 平瓦  | 52SE1 2層        | 暗青灰    | 硬質な粘土 上面、下面に砂粒付着        | 190   | 69 | 78   |
| 3047 | 平瓦  | 52SE1 2層        | 暗青灰    | 硬質な粘土 上面、下面に砂粒付着        | 140   | 69 | 78   |
| 3048 | 平瓦  | 52SE1 2層        | 青黒     | 硬質な粘土 全体に摩滅             | 97    | 69 | 78   |
| 3049 | 平瓦  | 52SK2 礫層        | 緑灰     | 硬質な粘土 上面、下面に砂粒付着        | 243   | 69 | 78   |
| 3050 | 平瓦  | 72-60 現代埋土      | 暗青灰    | 上面、下面に砂粒付着 やや硬質の粘土      | 147   | 69 | 78   |
| 3051 | 平瓦  | 72-60 現代埋土      | 暗青灰    | 硬質な粘土 上面、下面に砂粒付着        | 300   | 69 | 78   |
| 3052 | 平瓦  | 52SD26埋土(63-59) | 青灰     | 硬質な粘土                   | 130   | 69 | 78   |
| 3053 | 平瓦  | P827埋土          | 灰      | 硬質な粘土 下面に砂粒付着           | 285   | 70 | 78   |
| 3054 | 平瓦  | 52SD26埋土        | にぶい黄褐色 | 硬質な粘土 上面、下面に砂粒付着        | 265   | 70 | 78   |
| 3055 | 平瓦  | 52SE9埋土         | 暗灰     | 軟質な粘土 下面に砂粒付着           | 190   | 70 | 79   |
| 3056 | 平瓦  | 63-59 検出時       | 明褐灰    | 硬質な粘土                   | 70    | 70 | 79   |
| 3057 | 平瓦  | 52SK4埋土         | 灰白     | 砂質が多く硬質な粘土              | 275   | 70 | 79   |
| 3058 | 平瓦  | 52SK2 礫層        | 青灰     | 硬質な粘土                   | 335   | 70 | 79   |
| 3059 | 平瓦  | 52SE9埋土         | 灰      | 軟質な粘土                   | 140   | 70 | 79   |
| 3060 | 平瓦  | 52SE8 9層        | 暗青灰    | やや軟質な粘土                 | 105   | 70 | 79   |
| 3061 | 平瓦  | 52SD6埋土         | 黒褐     | 軟質な粘土                   | 145   | 71 | 79   |
| 3062 | 平瓦  | 52SD26埋土        | 緑灰     | 硬質な粘土                   | 50    | 71 | 79   |
| 3063 | 平瓦  | 64-63 かくらん      | 黒      | 軟質な粘土 上面、下面に砂粒付着        | 295   | 71 | 79   |
| 3064 | 平瓦? | 52SK11埋土        | 明緑灰    | 硬質な粘土 反りがほとんどなく平瓦かどうか不明 | 148   | 71 | 79   |
| 3065 | 平瓦? | 52SK12埋土        | 灰白     | 3064と同じ個体か              | 100   | 71 | 79   |

表23 瓦観察表(2)

| 番号   | 器種  | 出土位置           | 法量 (cm) |     |       | 粘土     | 胎面・絵付    | 製作地       | 製作年代       | その他             | 図録            | 写真掲載 |    |
|------|-----|----------------|---------|-----|-------|--------|----------|-----------|------------|-----------------|---------------|------|----|
|      |     |                | 口径      | 底径  | 高さ    |        |          |           |            |                 |               |      |    |
| 4001 | 片口鉢 | 52SD6埋土(64-60) | —       | —   | (4.1) | 赤褐色    | 無釉       | 在地産?      | 13C後-14C前? | 中国陶器か           | 72            | 80   |    |
| 4002 | 皿   | P258埋土(52SB1)  | 11.8    | 5.7 | 3.0   | 淡黄色    | 透明釉      | 瀬戸・美濃     | 17C前半?     | 見込みを重ね焼の痕跡      | 72            | 80   |    |
| 4003 | 碗   | P278柱状(52SB1)  | —       | —   | (4.7) | 赤褐色    | 不透明の褐色釉  | 肥前(唐津)    | 16末-17C初   | 4004と同じ個体       | 72            | 80   |    |
| 4004 | 碗   | P947埋土(52SB1)  | —       | —   | (3.1) | 赤褐色    | 不透明の褐色釉  | 肥前(唐津)    | 16末-17C初   | 4003と同じ個体       | 72            | 80   |    |
| 4005 | 碗   | 66-61検出時       | —       | —   | 5.5   | (2)    | 淡黄色      | 褐釉        | 瀬戸・美濃      | 17C前半?          | 高台露胎          | 72   | 80 |
| 4006 | 碗   | P338埋土(52SB15) | —       | —   | (2.9) | にぶい黄褐色 | 薬釉       | 肥前(唐津)    | 16末-17C初   | 内面鉄釉            | 72            | 80   |    |
| 4007 | 碗   | P919埋土(52SB3)  | —       | —   | (3.2) | 灰白色    | 鉄釉       | 瀬戸・美濃     | 17C前半?     |                 | 72            | 80   |    |
| 4008 | 皿   | 52SK26埋土       | —       | —   | 5.7   | (1.9)  | 暗灰色      | 灰色の欠けた色の釉 | 肥前(唐津)     | 17C初            | 見込みに砂目        | 72   | 80 |
| 4009 | 皿   | 74-59検出時       | —       | —   | 6.4   | (1.1)  | 淡黄色      | 辰石釉       | 瀬戸・美濃      | 16末-17C初        | 志野青皿          | 72   | 80 |
| 4010 | 皿   | 59-59検出時       | —       | —   | (1.8) | 灰色     | 透明釉      | 瀬戸・美濃     | 17C初?      | 輪花の皿 湖緑釉を施す     | 72            | 80   |    |
| 4011 | 皿   | P990埋土(52SB3)  | —       | —   | (1.5) | 灰色     | 透明釉      | 瀬戸・美濃     | 17C初?      | 輪花の皿            | 72            | 80   |    |
| 4012 | 碗   | 52SK3埋土        | —       | —   | 5.3   | (2.9)  | 淡黄色      | 鉄釉        | 瀬戸・美濃      | 18C             | 尾呂茶碗?         | 72   | 80 |
| 4013 | 碗   | 52SK3埋土        | —       | —   | 5.1   | (2.6)  | 灰色       | 褐釉        | 瀬戸・美濃      | 18C             | 尾呂茶碗?         | 72   | 80 |
| 4014 | 碗   | 52SD6埋土(64-60) | —       | —   | 5.3   | (2.2)  | 淡黄色      | 鉄釉        | 瀬戸・美濃      | 18C             | 尾呂茶碗?         | 72   | 80 |
| 4015 | 碗   | 52SK3埋土        | —       | —   | (3.4) | 灰白色    | 透明釉      | 肥前        | 18C前半      | 呉器手碗            | 72            | 80   |    |
| 4016 | 碗   | 65-60検出時       | —       | —   | 4.5   | (2.4)  | 淡黄色      | 透明釉       | 肥前         | 18C前半           | 呉器手碗          | 72   | 80 |
| 4017 | 鉢   | 52SE6埋土        | —       | —   | (2.5) | 暗赤灰色   | 白化粧(新毛目) | 肥前        | 18C        | 白化粧の上に透明釉       | 72            | 80   |    |
| 4018 | 碗   | 52SK2礫層        | —       | —   | 4.9   | (4.2)  | 淡黄色      | 鉄釉        | 大層相馬       | 19C前半           | 鉄釉鉢残が多い       | 72   | 80 |
| 4019 | 碗   | 52SK3埋土        | (1)     | —   | (3.9) | 淡黄色    | 銅緑釉      | 大層相馬?     | 19C前半?     | 産地不明            | 72            | 80   |    |
| 4020 | 土瓶  | 52SD1埋土        | —       | —   | (1.5) | 灰白色    | 銅緑釉      | 大層相馬      | 19C        | 土瓶の体部破片         | 72            | 80   |    |
| 4021 | 播鉢  | 52SK3埋土        | —       | —   | (4.4) | 青-黒緑色  | 鉄釉       | 瀬戸        | 18C        | おろし目部分は欠損       | 72            | 80   |    |
| 4022 | 播鉢  | 52SK2埋土        | —       | —   | 9.9   | (9.0)  | 淡褐色      | 鉄釉        | 瀬戸         | 18C             | 内底面磨耗         | 72   | 80 |
| 4023 | 播鉢  | 72-66埋土        | —       | —   | 12.1  | (5.8)  | 暗灰色      | 無釉        | 在地か        | 18Cか            | 煮じりめ陶器 底辺部に磨滅 | 72   | 80 |
| 4024 | 播鉢  | 52SK3埋土(66-59) | —       | —   | (2.1) | 赤灰色    | 無釉       | 在地か       | 18Cか       | 煮じりめ陶器          | 72            | 81   |    |
| 4025 | 鉢?  | 52SK2埋土        | —       | —   | (6.5) | 橙-灰色   | 鉄釉?      | 瀬戸か?      | 18Cか?      | 瀬戸産の可能性あるが不明    | 72            | 81   |    |
| 4026 | 甕   | 52SK26埋土       | 9.1     | 5.4 | 8.6   | (1)    | にぶい黄褐色   | 鉄釉、空白色の釉  | 在地         | 19C-20C         | 鉄釉に空白色の釉流しかけ  | 72   | 81 |
| 4027 | 甕   | 52SK26埋土       | —       | —   | 5.7   | (9.9)  | 白色       | 染付        | 中国(明)      | 16Cか            | 中国産と思われる      | 73   | 81 |
| 4028 | 碗   | P278柱状(52SB1)  | —       | —   | (2.9) | 灰白色    | 白磁?      | 肥前        | 17C前半      | 4029と同じ個体か      | 73            | 81   |    |
| 4029 | 碗   | P537埋土(52SB11) | —       | —   | 5.2   | (2.6)  | 灰白色      | 白磁?       | 肥前         | 17C前半           | 高台内乳施釉        | 73   | 81 |
| 4030 | 皿   | P704埋土         | 13.1    | 4.6 | 3.2   | (1)    | 黒、黒褐色    | 染付        | 肥前         | 17C前半           | 41次調査出土片と撮合   | 73   | 81 |
| 4031 | 皿   | 72-60現代埋土      | —       | —   | 4.8   | (1.7)  | 白色       | 染付        | 肥前         | 17C前半           | 4030と同じ絵柄     | 73   | 81 |
| 4032 | 皿   | 52SK3埋土        | —       | —   | 3.6   | (1.2)  | 白色       | 染付        | 肥前         | 17C前半           | 曇りに砂付着        | 73   | 81 |
| 4033 | 皿   | 71-64検出時       | —       | —   | (2.3) | 白色     | 染付       | 肥前        | 17C前半      | 底辺部に砂粒付着        | 73            | 81   |    |
| 4034 | 皿   | 69-56検出時       | —       | —   | 4.5   | (1.6)  | 白色       | 染付        | 肥前         | 17C前半           | 76-61検出時から6出土 | 73   | 81 |
| 4035 | 皿   | 52SD9埋土        | —       | —   | 5.5   | (1.7)  | 白色       | 染付        | 肥前         | 17C後半か          | 高台様かやや大きい     | 73   | 81 |
| 4036 | 皿   | 52SD6埋土(64-60) | —       | —   | (1.1) | 白色     | 染付       | 肥前        | 17C前半      | 少数のため産地を絞りきれない  | 73            | 81   |    |
| 4037 | 皿   | P260柱状(52SB1)  | —       | —   | (2.1) | 白色     | 染付       | 肥前        | 17C前半      | 41次調査で同じ文様のもの出土 | 73            | 81   |    |
| 4038 | 皿   | 52次調査区表鉢       | —       | —   | (1.8) | 白色     | 染付       | 肥前        | 17C前半      |                 | 73            | 81   |    |

表24 近世陶磁器観察表(1)





| 番号   | 器種   | 出土位置           | 法量 (cm) |      |     | 備考        | 図録     | 写真 |
|------|------|----------------|---------|------|-----|-----------|--------|----|
|      |      |                | 最大径     | 最大幅  | 厚さ  |           |        |    |
| 5222 | ちゅう木 | 52SK11 5層      | 18.6    | 1.0  | 0.4 |           | 92/107 |    |
| 5223 | ちゅう木 | 52SK11 5層      | 17.5    | 1.7  | 0.4 |           | 92/107 |    |
| 5224 | ちゅう木 | 52SK11 5層      | 18.6    | 1.6  | 0.4 |           | 92/107 |    |
| 5225 | ちゅう木 | 52SK11 5層      | 18.3    | 1.5  | 0.7 |           | 92/107 |    |
| 5226 | ちゅう木 | 52SK11 5層      | 19.5    | 0.5  | 0.5 |           | 92/107 |    |
| 5227 | ちゅう木 | 52SK11 5層      | 24.0    | 0.5  | 0.5 |           | 92 -   |    |
| 5228 | ちゅう木 | 52SK11 5層      | 13.5    | 2.5  | 0.2 |           | 92/107 |    |
| 5229 | ちゅう木 | 52SK11 5層      | 15.7    | 0.9  | 0.5 |           | 92/107 |    |
| 5230 | ちゅう木 | 52SK11 5層      | 10.5    | 0.9  | 0.8 |           | 92/107 |    |
| 5231 | ちゅう木 | 52SK11 5層      | 4.2     | 0.6  | 0.4 |           | 92/107 |    |
| 5232 | ちゅう木 | 52SK11 5層      | 15.4    | 1.1  | 0.4 | 漆塗り       | 92/107 |    |
| 5233 | ちゅう木 | 52SK11 5層      | 13.9    | 1.5  | 0.3 | 漆塗り       | 92/107 |    |
| 5234 | ちゅう木 | 52SK11 5層      | 14.5    | 1.2  | 0.3 | 漆塗り サワラ   | 92/107 |    |
| 5235 | ちゅう木 | 52SK11 5層      | 15.4    | 1.1  | 0.5 | 漆塗り       | 92/107 |    |
| 5236 | ものじり | 52SK11 5層      | 14.3    | 2.4  | 5.0 | ニ片 接合、漆塗り | 92/107 |    |
| 5237 | ちゅう木 | 52SK24 6層      | 15.4    | 1.0  | 0.5 |           | 93/107 |    |
| 5238 | ちゅう木 | 52SK24 6層      | 17.0    | 1.1  | 0.3 |           | 93/107 |    |
| 5239 | ちゅう木 | 52SK24 6層      | 16.2    | 1.1  | 0.5 | アスナロ      | 93/107 |    |
| 5240 | ちゅう木 | 52SK24 7層      | 16.0    | 0.8  | 0.7 | スギ        | 93/107 |    |
| 5241 | ちゅう木 | 52SK24 7層      | 18.4    | 1.0  | 0.7 |           | 93/108 |    |
| 5242 | ちゅう木 | 52SK24 7層      | 15.3    | 0.9  | 0.4 | スギ        | 93/108 |    |
| 5243 | ちゅう木 | 52SK24 7層      | 14.6    | 1.4  | 0.4 |           | 93/108 |    |
| 5244 | ちゅう木 | 52SK24 8層      | 15.9    | 1.6  | 0.4 |           | 93/108 |    |
| 5245 | ちゅう木 | 52SK24 7層      | 23.0    | 0.9  | 0.5 |           | 93/108 |    |
| 5246 | ちゅう木 | 52SK24 8層      | 22.6    | 0.9  | 0.8 |           | 93/108 |    |
| 5247 | ちゅう木 | 52SK24 6層      | 16.0    | 1.3  | 0.4 |           | 93/108 |    |
| 5248 | ちゅう木 | 52SK24 6層      | 31.0    | 2.0  | 0.3 |           | 93/108 |    |
| 5249 | ちゅう木 | 52SK24 8層      | 25.0    | 2.5  | 0.2 |           | 93/108 |    |
| 5250 | ちゅう木 | 52SK24 8層      | 17.0    | 2.0  | 0.3 |           | 93/108 |    |
| 5251 | ちゅう木 | 52SK24 6層      | 15.0    | 2.5  | 0.2 |           | 93/108 |    |
| 5252 | ちゅう木 | 52SK24 6層      | 10.0    | 3.5  | 0.5 |           | 93/108 |    |
| 5253 | ちゅう木 | 52SK24 6層      | 12.0    | 4.5  | 0.4 |           | 93/108 |    |
| 5254 | 木片   | 52SK24 8層      | 8.5     | 7.0  | 2.0 |           | 93/108 |    |
| 5255 | 経材?  | 52SK24 4層      | 33.0    | 8.5  | 8.0 | クリ        | 93/108 |    |
| 5256 | 経材?  | 52D106黒色部分     | 25.0    | 8.0  | 3.0 | クリ        | 93/108 |    |
| 5257 | へら   | 52S B25 (P866) | 70.0    | 13.0 | 2.0 | 天然の樹 材 丹波 | 93/108 |    |
| 5258 | 木片   | (P1009)埋土      | 8.0     | 2.5  | 2.5 | スギ        | 93/108 |    |

表28 木製品観察表 (3)

| 番号   | 器種   | 出土位置            | 色調            | 図録     | 写真 | 番号   | 器種     | 出土位置           | 色調                     | 図録     | 写真 |
|------|------|-----------------|---------------|--------|----|------|--------|----------------|------------------------|--------|----|
|      |      |                 |               |        |    |      |        |                |                        |        |    |
| 6002 | 磁石   | P372埋土          | 時期不詳          | 95/111 |    | 6018 | 瓦器?    | 52SE8 6層       | 光輝の量か 12Cのもの           | 95/112 |    |
| 6003 | 磁石   | P498埋土          | 時期不詳          | 95/111 |    | 6019 | 土師器    | 76-61 検出時      | 器種、時期不詳                | 95/112 |    |
| 6004 | 磁石   | P534埋土          | 時期不詳          | 95/111 |    | 6020 | ?      | 52SD26埋土       | 穿孔のあきつたおひら片            | 95/112 |    |
| 6005 | 磁石   | 52SD24埋土        | 時期不詳          | 95/111 |    | 6021 | おひら片   | 52SD6埋土(64-60) | 時期不詳                   | 95/112 |    |
| 6006 | 磁石   | 52SD24埋土        | 時期不詳          | 95/111 |    | 6022 | 湖口     | 52SD26埋土       | 12Cのもの                 | 95/112 |    |
| 6007 | 磁石   | 52SD26埋土        | 12Cのもの        | 95/111 |    | 6023 | 湖口     | P732 柱痕        | 17~18Cのものか 詳細不明        | 95/112 |    |
| 6008 | 磁石   | 52SD27埋土        | 時期不詳          | 95/111 |    | 6024 | キセル    | 61-60 検出時      | 古寛水                    | 95/112 |    |
| 6009 | 石なべ  | 52SD26埋土(59-56) | 滑石製 12Cのもの    | 95/112 |    | 6025 | 寛水通寶   | 71-62 検出時      | 古寛水か 觀賞美しい             | 95/112 |    |
| 6010 | 滑石片  | P927埋土          | 滑っている 石なべ片か   | 95/112 |    | 6026 | 札      | 52SK24 6層      | 85 ×43 厚さ 11.8g(保存処理後) | 96/113 |    |
| 6011 | 不明石片 | 52SE1 7層        | 浮彫りのある石片      | 95/112 |    | 6027 | 札      | 52SK24 6層      | 79 ×42 厚さ 22.2g(保存処理後) | 96/113 |    |
| 6012 | 穿孔石  | 52SE1 2層        | 自然石に穴がある      | 95/112 |    | 6028 | 札      | 52SK24 6層      | 86 ×42 厚さ 14.8g(保存処理後) | 96/113 |    |
| 6013 | 須恵器  | 52SD31埋土        | へら切り 9Cのものか   | 95/112 |    | 6029 | 書札かおひら |                |                        |        |    |
| 6014 | 須恵器? | 52SD26埋土(59-56) | 軟質な焼成 長脚盤か    | 95/112 |    | 6030 | 書札かおひら |                |                        |        |    |
| 6015 | 土師器  | 52SD26埋土        | 長脚盤 9Cのものか    | 95/112 |    |      |        |                |                        |        |    |
| 6016 | 土師器  | 52SD26埋土(59-59) | 長脚盤 9~10Cのものか | 95/112 |    |      |        |                |                        |        |    |

表29 石製品・札等観察表

## 第IV章 まとめ

### 1 遺構

今回検出された遺構は、12世紀と近世以降のものに2大別される。まず、12世紀の遺構を列挙する。

掘立柱建物 6棟 (52SB14、52SB18、52SB19、52SB21、52SB25、52SB26)。井戸状遺構 5基 (52SE1、52SE7、52SE8、52SE9、52SE10)。土坑21基 (52SK1、52SK9、52SK10、52SK11、52SK12、52SK13、52SK14、52SK21、52SK22、52SK24、52SK25、52SK28、52SK29、52SK30、52SK31、52SK32、52SK33、52SK35、52SK35、52SK36、52SK37、52SK38)。竪穴遺構1基 (52S11)。溝8条 (52SD10、52SD14、52SD25、52SD26、52SD29、52SD30、52SD31、52SD32)。堀跡2条 (52SA1、52SA2)。

これらの12世紀の遺構は、12世紀初頭から1189年の平泉滅亡までの中で順次変遷しているが、その具体的な時期を示すには、今次のみならず、堀内部地区の遺構全体を考慮に入れ検討する必要がある。しかし現段階ではその検討はまだまだ不十分である。よって個々の所属時期を示すことはここでは行わない。

今回の12世紀の遺構で重要な知見が得られた遺構を示す。52SB25 これまで認知されていた中心域とは異なる地点(約50m北)から検出された大型建物である。建物の規模はこれまでの中心建物と遜色がなく、ある段階で堀内部地区の中心域が北側に移動したことを示している。その時期は12世紀第3四半期後半、第4四半期の頃と推測される。52SE8 多量の遺物が出土した井戸である。かわらけ、木製品、穴あき石が注目される。9層出土の折敷は年輪年代測定で1186年伐採の年代が得られている。遺構の年代、供伴した遺物の年代を知る上でこの上ない貴重な成果である。供伴したかわらけは数も豊富で、平泉最末期の基準資料になり得る資料である。52SE10 埋土から12世紀第1四半期のかかわりが一括状態で出土した。これによって柳之御所遺跡堀内部地区の遺構展開が12世紀第1四半期までさかのぼることが明らかになった。これはこれまでの柳之御所遺跡の年代観を修正する結果である。52SCI (52SD29、52SD30) 52SD29、30が対になる側溝で、道路遺構を形成している。この道路は残存状態が悪いが、高館の堀を通り中尊寺に至る道の一部分と考えられる。そしてこの道路状遺構より新しい12世紀の遺構(52SB25など)と、それよりも古い12世紀の遺構(52SE7など)が存在する。これは、堀内部地区で何度か大規模な改修が行われたことを示している。堀内部地区の構造変遷を知る上で大きな鍵となる遺構である。52SD26 52次調査区の西端で検出された溝で、堀内部地区をさらに区画する溝と考えられる。溝は古段階と新段階に分けられる。古段階は幅広の溝で、新段階ではそれを埋め、再び掘り返し幅の狭い溝に作り変

えられている。新段階の溝は古段階の溝の幅の範囲内で屈曲し、張り出し部分を形成している。溝全体は調査区北端で向きを東側に転じ始め、調査区外に続いて行く。溝の構築時期ははっきりしないが、新段階の溝の廃絶は平泉滅亡時の1189年と推測される。

**近世の遺構** 今回の調査区からは中世末から近世にかけての遺構が多数検出された。掘立柱建物20棟、井戸状遺構5基、土坑17基、溝24条である。この中の多くは中世末～近世前半にかけての遺構で、近世後半、あるいは近代以降の遺構は少ない。掘立柱建物の重複は4ヶ所のまとまりに分けられるが、各々は10～20m離れて存在している。いずれ重複のまとまりも16世紀～17世紀にかけて営まれたものと推測される。そして井戸や溝の多くはこれらの掘立柱建物に伴うものと考えられる。建物の一つのまとまりには4回ほどの重複があるが、これはほぼ同じ位置に建替えを繰り返したことを示している。よって、約10～20m離れて約4ヶ所建物のまとまりがあるという景観が16～17世紀にかけて連続的に存在していたことが想定される。これらの建物は農民の民家の主屋と付随する付属屋と考えられる。これら各々の建物のまとまりは非常に近接しており、それぞれが独立した屋敷ではなく、全体で一つのまとまりを有する屋敷と解釈するのが妥当であろう。建物の中には中間的な規模の建物もあり、主屋か付属屋か分類が難しい建物もあるが、全体のまとまりの中には複数の主屋が存在していたということになる。この形態は直系家族に加え傍系家族や隷属する使用人が同居する「複合家族構成」の屋敷と解釈できる。複合家族構成の家は近世前半に多くみられ、近世後半には単純家族構成の家が多くなる傾向があるという。今次調査区の近世屋敷もその年代は近世後半に下らず、この傾向と合致する。また近世前半の複合家族構成の屋敷は持高が多い特徴がある。今次調査区でも志野織部の皿や、肥前産の染付や青磁が多数出土しており、財力の豊かさ、即ち持高の多さを示していると見て取れる。このように今次調査区で検出された屋敷は中世末～近世前半の「複合家族形態」の屋敷の実例とすることができる。そしてこの屋敷は近世後半に存続していない。これは屋敷が廃絶したとするよりも、複合家族形態が解体して、単純家族構成になり、それぞれが他地点に移動し、屋敷を構えたと解釈するべきであろう。

## 2 遺物

出土遺物も遺構と同様に12世紀のものと同世（中世末も含む）のものに分けられる。また微量に古代（9～10世紀）の遺物もある。

**12世紀の遺物** 手づくねかわらけ（大型、小型、内折れ）、ロクロかわらけ（大型、小型、柱状高台、大型高坏）、国産陶器（常滑産、渥美産、須恵器系、水沼産）、中国産陶磁器（白磁、青磁、青白磁、陶器）、瓦（軒丸、軒平、丸瓦、平瓦）、木製品（折敷、扇、櫛、）、チュウ木、部材、その他）、穴あき石、砥石、石鏡、羽口、鋳の札、墨書のあるかわらけ片 近世の遺物（一部中世含む） 陶器（肥前産、瀬戸・美濃産、大

堀相馬産、在産)、磁器(中国産、肥前産)、寛永通寶、煙管など。

12世紀の遺物 今次調査のかわらけで最も注目されるのは、52SE10出土の12世紀第1四半期のかわらけである。このかわらけの出土により柳之御所遺跡堀内部地区の遺構展開の開始が12世紀第1四半期になることが明らかになった。大型、小型、柱状高台、大型の高坏型からなるセットである。この中で注目されるのは大型の高坏型の器種である。これは平泉遺跡群内でも例のない器種であり、これを使用した儀礼の特殊性、権威高さを推測させるものである。

52SE7のかわらけはロクロ製品のみで構成されており、手づくねかわらけ導入以前の時期のものと考えられる。手づくねかわらけの導入時期を考える上で重要な資料になり得る。

52SE8からは手づくねかわらけが多量に出土した。これらは口径が小さく平泉滅亡の1189年に非常に近い時期のものと推測される。供伴した折敷の年輪年代が1186年でありその年代観を裏付けている。平泉最末期の指標になるかわらけの一群である。ロクロかわらけの胎土の手づくねかわらけが存在しており、ロクロ工人が手づくね工人に吸収される過程を示す可能性がある。

国産陶器は52次調査区から非常に多量に出土した。しかし多くの破片は近世以降の遺構からの出土であり、本来今次調査区に存在していた個体とは考え難い。これは今次調査区に隣接する場所が原位置であった陶器が、破片となって土砂とともに今次調査区に移動してきた可能性が高い。隣接地に陶器焼類を集積する施設が存在した可能性がある。

中国産磁器の出土量はそれほど多くない。その一方、中国産陶器は平泉での希少性を考えるとその出土量は非常に多いことを指摘できる。中国陶器の出土状況は国産陶器の出土状況と同様であり、上記の国産陶器の集積に中国産陶器も含まれている可能性が考えられる。

瓦の出土量はこれまでの調査次に比較すると割合に多い量といえる。様々な胎土、質感、色調の瓦が存在するが、その中で2種類のもの量が多く目立つ。その2種類は胎土、質感のみならず、厚さ、タタキの縄の太さ、「離れ砂」の有無など多数の点で相違があり、明らかに製作工人または製作時期の違いが存在している。各々の種類の瓦は出土遺構にまとまりがあり、供伴するかわらけの形態から時間的な差異がある可能性が高い。そうすれば、柳之御所遺跡堀内部地区において、瓦を葺く、又は葺き替える画期が少なくとも2回存在していたということになる。

木製品は52SE8から多量に出土した。折敷、扇の骨、形代、櫛など様々な種類のものがあるが、種類を分類できない木片も多く存在する。折敷の年輪年代では1186年伐採の結果が得られており、遺構の年代、遺物の年代を知る上で良好な資料である。

その他に特異な遺物として、貝の巣穴のある粘板岩「穴あき石」がある。庭園の泉石に使用された可能性



が高い。また、鋳の鉄製の札も平泉遺跡群では初めての出土である。

近世の遺物 近世の陶磁器が出土している。注目されるのは17世紀前半代の肥前産磁器がまとまった量出土している点である。これまで平泉町内でも17世紀前半に存在した屋敷の調査は数地点で行われているが、肥前産磁器の出土量は非常に少ない状況である。肥前産磁器の量から、当該区に居住していた者の格の高さが想定される。肥前産磁器の他にも41次調査で志野織部の皿など出土しており、肥前産磁器の導入以前の陶磁器にも優品が存在する。

### 3 まとめ

52次調査では、これまでの柳之御所観を覆すような2つの新事実が明らかになった。1点目は柳之御所遺跡の遺構展開の開始が12世紀第1四半期までさかのぼることである。2点目は柳之御所遺跡場内部地区の中心建物がある段階で北側に移動したということである。この2点の新事実を踏まえて、遺構の変遷、性格付けの再度の検討がせまられる状況になった。しかし、逆に言えば、この新事実が明らかになったことは、柳之御所遺跡の内容解明において新しい段階に到達したとも言えるのである。いずれにせよ、これから検討し、明らかにしなければならないことはまだまだ多い。継続的な地道な調査が必要である。

## 第V章 付篇

### 1 柳之御所遺跡出土銅印の素材について

国立歴史民俗博物館 永嶋 正春

標記の銅印について、非破壊的な蛍光X線分析並びに密度測定を実施した。

#### (1) 蛍光X線分析結果

重元素系について、真空中で測定した。検出された元素は下記の通りである。

|       |      |       |
|-------|------|-------|
| 銅     | (Cu) | (100) |
| ヒ素    | (As) | 4.8   |
| スズ    | (Sn) | 0.90  |
| 鉛     | (Pb) | 0.45  |
| 銀     | (Ag) | 0.25  |
| アンチモン | (Sb) | 0.20  |
| 鉄     | (Fe) | 0.20  |
| ビスマス  | (Bi) | 0.03  |

他

※ 右側の数値は、各々の元素の最強強度を示すピークの高さの値が、銅のそれに対して何%になっているかを示した相対的な強度比である。

以上の結果から、本銅印の素材は概ね、銅とヒ素からなる青銅質合金といえよう。ただし、少量含まれているスズと鉛についての評価は即断し難い。すなわち、本銅印製造時にスズと鉛をわざわざ加えたのか、あるいは何らかの事情で銅等のなかに元々存在したのかについては現時点では判断できない。なお、銀、アンチモン、ビスマス等については、銅中に汚れた的に存在したものと理解してよい。

#### (2) 密度測定結果

浮力法により密度を測定した。

|       |                        |
|-------|------------------------|
| 銅印の質量 | 167.2749 g             |
| 銅印の体積 | 20.97cm <sup>3</sup>   |
| 銅印の密度 | 7.98 g/cm <sup>3</sup> |

結果は以上の通りである。



背面 (2)



背面 (1)



背面天側 斜め



印面



印面



背面 斜め



背面 斜め



背面 部分 斜め



背面天側部分 斜め



背面 (下欠)



印面 (上欠)



印面 横斜め



印面 斜め



印面「上」



背面「上」



背面 細部 (1)



背面 細部 (2)



印面 部分



印面 部分 斜め

## 2 柳之御所遺跡から出土した木製品の樹種

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

柳之御所遺跡は北上川西岸の河岸段丘上に位置し、これまでの発掘調査の成果から、奥州藤原氏三代秀衡に関わりのある平泉館跡と考えられている。今回の発掘調査では、12世紀の掘立柱建物跡、井戸状遺構、溝状遺構、土坑、道路跡、竅穴状遺構などが検出されている。このうち52SE8井戸状遺構からは、大量の土壁や木製品が出土しており、ゴミ穴として利用されたことがうかがえる。

本報告では、井戸状遺構等から出土した木製品の樹種同定を行い、当時の用材に関する資料を得る。

### 1 試料

試料は、出土した木製品40点（試料番号1~40）である。各試料の詳細は、樹種同定結果とともに表1に記した。

### 2 方法

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柘目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレバートを作製する。作製した、プレバートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

### 3 結果

樹種同定結果を表1に示す。木製品は、針葉樹4種類（スギ・ヒノキ・サワラ・アスナロ）、広葉樹7種類（カバノキ属・クリ・ケヤキ・モクレン属・イスノキ・カエデ属・?）に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don)  
スギ科スギ属

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞がほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、1分野に2~4個。放射組織は単列、1~15細胞高。

・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher)  
ヒノキ科ヒノキ属

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか〜やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はヒノキ型〜トウヒ型で、1分野に1~3個。放射組織は単列、1~15細胞高。

表1 樹種同定結果

| 試料番号 | 遺物番号 | 部 種   | 遺物名         | 層 位  | 樹 種   |
|------|------|-------|-------------|------|-------|
| 1    | 5007 | 塗器柄   | 52SE8       | 9層下部 | ケヤキ   |
| 2    | 5008 | 塗器柄   | 52SE8       | 7層   | ケヤキ   |
| 3    | 5009 | 折敷    | 52SE8       | 9層下部 | スギ    |
| 4    | 5010 | 折敷    | 52SE8       | 9層下部 | スギ    |
| 5    | 5011 | 折敷    | 52SE8       | 10層  | スギ    |
| 6    | 5012 | 折敷    | 52SE8       | 9層下部 | スギ    |
| 7    | 5018 | 折敷    | 52SE8       | 9層   | スギ    |
| 8    | 5020 | 折敷    | 52SE8       | 9層下部 | スギ    |
| 9    | 5049 | 動物の歯板 | 52SE8       | 9層   | ヒノキ   |
| 10   | 5053 | 頤の骨   | 52SE8       | 6層   | スギ    |
| 11   | 5054 | 頤の骨   | 52SE8       | 9層下部 | スギ    |
| 12   | 5055 | 歯     | 52SE8       | 9層下部 | イスノキ  |
| 13   | 5056 | 歯     | 52SE8       | 9層   | イスノキ  |
| 14   | 5057 | 刀子の柄  | 52SE8       | 9層下部 | サワラ   |
| 15   | 5058 | 刀子の柄  | 52SE8       | 9層下部 | スギ    |
| 16   | 5062 | 杓子    | 52SE8       | 9層   | スギ    |
| 17   | 5063 | 木碗    | 52SE8       | 9層下部 | カエデ属  |
| 18   | 5086 | 部材    | 52SE8       | 9層下部 | クリ    |
| 19   | 5089 | 形代    | 52SE8       | 10層  | ヒノキ   |
| 20   | 5091 | 部材    | 52SE8       | 9層   | モクレン属 |
| 21   | 5092 | 部材    | 52SE8       | 9層下部 | スギ    |
| 22   | 5095 | 不明部材  | 52SE8       | 9層   | スギ    |
| 23   | 5097 | 不明部材  | 52SE8       | 10層  | ヒノキ   |
| 24   | 5102 | 部材    | 52SE8       | 9層下部 | クリ    |
| 25   | 5103 | 木片    | 52SE8       | 9層下部 | クリ    |
| 26   | 5104 | 部材    | 52SE8       | 9層下部 | クリ    |
| 27   | 5105 | 板     | 52SE8       | 9層下部 | スギ    |
| 28   | 5179 | 木片    | 52SE8       | 10層  | クリ    |
| 29   | 5180 | 木片    | 52SE8       | 7層   | クリ    |
| 30   | 5186 | 不明    | 52SE8       | 7層   | クリ    |
| 31   | 5188 | 棒状製品  | 52SE8       | 7層   | 不明    |
| 32   | 5204 | 動物歯板  | 52SE9       | 9層   | サワラ   |
| 33   | 5234 | ちゅう木  | 52SK11      | 5層   | サワラ   |
| 34   | 5239 | ちゅう木  | 52SK11      | 6層   | アスナロ  |
| 35   | 5240 | ちゅう木  | 52SK11      | 7層   | スギ    |
| 36   | 5242 | ちゅう木  | 52SK11      | 7層   | スギ    |
| 37   | 5255 | 部材?   | 52SK24      | 4層   | クリ    |
| 38   | 5256 | 部材?   | 52SD26      | 黒色部分 | クリ    |
| 39   | 5257 | へら    | 52SE8(P866) | 柱状底面 | カバノキ属 |
| 40   | 5236 | 物差し   | 52SK11      | 5層   | スギ    |

※ 遺物番号は本文観察表と同一である。

・サワラ (*Chamaecyparis pisifera* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はスギ型～ヒノキ型で、1分野に1～3個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・アスナロ (*Thuopsis dolabrata* Sieb. et Zucc.) ヒノキ科アスナロ属

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。晩材部付近に樹脂油脂が認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はスギ型～ヒノキ型で、1分野に1～4個。放射組織は単列、1～15細胞高。

・カバノキ属 (*Betula*) カバノキ科

試料は保存状態が悪い。散孔材で、管孔は放射方向に2～4個が複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状～交互状に配列する。放射組織は同性、1～4細胞幅、1～30細胞高。柔組織はターミナル状および散在状～短接線状。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圍部は1～4列。孔圍外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火災状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圍部は1～2列。孔圍外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列。小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性「型」、1～10細胞幅、1～60細胞高。放射組織の上下縁辺部にしばしば結晶細胞が認められる。

・モクレン属 (*Magnolia*) モクレン科

散孔材で、管壁厚は中庸～薄く、横断面では角張った楕円形～多角形、単独および2～4個が放射方向に複合して散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性「型」、1～2細胞幅、1～40細胞高。

・イスノキ (*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.) マンサク科イスノキ属

散孔材で、道管は横断面では多角形、ほとんど単独で散在する。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性「型」、1～3細胞幅、1～20細胞高。柔組織は独立帯状または短接線状でほぼ等間隔に配列する。道管および柔細胞内に黒色物質が認められる。

・カエデ属 (*Acer*) カエデ科

散孔材で管壁は薄く、横断面は角張った楕円形、単独および2～3個が複合して散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～5細胞幅、1～30細胞高。細胞壁の厚さが異なる2種類の木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

・ハイノキ属サワタギ節 (*Symplocos* sect. *palura*) ハイノキ科

散孔材で小径の道管が単独または2～5個が複合して配列し、年輪界付近で径を減じる。道管は階段穿孔を有し、対列状～階段状となる。放射組織は異性「型」、1～2細胞幅、1～20細胞高で、時に上下に連結する。

#### 4 考察

樹種同定を行った木製品は、容器類（漆器碗、曲物）、櫛、折敷、ちゅう木等の生活用具や、何らかの部材、用途不明木製品等である。各遺構・層位・用途別の種類構成を、表2に示す。

最も試料が多い52SE8では、6層、7層、9層、10層から木製品が出土している。このうち、折敷は、9層と10層で出土しているが、いずれもスギであり、層位による樹種の違いは見られない。同様の結果は、6層と9層から出土した扇の骨にもみることができる。これらの結果から、折敷や扇の骨にはスギが選択的に利用されていたことが推定される。スギは、この他にも刀子の鞘、杓子などの木製品や、板、部材等にも認められている。また、52SK11の5～7層から出土したちゅう木や物差しにもスギが多く見られ、様々な用途に利用されていることがうかがえる。スギ材は、割裂性が高く、板や角材への加工が容易であり、広葉樹に比較して比重も軽い。これらの材質と、大木が得られること等が身の回りの様々な木製品や部材等に利用された背景に考えられる。

また、7層、9層、10層から出土した木片は、用途などの詳細は不明であるが、いずれもクリであった。また、9層から出土した部材にもクリが多く見られ、木片と同様の用材がみられる。同様の結果は、52SD26と52SK24の部材？にもみられる。クリ材の材質を考慮すれば、強度や耐朽性を必要とする用途に利用されたことが推定される。

容器類のうち、7層と9層から各1点出土した漆器碗は、ともにケヤキであった。漆器碗の本地としては、ケヤキ、ブナ属、トチノキなどが一般的な種類であり、遺跡からの出土例も多数知られている（島地・伊東、1988；伊東、1990）。民俗事例では、ケヤキは靱性が強く薄手物に適するとされる（橋本、1979）。今回の結果は、民俗事例とも一致しており、適材を選択していたことがうかがえる。

一方、9層から出土した曲物の底板は、針葉樹のヒノキであった。52SE9から出土した曲物側板もヒノキ属のサワラが利用されており、同様の用材がみられ、ヒノキ属の利用についても民俗事例（成田、1996）との一致がみられる。ヒノキ属が利用された背景には、薄い板の加工が容易であること、耐水性・防虫性に優れていること等の材質が考慮されたものと考えられる。

本遺跡では、これまでも木製品の樹種同定が行われている（能城・高橋、1996）。それによると、スギが折敷、ちゅう木、箸などに多く利用される一方で、建築材、板、部材（角材・割材）にはクリ、漆器碗にはケヤキがそれぞれ多く見られる。この結果は、今回の結果とも一致しており、同様の用材がうかがえる。また、今回の調査では確認できなかったが、能城・高橋（1996）では、曲物にもスギが多く利用されており、ヒノキ属の利用は少ない。しかし、調査点数が少ないため、これが時代時期や遺構による用材の違いを示したものは不明である。

表2 木製品の遺構別・層位別・用途別種類構成

| 遺構・層位・器種           | 樹種  |       |     |      |       |    |     |       |      |       | 合計 |   |   |     |
|--------------------|-----|-------|-----|------|-------|----|-----|-------|------|-------|----|---|---|-----|
|                    | スギ  | ヒノキ   | サワラ | アスナロ | カバノキ属 | クリ | ケヤキ | モクレン属 | イロハキ | カマキリ属 |    |   |   |     |
| 52SR25 (P866) 柱穴底面 |     | ヘラ    |     |      | 1     |    |     |       |      |       | 1  |   |   |     |
| 52SD26 黒色部分        |     | 部材?   |     |      |       | 1  |     |       |      |       | 1  |   |   |     |
| 52SE8              | 6層  | 扇の骨   | 1   |      |       |    |     |       |      |       | 1  |   |   |     |
|                    | 7層  | 漆器碗   |     |      |       |    |     | 1     |      |       |    | 1 |   |     |
|                    |     | 棒状製品  |     |      |       |    |     |       |      |       | 1  | 1 |   |     |
|                    |     | 木片    |     |      |       |    | 1   |       |      |       |    | 1 |   |     |
|                    |     | 不明    |     |      |       |    |     | 1     |      |       |    | 1 |   |     |
|                    | 9層  | 板     | 1   |      |       |    |     |       |      |       |    | 1 |   |     |
|                    |     | 扇の骨   | 1   |      |       |    |     |       |      |       |    | 1 |   |     |
|                    |     | 折敷    | 5   |      |       |    |     |       |      |       |    | 5 |   |     |
|                    |     | 刀子の鞘  | 1   | 1    |       |    |     |       |      |       |    | 2 |   |     |
|                    |     | 櫛     |     |      |       |    |     |       | 2    |       |    | 2 |   |     |
|                    |     | 漆器碗   |     |      |       |    |     | 1     |      |       |    | 1 |   |     |
|                    |     | 杓子    | 1   |      |       |    |     |       |      |       |    | 1 |   |     |
|                    | 部材  | 2     |     |      |       | 3  | 1   |       |      |       | 6  |   |   |     |
|                    | 10層 | 曲物の底板 |     | 1    |       |    |     |       |      |       | 1  | 1 |   |     |
|                    |     | 木植    |     |      |       |    |     |       | 1    |       |    | 1 |   |     |
|                    |     | 木片    |     |      |       |    | 1   |       |      |       |    | 1 |   |     |
|                    |     | 折敷    | 1   |      |       |    |     |       |      |       |    | 1 |   |     |
| 52SE9              | 9層  | 曲物側板  |     | 1    |       |    |     |       |      |       | 1  |   |   |     |
|                    | 5層  | ちゅう木  |     | 1    |       |    |     |       |      |       | 1  |   |   |     |
| 52SK11             | 6層  | ちゅう木  |     |      | 1     |    |     |       |      |       | 1  |   |   |     |
|                    | 7層  | ちゅう木  |     |      |       | 2  |     |       |      |       | 2  |   |   |     |
|                    | 木片  |       |     |      |       |    | 1   |       |      |       | 1  |   |   |     |
| 52SK24             | 4層  | 部材?   |     |      |       |    | 1   |       |      |       | 1  |   |   |     |
| 52SK11             | 5層  | 物差し   | 1   |      |       |    |     |       |      |       | 1  |   |   |     |
| 合計                 |     |       | 16  | 3    | 3     | 1  | 1   | 9     | 2    | 1     | 2  | 1 | 1 | 140 |

引用文献

橋本鉄男 (1979) ろくろ. 444p., 法政大学出版局.

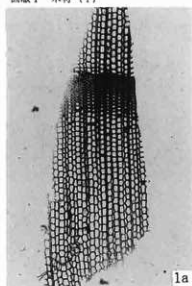
伊東隆夫 (1990) 日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途 I. 木材研究・資料, 26, p. 91-189, 京都大学木材研究所.

成田壽一郎 (1996) 曲物・箆物. 205p., 理工学社.

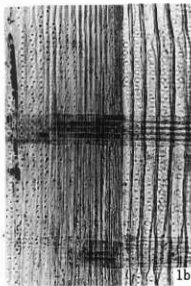
能城修一・高橋 敦 (1996) 中・近世における木材利用. 第11回植生史学会大会シンポジウム「中世・近世の植生史」発表要旨, p. 7-11.

島地 謙・伊東隆夫編 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧. 296p., 鎌山閣.

図版1 木材 (1)



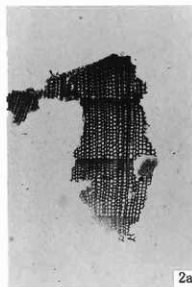
1a



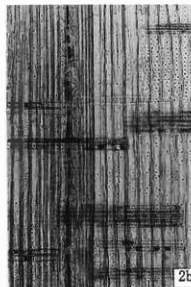
1b



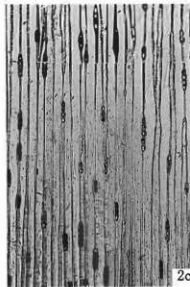
1c



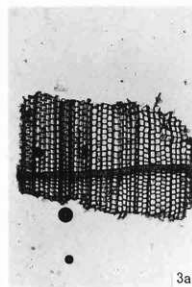
2a



2b



2c



3a



3b



3c

1. スギ (試料番号36)

2. ヒノキ (試料番号23)

3. サワラ (試料番号14)

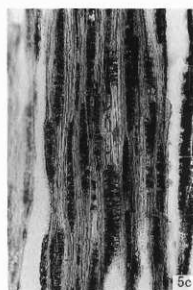
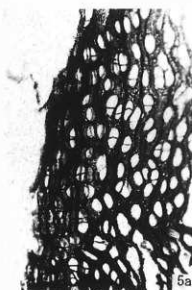
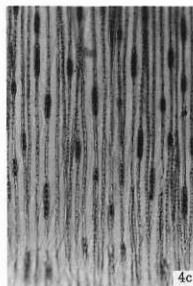
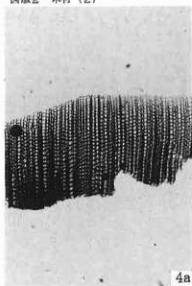
a: 木口, b: 年目, c: 板目

200  $\mu$ m: a

200  $\mu$ m: b, c



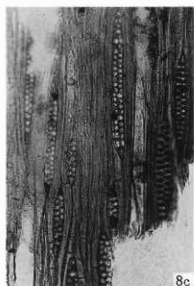
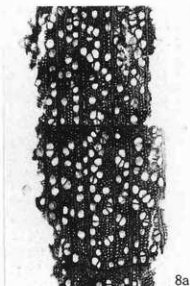
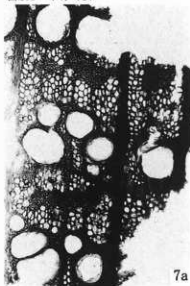
図版2 木材(2)



4. アスナロ (試料番号34)  
5. カバノキ属 (試料番号39)  
6. クリ (試料番号18)  
a : 木口, b : 柁目, c : 板目

200  $\mu$ m : a  
200  $\mu$ m : b, c

図版3 木材 (3)



7. ケヤキ (試料番号1)

8. モクレン (試料番号20)

9. イスノキ (試料番号12)

a : 木口, b : 柎目, c : 板目

200  $\mu$ m : a  
200  $\mu$ m : b, c